

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第13集

内牧城跡・城山古墳 キヨウダイヤト遺跡

第二東名 No.69・70 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

静岡市－3

2012

中日本高速道路株式会社東京支社
静岡県埋蔵文化財センター

序

内牧城跡・城山古墳・キヨウダイヤト遺跡は静岡市の安倍川中流域西岸に所在しており、第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、日本道路公団静岡建設局（現中日本高速道路株式会社東京支社）の委託により平成9年から12年にかけて現地調査を実施しました。

内牧城跡は南北朝期に南朝方の狩野氏が整備した城館跡として知られています。今回の調査では丘陵の地形測量により急峻な斜面の詳細な地形が把握され、要害性を示すものとして評価されました。城に直接関係すると思われる遺構や遺物の存在を明確に確認することはできず、南北朝期の城のあり方を改めて問い合わせきっかけとなりました。

内牧城跡の南東側尾根末端では、横穴式石室を主体部とする古墳の存在が確認されました。安倍川中流域では古墳時代後期の横穴式石室を持つ古墳が複数存在することが知られていましたが、これまでに本格的な調査はほとんど行われておらず、その一つの残存状況が明らかになった点で非常に有意義な成果となりました。

キヨウダイヤト遺跡では、奈良・平安時代を中心とした掘立柱建物・土坑・小穴が検出され、淨瓶・瓦鉢・円面硯等を含む大量の須恵器・土師器が出土しました。中でも仏具の淨瓶は県内での出土例が非常に少なく、貴重な資料として注目されます。安倍川中流域では奈良・平安時代の遺跡がこれまでほとんど見つかっておらず、静岡市域における律令期の様相を把握する上で極めて興味深い発見となりました。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、現地調査及び資料整理並びに本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2012年3月

静岡県埋蔵文化財センター所長

勝田順也

例　　言

- 1 本書は静岡県静岡市葵区内牧に所在する内牧城跡・城山古墳・キヨウダイヤト遺跡（第二東名No.69・70地点）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は第二東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公团静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課（旧静岡県教育委員会文化課）の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度は静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。
- 3 内牧城跡・城山古墳・キヨウダイヤト遺跡（第二東名No.69・70地点）の確認調査・本調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。
- (1) No.69地点（キヨウダイヤト遺跡）
確認調査（その1）：平成9年11月・平成10年5月
確認調査（その2）：平成10年7月
確認調査（その3）：平成11年3月
確認調査（その4）：平成11年6月～10月
確認調査（その5）：平成12年4月～6月
本調査：平成11年11月～12月
資料整理・報告書作成：平成22年10月～平成24年3月
- (2) No.70地点（内牧城跡・城山古墳・キヨウダイヤト遺跡）
確認調査：平成9年10月～12月（地形測量）
本調査Ⅰ期：平成9年11月～平成10年3月
本調査Ⅱ期：平成10年2月～3月
本調査Ⅲ期：平成10年4月～7月
本調査Ⅳ期：平成11年8月
本調査Ⅴ期：平成11年10月～平成12年3月
資料整理・報告書作成：平成22年10月～平成24年3月
- 4 本書の執筆は常勤嘱託員五味奈々子が行った。
- 5 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
- 6 現地での基準点測量、地形測量、空中写真撮影及び遺構測量の一部は中日本航空株式会社に委託した。
- 7 資料整理は株式会社パソナに委託した。
- 8 本書の作成にあたっては、以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。
井上喜久男、河合修、篠原和大、濱谷昌彦、平野吾郎、福島志野（五十音順・敬省略）
- 9 発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第VII系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。
- 2 本書で使用した遺構の表記は次のとおりである。

例) SK16 (SK: 遺構の種別 16: 遺跡内の遺構種別通し番号)
SB: 挖立柱建物跡 SD: 溝状遺構 SK: 土坑 SR: 流路
SX: 性格不明遺構 SP: 小穴
- 3 遺構図、遺物実測図の縮尺はそれぞれの図版に明記した。
- 4 遺物番号は、遺跡・器種ごとに通し番号を付している。
- 5 色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色帳」(農林水産省技術会議事務局監修1992)を使用した。
- 6 本書の図中に用いたスクリントーンなどの使い分けについては、必要なものを各図の中で表記している。



目 次

序／例言／凡例／目次

第1章 位置と環境	1
第1節 位置と地理的環境	1
第2節 歴史的環境と調査歴	1
第2章 確認調査	5
第1節 調査の体制	5
第2節 No.69地点	5
第3節 No.70地点	7
第3章 内牧城跡・城山古墳	10
第1節 調査の方法と経過	10
1 発掘調査の方法と経過	10
2 資料整理の方法と経過	10
第2節 概 要	10
1 地 形	10
2 遺構・遺物の概要	12
第3節 城山古墳の調査成果	12
1 墳丘と周溝	12
2 埋葬施設	12
3 出土遺物	16
第4章 キョウダイヤト遺跡	17
第1節 調査の方法と経過	17
1 発掘調査の方法と経過	17
2 資料整理の方法と経過	18
第2節 概 要	18
1 地 形	18
2 遺構・遺物の概要	18
第3節 B区の遺構と遺物	19
1 B区の土層	19
2 B区検出遺構	19
3 B区出土遺物	37
第4節 F区の遺構と遺物	48
1 F区の土層	48
2 F区検出遺構	49
3 F区出土遺物	66

第5節 G区の遺構と遺物	72
1 G区の土層	72
2 G区検出遺構	72
3 G区出土遺物	75

第5章 まとめ	85
第1節 内牧城跡について	85
第2節 城山古墳について	85
第3節 キョウダイヤト遺跡について	86

写真図版

抄録

挿図目次

第1図 安倍川中流域の地質	2
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図	4
第3図 No.69地点確認調査試掘坑配置図	6
第4図 No.70地点確認調査トレンチ・ 試掘坑配置図	8
内牧城跡・城山古墳	
第5図 グリッド配置図と本調査区	11
第6図 D区全体図	13
第7図 城山古墳石室展開図	14
第8図 城山古墳石室掘方実測図	15
第9図 D区出土遺物	16
キョウダイヤト遺跡	
第10図 B-1区・B-3区土層断面図	20
第11図 B-2区土層断面図	21
第12図 B-1区1面全体図	22
第13図 SK1102平面図・断面図	23
第14図 B-1区2面全体図	26
第15図 SK1201平面図・断面図	27
第16図 SK1202・1203平面図・断面図	28
第17図 B-2区1・2面全体図	29
第18図 SB1201平面図・断面図	30
第19図 SB1202平面図・断面図	31
第20図 SK1204平面図・断面図	32
第21図 B-2区3面全体図	34
第22図 B-2区4面全体図	35
第23図 SK1401~1403平面図・断面図	36
第24図 B-3区全体図	37
第25図 SK1102・1104、SP1102、 SK1201・1203出土土器	38
第26図 SK1202出土土器	39
第27図 SK1204出土土器	40
第28図 SK1209・1210、SX1201、 SP1203・1207出土土器	42
第29図 SK1303・1306・1307、SP1303 出土土器	43
第30図 SK1401~1403出土土器	44
第31図 B区遺構外出土土器1	45
第32図 B区遺構外出土土器2	46
第33図 B区遺構外出土土器3	47
第34図 B区出土金属製品	48
第35図 F区南壁・中央土層断面図	50
第36図 F区北壁土層断面図	51
第37図 F区1面全体図	52
第38図 F区2面全体図	53
第39図 SK2201平面図・断面図	54
第40図 SP2203・2204・2206 平面図・断面図	55
第41図 F区3面全体図	56
第42図 SD2301平面図・断面図	57
第43図 SK2301平面図・断面図	58
第44図 SK2302平面図・断面図	59
第45図 SX2301、SP2301平面図・断面図	60
第46図 F区4面全体図	61
第47図 SB2401平面図・断面図	62
第48図 SB2402平面図・断面図	63
第49図 SK2401・2402平面図・断面図	64
第50図 SK2403・2404、SX2401 平面図・断面図	65
第51図 F区遺構内出土土器	67
第52図 F区遺構外出土土器1	68
第53図 F区遺構外出土土器2	69
第54図 F区遺構外出土土器3	70
第55図 F区遺構外出土土器4	71
第56図 G区全体図・土層断面図	73
第57図 土器集中区平面図	74
第58図 G区出土土器	75

挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧	3
第2表 静岡地区的調査体制	9

内牧城跡・城山古墳	
第3表 内牧城跡・城山古墳	
出土土器一覧	16
キヨウダイヤト遺跡	
第4表 挖立柱建物一覧	76
第5表 溝状遺構一覧	76
第6表 土坑一覧	76
第7表 性格不明遺構一覧	76
第8表 小穴一覧	77
第9表 キヨウダイヤト遺跡	
出土土器一覧	78
第10表 キヨウダイヤト遺跡出土	
金属製品一覧	84

図版目次

内牧城跡・城山古墳

図版1 内牧城跡・城山古墳・
キヨウダイヤト遺跡遠景（南東より）
B区遠景（南より）

図版2 B区トレンチ設定状況（東より）
A区トレンチ設定状況（南東より）
C区全景（北西より）
C区トレンチ設定状況（北西より）
C区トレンチ設定状況（北東より）

図版3 D区全景（北西より）
城山古墳石室検出状況（南東より）

図版4 城山古墳側壁検出状況（南西より）
城山古墳石室完掘状況（南東より）

図版5 城山古墳掘方完掘状況（南東より）
内牧城跡・城山古墳出土土器

キヨウダイヤト遺跡

図版6 B-1区1面全景（東より）
SK1102完掘状況（北西より）
図版7 B-1区2面全景（南西より）
SK1202検出状況（南東より）
SK1202上面遺物出土状況（南西より）
SK1202下面遺物出土状況（南西より）
SK1202完掘状況（南西より）

図版8 SK1201遺物出土状況（南より）
SK1201完掘状況（南より）

図版9 B-2区遠景（北東より）
B-2区1・2面全景（北東より）
B-2区3面全景（北東より）
B-2区4面全景（南より）
B-2区南壁土層断面（北より）

図版10 SK1204検出状況（南より）
SK1204遺物出土状況（東より）
図版11 SK1401検出状況（南より）
B-3区全景（南より）
図版12 F区遠景（西より）
F区1面全景（南より）
図版13 F区2面全景（東より）
F区3面全景（東より）
図版14 F区3面東側小穴群（南より）
F区3面西側小穴群（南より）
図版15 F区4面全景（西より）
F区4面中央小穴群（南東より）
図版16 F区4面中央小穴群（南より）
SB2402・SK2404完掘状況（南より）
図版17 G区全景（北より）
G区全景（東より）
図版18 G区西壁土層断面（東より）
焼土2（東より）
図版19 土器集中区1（南より）
土器集中区2（北西より）
図版20 B区出土土器1
図版21 B区出土土器2
図版22 B区出土土器3
図版23 B区出土土器4
図版24 B区出土土器5
図版25 B区出土土器6
図版26 F区出土土器
図版27 SK1102出土土器
SK1201出土土器
図版28 SK1203出土土器

	SK1202出土土器	图版35 SD2101・SK2102出土土器
图版29	SK1204出土土器	SK2302・SX2301出土土器
	SK1210出土土器	图版36 SK2404・SP2422出土土器
图版30	SX1201出土土器	F区遗構外出土土器 1
	SK1306・SK1307出土土器	图版37 F区遗構外出土土器 2
图版31	SP1303出土土器	F区遗構外出土土器 3
	SK1401出土土器	图版38 F区遗構外出土土器 4
图版32	SK1402出土土器	F区遗構外出土土器 5
	SK1403出土土器	图版39 F区遗構外出土土器 6
图版33	B区遗構外出土土器 1	G区出土土器 1
	B区遗構外出土土器 2	图版40 G区出土土器 2
图版34	B区遗構外出土土器 3	B区出土金属製品
	B区遗構外出土土器 4	

第1章 位置と環境

第1節 位置と地理的環境

内牧城跡・城山古墳・キヨウダイヤト遺跡はJR静岡駅の北北西約6.7kmに位置し、安倍川の支流である内牧川の西岸に位置する標高99mの尾根末端とその南東に形成された谷部分に営まれている。この尾根は安倍城が築かれた標高435mの山から北東方向に派生する尾根のひとつである。

安倍川中流域東岸ではフォッサマグナの西縁である糸魚川一静岡構造線の西側に沿って竜爪層群が南北に細長く発達している。竜爪層群は竜爪山（1,041m）から南に幅約1.5mの範囲で分布しており、藁科川以南では安倍川西岸の徳順寺山地から大崩海岸にかけて延び、さらに西側の焼津市北東部の高草山（501m）付近に達している。この竜爪層群の東側には静岡層群、西側には瀬戸川層群が分布している。

瀬戸川層群の山地はだいらぼう山（561m）、美和高山（717m）等の平頂峰を含み、山腹面は一般に急斜していて小崩壊地が各所に見られる。この瀬戸川層群の東縁付近を安倍川がほぼ南北方向に流れ、安倍川中流域西岸では藁科川、内牧川、足久保川等の西北西から東南東に走る川谷が山地を分断し、沖積地を形成している。

内牧城跡および城山古墳の立地する尾根は瀬戸川層群に属しており、キヨウダイヤト遺跡は内牧川による沖積平野の一部である尾根南側から東側にかけての谷部分に立地している。

第2節 歴史的環境と調査歴

安倍川中流域西岸では正式な発掘調査がほとんど行われておらず、主に戦前の表探および開墾等により偶然発見された遺跡が点在するのみである。主に河岸段丘や山麓の丘陵先端部で縄文時代の遺物散布地が確認されているほか、古墳時代後期の横穴式石室を主体部とする古墳が丘陵端部に点在する状況が確認されている。また、中世には安倍川西岸の丘陵上に安倍城を中心とした城館跡が営まれている。本節では、現在までに存在が確認されている主な遺跡を時代ごとに概観する。

縄文・弥生時代

羽鳥遺跡（2）は藁科川北岸の丘陵端部に位置する縄文時代の散布地であり、縄文土器、打製石斧、黒曜石の破片等が採集されている。弥生時代の遺跡はほとんど確認されていないが、丘陵間の狭い谷間に低湿地遺跡の存在が推定でき、内牧川西岸の丘陵南側に位置する内牧遺跡（13）で弥生時代の住居跡状遺構が確認されている。

古墳時代

古墳時代後期には、安倍川西岸の丘陵端部の急斜面に横穴式石室を主体部とする古墳が複数築かれるが、それらの多くは本格的な調査が行われておらず、詳細は不明である。

藁科川北岸の山麓に位置する羽鳥古墳群（1）では円墳の1～5号墳が確認されている。いずれも主体部は横穴式石室であり、須恵器が出土している。1号墳および5号墳からは太刀、鉄鎌、耳環等が出土している。現在では4号墳を除き消滅している。また、祢宜山古墳（3）は横穴式石室が確認されており、大刀、馬具、土師器、須恵器等が出土しているが、現在では消滅している。

藁科川と内牧川の間の慈悲尾の谷奥に位置する田ヶ谷古墳（6）は横穴式石室であり、馬具、耳環、金環、土師器が出土している。また、樹木園内古墳（10）は横穴式石室が確認されており、大刀、須恵器が出土している。いずれも現在では消滅している。牛房ヶ谷古墳群（11）では1号墳で横穴式石室が



第1図 安倍川中流域の地質

確認され、耳環、玉類、金環、須恵器が出土している。

内牧川西岸の丘陵端部には、若宮上古墳（12）、城山古墳（15）、半兵衛奥古墳（17）、西ヶ谷古墳（22）等の古墳が分布している。若宮上古墳（12）では横穴式石室の存在が確認され、大刀・須恵器が出土している。半兵衛奥古墳（17）は内牧川西岸の丘陵南東側斜面に立地しており、現在では茶畑に整備されている。昭和9年の開墾中に横穴式石室が発見され、石室の周囲から大刀・刀子・鉄鏃・轡・壺鏡・絞具・飾金具・須恵器などが出土している（川江2010）。出土した壺鏡は県指定考古資料となっている。西ヶ谷古墳（22）は横穴式石室から大刀・須恵器が出土している。また、内牧川東岸の丘陵端部でも寺ヶ谷古墳（18）・姫塚古墳（19）などの古墳が確認されている。寺ヶ谷古墳（18）は横穴式石室が確認されている。姫塚古墳（19）は横穴式石室が確認され、小盤が出土している。

内牧川流域より更に北側の丘陵末端では、小塚ヶ谷古墳群（20）の1号墳で横穴式石室が見つかっている。いずれも詳細は不明である。

奈良・平安時代

古代の遺跡は、藁科川以北ではほとんど確認されていない。建穂寺跡（4）は古代から近世の寺院であり、礎石が検出され、瓦、陶磁器が出土している。

中世

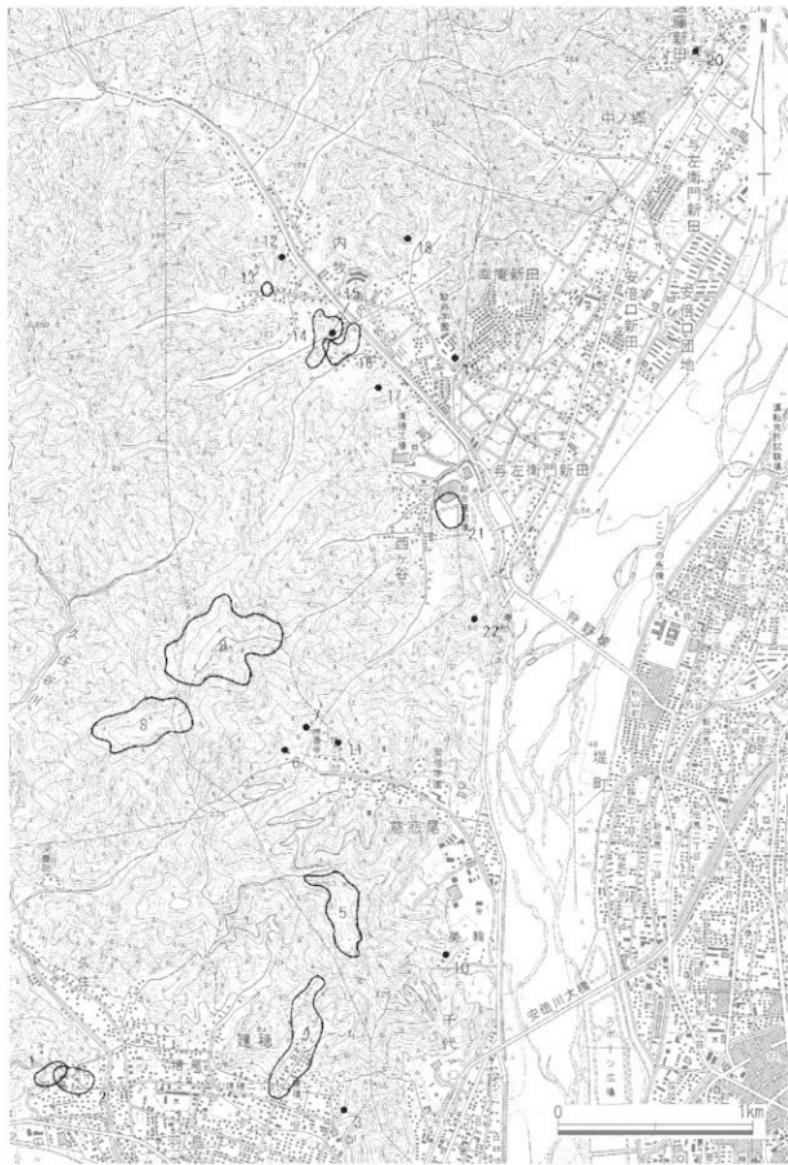
安倍城跡（9）は安倍川西岸の標高435mの山頂に位置する城館跡であり、南北朝時代に南朝方の狩野氏が築城したものと伝えられる。曲輪は北東から南西に延びる尾根上に配置されており、複数の堀切で尾根を切断している。また、久住砦跡（8）は安倍城の南西側に位置する標高385mの尾根上に築かれている。東西の尾根上に曲輪が直線的に配置され、2条の堀切によって尾根の切断が行われている。現在、安倍城や久住砦において観察されるこれらの遺構は室町時代～戦国初頭に改修されたものと考えられる。

この安倍城の四方にのびる尾根上に久住砦（8）、羽鳥砦（5）、西ヶ谷砦（21）、内牧城（14）等の諸城砦が配置されたと考えられている。羽鳥砦跡（5）は安倍城から南東方向の標高263mの尾根上に位置しており、曲輪および堀段が確認されている。羽鳥は堀ノ内、的場、御所ノ谷等の地名が残ることから居館の存在していた可能性も考えられている。

西ヶ谷砦跡（21）は安倍城の北東側尾根末端部に位置している。土砂採取工事によって崩され、現在では消滅している。

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	羽鳥古墳群	古墳	古墳	12	若宮上古墳	古墳	古墳
2	羽鳥遺跡	縄文	散布地・集落跡	13	内牧遺跡	弥生	集落跡
3	称宜山古墳	古墳	古墳	14	内牧城跡	中世	城館跡
4	建穂寺跡	古代～近世	寺社跡	15	城山古墳	古墳	古墳
5	羽鳥砦跡	中世	城館跡	16	キョウダイヤト遺跡	古墳～近世	集落跡
6	田ヶ谷古墳	古墳	古墳	17	半兵衛奥古墳	古墳	古墳
7	増善寺上経塚	近世	経塚	18	寺ヶ谷古墳	古墳	古墳
8	久住砦跡	中世	城館跡	19	姫塚古墳	古墳	古墳
9	安倍城跡	中世	城館跡	20	小塚ヶ谷古墳群	古墳	古墳
10	樹木園内古墳	古墳	古墳	21	西ヶ谷砦跡	中世	城館跡
11	牛房ヶ谷古墳群	古墳	古墳	22	西ヶ谷古墳	古墳	古墳



第2図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図

第2章 確認調査

第1節 調査の体制

前述静岡県埋蔵文化財調査研究所では、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査にあたり、日本道路公団静岡建設局各工事事務所の管轄に合わせ、工区を設定し調査にあたることとした。静岡工区（静岡市・藤枝市・島田市）のうちの静岡市西部地区（静岡市葵区・駿河区）の調査は平成9～15年度に実施しており、その体制は第2表のとおりである。

本書で取り扱う内牧城跡・城山古墳・キョウダイヤイタ遺跡（第二東名No.69・70地点）の調査は第二東名の建設事業に伴う調査であり、日本道路公団と静岡県教育委員会がその取り扱いについて協議を行い、前述静岡県埋蔵文化財調査研究所によって調査が実施された。

なお、静岡市西部地区の体制及び確認調査・本調査の概要については『小瀬戸遺跡・栗ヶ沢遺跡』発掘調査報告書に記されている（静岡県埋蔵文化財研究所2007）。

第2節 No.69地点

1 位置と現況

No.69地点は、内牧城跡の位置する尾根東裾の平野部に位置する。標高54m前後の内牧川による沖積地で、水田・畑・宅地に利用されていた。

2 調査の方法と経過

No.69地点の確認調査は平成9年から12年まで5回に分けて実施しており、調査対象面積は34,517m²である。内牧川流域を中心とした幅約70m、長さ約460mの範囲に計66箇所の試掘坑を設定し（第3図）、重機による掘削を実施した。

(1) 確認調査その1

内牧川右岸の南側部分を対象とし、4m×4m程度の試掘坑を5箇所に設定した（試掘坑1～5）。調査区表面積は87m²である。このうち試掘坑1～3の調査は平成9年11月に、試掘坑4～5の調査は平成10年5月に実施している。このうち試掘坑1～3では、地表面から1.9～3.0m下まで盛土の堆積が見られ、盛土の下ではI層（旧表土・黄褐色小礫混じりシルト層）・II層（黄褐色シルト～粘土層）・III層（褐色小礫混じり粘土層）・IV層（黄色～黄褐色粘土～シルト層）が上から順に確認された。試掘坑1～2ではIV層に掘り込まれた平行する溝状遺構を検出しており、試掘坑2のIV層からは奈良時代の須恵器・土師器が出土している。また、試掘坑3ではII層を切り込んで、黒褐色砂礫を覆土とする江戸時代頃のものと思われる土坑が検出された。一方、試掘坑4～5では黄褐色粘土層の上に厚い盛土が施されており、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認調査その2

平成10年7月に実施しており、内牧川左岸東側を中心とした範囲に5m×5mの試掘坑を13箇所に設定した（試掘坑6～18）。調査区表面積は325m²である。いずれの試掘坑においても遺構・遺物は確認されなかった。

(3) 確認調査その3

平成11年3月に実施しており、調査区表面積は174m²である。調査は内牧川右岸の丘陵裾部（試掘坑19



第3図 No.69地点確認調査試掘坑配置図

～22) 及び左岸西側の一部(試掘坑23)を対象とし、4m×4mの試掘坑を5箇所に設定した。

試掘坑19～22では、確認調査その1の調査で確認された奈良時代の包含層(IV層)に対応すると思われる層が確認されたが、試掘坑23では表土・盛土下に河川堆積と思われる砂礫層が堆積しており、遺物包含層は確認できなかった。いずれの試掘坑においても遺構・遺物は確認されなかった。

(4) 確認調査その4

平成11年6月から10月まで実施しており、調査区表面積は540m²である。内牧川右岸および左岸西側を主体とした地域を対象とし、5m×4mの試掘坑を27箇所に設定した。

内牧川右岸では、5箇所の試掘坑(試掘坑24～28)を掘削した。土層の堆積状況については、確認調査その1・その3の見解とはほぼ同じであり、上位から表土層、黒灰色砂礫層、黄褐色シルトと砂礫の互層、暗褐色粘土層、黄褐色粘土層、黄褐色砂礫層と堆積していた。遺構は試掘坑26で溝状遺構、試掘坑24・27・28でピットが検出されている。遺物は須恵器片や中世の陶磁器・鉄製品等であり、試掘坑25を除いた4箇所の試掘坑全てで出土している。

内牧川左岸では、試掘坑29～50の22箇所の試掘坑を掘削した。土層は基本的に粘土層と砂礫層からなっており、内牧川による河川堆積であると推定された。遺構については本調査対象となりうるものは検出されず、須恵器・陶器片などの遺物が少量出土しているものの、いずれも散発的であり、流れ込みであると判断された。

(5) 確認調査その5

確認調査その5は平成12年4月から6月まで実施しており、調査区表面積は432m²である。5m×5mの試掘坑を16箇所設定し(試掘坑51～66)、4m前後の深さまで掘削を行った。土層の堆積は、ほとんど全ての試掘坑で、砂利と砂・シルトの互層であり内牧川の河川堆積であることが推定された。全ての試掘坑において遺構・遺物は確認されなかった。

3 結果

No.69地点確認調査の結果、内牧川左岸地域では遺構・遺物は確認されなかった。一方、右岸地域では古代～中世を中心とした遺構および遺物が認められたため、本調査を実施することとなった(キョウダイヤト遺跡G区)。

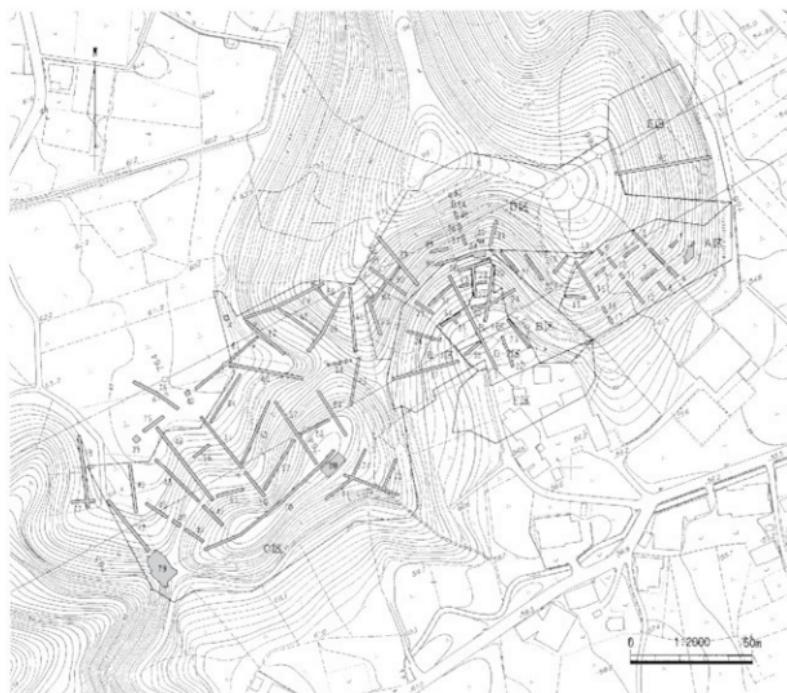
第3節 No.70地点

1 位置と現況

No.70地点は標高99.1mを頂部とする城山とその西側尾根からなる丘陵部、南側の谷によって構成され、丘陵部は部分的に雜木林や竹林となるほかは、多くが茶畠に利用されていた。

2 調査の方法と経過

平成9年10月から12月に確認調査として城山一帯の詳細な地形測量を実施し、丘陵部の全体像を把握した上で本調査に取りかかるとした。本調査はV期にわたって行われており、調査対象面積は21,454m²である。調査区全体をA～F区に分割してトレント・試掘坑調査を行い、遺跡の存在が確認された部分について調査区を拡張して平面調査を実施することになった。ここではI期～IV期の調査の中で行われたトレント・試掘坑調査の概要について述べる。



第4図 No.70地点確認調査トレンチ・試掘坑配置図

(1) I 期

I期の調査は平成9年11月4日から平成10年3月25日まで実施しており、尾根南東側斜面（A区）・中央南側斜面（B区）について1m幅のトレンチを設定し、人力による掘削を実施した。調査対象面積は5,100m²であり、調査区表面積はA区が156m²、B区が241m²である。

A区（1～21トレンチ）ではいずれのトレンチでも現地表面下30～80cmで地山に至り、遺構・遺物は認められなかった。B区（22～38トレンチ）では、斜面北側で茶木の根による搅乱が深く入り込んでおり、遺構および遺物は確認されなかった。一方、南側の26トレンチから24トレンチにかけての斜面地と31トレンチ南半から22トレンチにかけての緩斜面地で奈良時代と思われる遺構・遺物が認められたため、平面調査に移行することとなった（キョウダイヤト遺跡B区）。

(2) II 期

II期の調査は平成10年2月2日から3月24日まで実施した。調査対象面積は10,180m²、調査区表面積は965m²である。丘陵西側の尾根（C区）に42箇所のトレンチ・試掘坑を設定し（39～80トレンチ・試掘坑）、人力による掘削を行った。

調査の結果、C区全体に渡って内牧城に関連する遺構・遺物は確認できなかった。現地踏査時に内牧城の堀切と見られていた部分（試掘坑79）は土層断面の観察から、元来存在していた鞍部を開削し、道

としていることが判明した。

(3) III期

山頂の南側斜面および西側・南東側の尾根部分をD区とし、平成10年4月8日から7月9日まで調査を実施した。調査対象面積は4,510m²、トレンチ調査面積は360m²である。

南側斜面のトレンチ調査(81~95トレンチ)では、89トレンチ内部から須恵器が1点出土したほかは、遺構や遺物は認められなかった。西側・南東側尾根について内牧城の遺構が濃密に検出されることも予想されたため、平面調査を実施することとなった(内牧城跡・城山古墳D区)。

(4) IV期

IV期の調査は、尾根の東側斜面(E区)を対象とし、平成11年8月3日から25日まで実施した。調査対象面積は2,053m²、トレンチ調査面積は48m²である。

調査は斜面に直交する1m幅のトレンチ(96トレンチ)を設定し、人力によるトレンチの掘削を行った。地表面から約30~60cmの深さまで茶畑の作土が堆積しており、その下層は全て基盤層に到達した。遺構・遺物は認められなかった。

3 結果

No.70地点のトレンチ調査では、内牧城に関連すると思われる遺構・遺物は確認できなかつたが、B区南側斜面において奈良～平安時代を中心とした遺構および遺物が確認された。このB区南側斜面およびその南側に続く平坦地(F区)とD区南東側・西側尾根について平面調査を実施することとなった(内牧城跡・城山古墳D区、キョウダイヤト遺跡B区、F区)。

第2表 静岡地区的調査体制

		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成22年度		平成23年度
所長	齊藤 忠	齊藤 忠	齊藤 忠	齊藤 忠	石田 彰		勝田 順也	
副所長	池谷 和三	山下 晃	山下 晃					
常務理事	三村田昌昭	伊藤友雄	伊藤友雄	伊藤友雄	石田 彰			
総務部	総務部長	伊藤友雄	伊藤友雄	伊藤友雄				
	次長					松村 享		
	総務課長	初鹿野英治	杉木敏雄	杉木敏雄	杉木敏雄	松村 享	八木利眞	
	専門監						八木利眞	
	主幹					稻葉保幸	静岡県埋蔵文化財センター	
	事業係長					稻葉保幸		
	経理専門員	稻葉保幸	稻葉保幸	稻葉保幸	稻葉保幸			
	総務係長	後藤 稔	田中雅代	田中雅代	田中雅代	瀧 みやこ		
	会計係長	杉田 賢	杉田 賢	大橋 黒	大橋 黒			
	部長	石垣英夫	石垣英夫	佐藤達雄	佐藤達雄			
調査研究部	次長	栗野克己		佐野五十三	及川 司			
	次長心得							
	担当課長	佐野五十三						
	係長	栗野克己	足立順司	及川 司	及川 司	中鉢賀治		
	主任調査研究員					溝口彰啓		
	調査研究員	足立順司	飯塚晴夫	飯塚晴夫			中鉢賀治	
		河合 修	河合 修	青木 修			富樫孝志	
		川上 努	川上 努	福垣聖二	川上 努			
	常勤嘱託員					五味奈々子		

第3章 内牧城跡・城山古墳

第1節 調査の方法と経過

1 発掘調査の方法と経過

D区の平面調査は、内牧城の遺構が濃密に検出されることが予想されたD区南東側尾根および西側尾根について実施した（No.70地点本調査III期・第5図）。調査は平成10年4月16日から平成10年7月9日までの約3ヶ月間実施しており、調査面積は1,352m²である。平成10年4月16日からバックフォーによる南東側尾根部分の表土除去を開始し、5月13日から南東側尾根の精査を行った。尾根の南側斜面（A区）への傾斜変換点付近で古墳主体部が検出され、5月20日から古墳主体部の掘り下げ及び実測図の作成を開始した。同時に5月21日から西側尾根の表土除去・精査を実施したが、明確な遺構は検出されず、6月9日に埋め戻しを実施した。6月15日から石室平面図・側面図の実測を行い、石室石材については実測図作成後に破碎作業を実施した。7月6日から古墳主体部掘方の掘り下げ、写真撮影、実測図作成を実施して7月9日に調査を終了した。

調査記録は手書きで1／10～1／250の図を作成し、35mm判カラー・モノクロネガ、カラーリバーサル、6×7判モノクロネガを用いて写真撮影を行った。

2 資料整理の方法と経過

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査については現地調査を優先するという方針から、資料整理・報告書作成は多くの現地調査が終了した段階で実施することとなった。そこで、これに先行する基礎的整理作業の一部（遺物洗浄・注記・接合・復元・実測・写真整理・図面整理）を現地作業と並行して実施し、本格的な整理作業と報告書の作成に備えた。

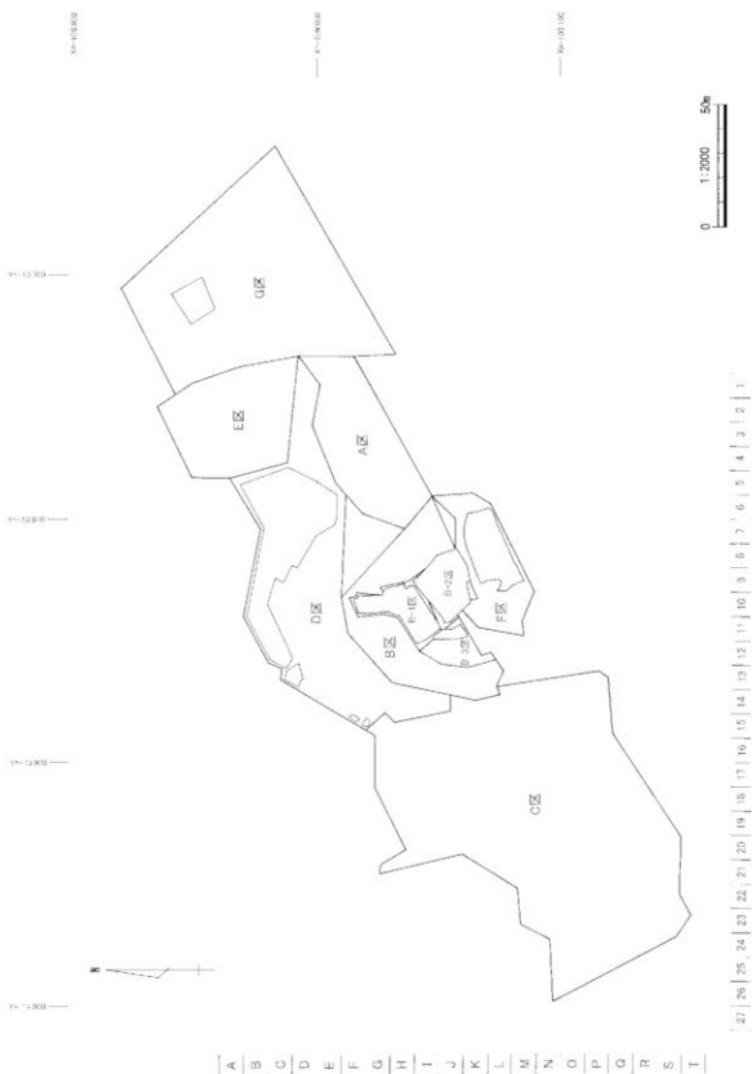
静岡工区静岡市西部地区の資料整理は、平成15年度末時点で現地調査がほぼ終了したことから、平成16年度から部分的に開始した。内牧城跡・城山古墳の資料整理は平成22年10月から財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所中原整理事務所で行い、平成23年度からは静岡県埋蔵文化財センター中原事務所が業務を引き継ぎ、遺構図版組・トレース、観察表作成、遺物写真撮影、遺物実測図修正・版組・トレースを実施し、これらを編集して報告書を作成した。なお、遺物の写真撮影は6×7判カラー・リバーサル・モノクロフィルムを用いて、当センター写真室で撮影を行った。

第2節 概 要

1 地 形

内牧城跡は、安倍川中流域西岸に位置する標高435mの丘陵から北東方向に派生する標高99.1mの尾根上に位置している（第4図）。山頂から北・南東・南西方向に尾根が延び、尾根末端は急斜面を形成する。南西側には北東および南西に鞍部を持つ細長い尾根が延びる。遺跡の東側では内牧川が南東方向へ流れれる。

城山古墳は内牧城の所在する丘陵の南東側尾根に位置しており、石室は尾根末端の南向き斜面に築かれている。



第5図 グリッド配置図と本調査区

2 遺構・遺物の概要

A区～E区のトレンチ調査およびD区平面調査では、内牧城に関連する遺構および遺物は認められなかった。D区では表土を除去した結果、南東部の尾根末端付近で段差が確認され（第6図）、茶畠を開墾する際の掘削によるものと推定された。また、南側斜面（A区）への傾斜変換点付近から横穴式石室を主体部とする古墳が検出された。石室の天井石および側壁の一部は抜き取られており、周辺の畠の土留として用いられていた石材が石室から取り外されたものであることが聴き取りにより判明した。墳丘および周溝は確認されなかった。

古墳に伴う出土遺物として、石室前庭部より須恵器坏身（第9図1）が出土している。また、D区トレンチ調査において、南側斜面の89トレンチから奈良時代の須恵器坏蓋（第9図2）が出土している。出土地点はキョウダウダイヤト遺跡の北端に相当すると考えられる。

第3節 城山古墳の調査成果

1 墳丘と周溝

埋葬施設の周辺は茶畠の開墾によると思われる削平が行われており、墳丘および周溝は確認できなかった。

2 埋葬施設（第7・8図）

（1）残存状況

埋葬施設は横穴式石室である。天井石は最大長が1.8mほどの自然礫であり、石室の南側に外された状態で散乱していた。開墾や盗掘等により上部の側壁は抜き取られており、奥壁および側壁の基底石と東側壁の2段目の石材の一部が残存している。掘方の深さから推定すると、本来の側壁は4～5段に積み上げられていたとみられる。敷石は中央部に一部残存していたが、多くの部分は盗掘や開墾に伴う石材の抜き取りの影響で壊され残っていなかった。

（2）形状と規模

石室の平面形は長方形である。南東側に開口しており、主軸方位はN-34°-Wである。石室の残存長は約5.1m、奥壁幅は約1.4mである。石室残存高は、敷石面からの高さは奥壁で約1.2m、西側壁で約0.5m、東側壁で約0.9mであり、掘方底面からの高さは奥壁で約1.3m、西側壁で約0.7m、東側壁で約1.0mである。

奥壁基底石の大きさは最大幅約1.4m、最大高約1.3m、厚さ約0.9mである。側壁の基底石に使用されている石材の大きさは、最大幅0.5m～1.1m、最大高0.6m～0.7m、厚さは0.5m～0.9m程度であり、広口面を石室内に向けて据えられている。東側壁に残存する2段目の石材の大きさは、最大幅0.5m～1.0m、最大高0.3m～0.5m、厚さは0.5m～0.8m程度である。

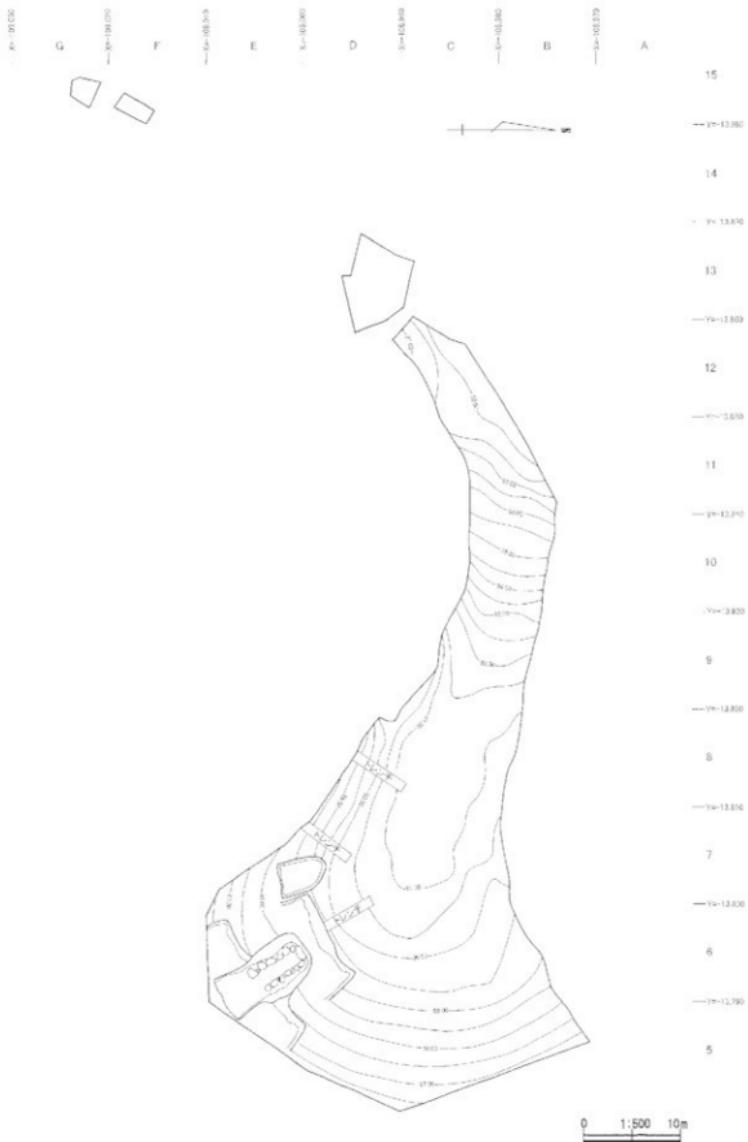
床面の敷石は、直径5cm～30cm程度の扁平な角礫であり、奥壁から開口部方向に約1.9mの地点を中心とし、径2m程度の範囲に残存していた。床面はほぼ平行であり、中央部の敷石上面の標高は約86.1mである。

（3）掘 方

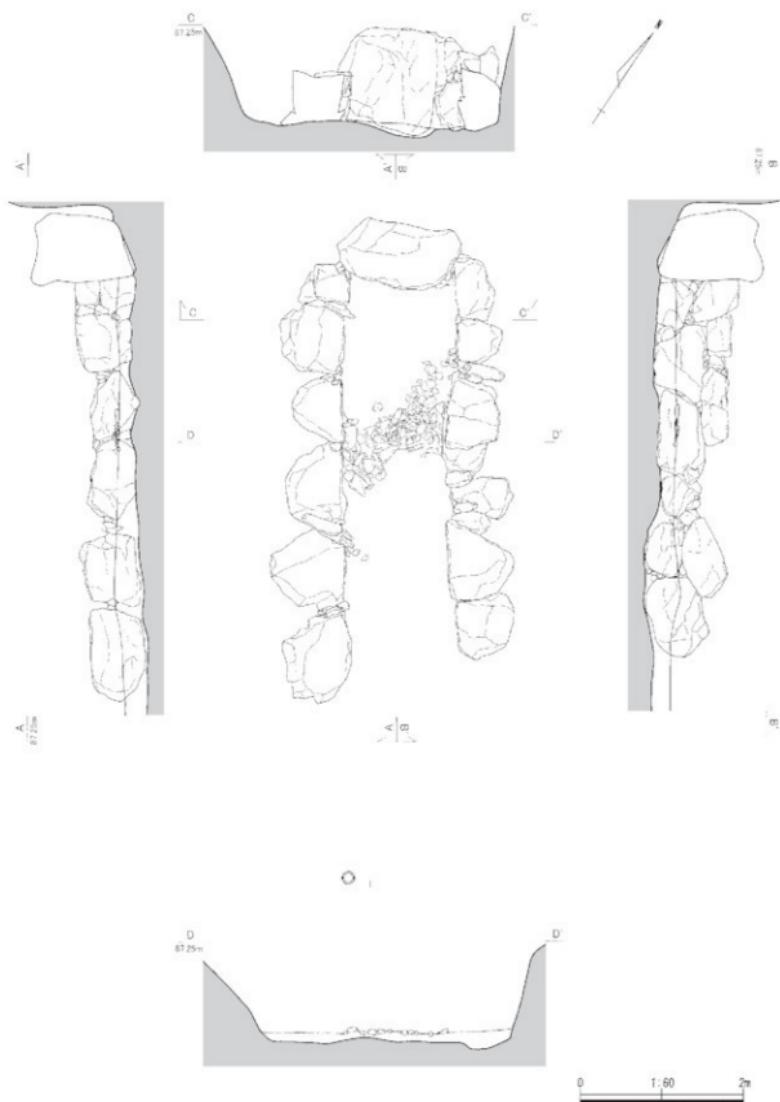
掘方の平面形はやや不整形な隅丸長方形である。検出長は約10mであり、南東側は茶畠の造成等による削平を受けている。北西側の検出幅は約5.6m、検出された深さは約2.2mである。

（4）遺物出土状況

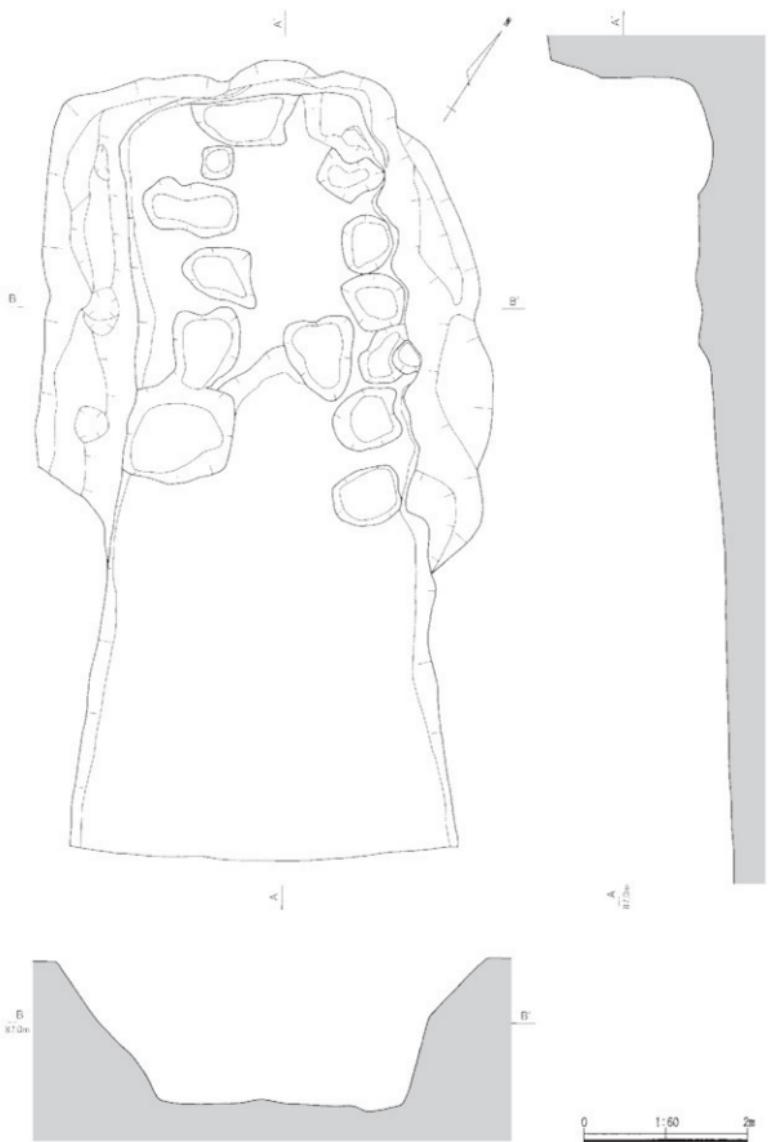
古墳に伴う遺物はほとんど残っておらず、盗掘や茶畠の開墾等により持ち去られたものと思われる。



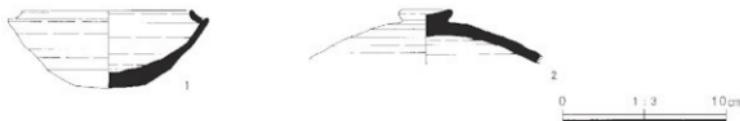
第6図 D区全体図



第7図 城山古墳石室展開図



第8図 城山古墳石室方実測図



第9図 D区出土遺物

石室の覆土には鉄製品の残欠が少量含まれており、石室前庭部の床面からやや浮いた位置より、須恵器杯身（1）が出土している。

3 出土遺物（第9図1～2）

1は須恵器の杯身である。口縁部の立ち上がりが短く内傾し、体部下半から底部にかけてヘラ削りを施す。湖西窯産の7世紀前半頃の製品と思われる。

2は須恵器環蓋であり、口縁部を欠損している。円盤状のつまみを付しておらず、つまみの中心は凹んでいる。天井部外面にはヘラ削りを施す。助宗窯産の8世紀代の製品と思われる。

第3表 内牧城跡・城山古墳出土土器一覧

図版番号	写真図版番号	拝図番号	区	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調
第9図	5下	1	D	石室前庭部		須恵器	杯身	100%	口 径 10.4 器 高 4.7 最大径 12.4 底 径 4.3	密 黒色・白色粒子含む	良	5Y7/2灰白
第9図	5下	2	D	89トレンチ	排土内	須恵器	蓋	15%	器 高 (3.4) 撲み径 3.4	密 黒色・白色粒子含む	良	2.5Y6/2灰黄

第4章 キヨウダイヤト遺跡

第1節 調査の方法と経過

1 発掘調査の方法と経過

トレント調査によって奈良・平安時代を中心とした遺跡の存在が確認されたB区・F区およびG区について、平面調査を実施した（No.70地点本調査I期・V期、No.69地点本調査I期）。B区の平面調査に伴い、国土座標に乗った10mメッシュのグリッドを設定しており、F区の調査においてもこのグリッド番号を踏襲している。グリッド番号は、内牧城・城山古墳を含むNo.70地点調査対象地のほぼ全体を含む範囲に付しており、南北方向に北からA～T、東西方向に東から1～27としている（第5図）。

キヨウダイヤト遺跡の平面調査は、平成9年12月15日から平成12年3月14日までのおよそ2年3ヶ月にわたって実施しており、発掘面積はB区が1,070m²、F区が1,023m²、G区が169m²である。各調査区の調査経過は次のとおりである。

(1) B区（No.70地点本調査I期）

B区では、本調査I期のトレント調査において調査区の南側で遺構が確認されたため、拡張区としてB-1～B-3区を設定し（第5図）、平面調査を実施した。平成9年12月15日から重機によるB-1区の表土除去を開始した。12月24日から人力による遺構検出作業を行い、全体の写真撮影を実施した後に平成10年1月8日から遺構掘削を行った。1月19日に1面の遺構完掘状況の写真撮影を行い、遺構実測作業を開始した。また、下層確認トレントの掘削・拡張を行い、遺構が確認されたため、1月27日からB-1区2面の遺構検出・掘削作業を実施し、2月3日に遺構完掘写真を撮影して調査を終了した。

B-2区・B-3区については2月2日から重機による表土除去を開始し、2月17日から遺構検出を実施した。3月7日からB-2区1・2面の遺構掘削を行い、3月9日に遺構を完掘して写真撮影、遺構実測を実施し、下層確認トレントの掘削を行った。3月11日から重機によるB-2区1・2面の除去を行い、3月16日から3面の遺構検出・掘削作業を実施した。3月18日に実測作業を行って3面の調査を終了した。3月20日から重機によるB-2区3面の除去を行って4面の遺構を検出した。また、B-2区と併行してB-3区の平面調査を行い、3月25日までに全ての調査を終了した。

調査記録は手書きで1/20～1/250縮尺の図を作成し、35mm判カラー・モノクロネガ、カラーリバーサル、6×7判モノクロネガ、カラーリバーサルを用いて写真撮影を行った。

(2) F区（No.70地点本調査V期）

F区の平面調査は本調査V期で実施している。平成11年10月21日から重機による表土除去を行い、11月5日から人力による1面の平面掘削を実施した。11月22日から遺構検出を開始し、全体を検出した後に11月29日から遺構掘削を実施した。全体の清掃を行った後、12月13日に写真測量を実施して1面の調査を終了した。

1面の調査終了後、重機による中間層の除去を実施して2面の遺構検出を行った。平成12年1月24日から遺物取り上げ、遺構確認、平面図・断面図の実測、写真撮影を行い、2面の調査を終了した。その後、2月14日から重機による中間層除去、遺物取り上げを実施し、2月23日から3面の人力掘削、精査、遺物取り上げ、実測を行った。3月3日に3面の写真測量を行った後、重機による中間層除去を行い、3月6日から4面の人力掘削・遺構検出作業、遺物取り上げ、実測を実施し、3月14日に調査を終了した。

調査記録は遺構個別図については手書きで1/10～1/100縮尺の図を作成し、遺構全体図については

空中写真測量を行った。写真撮影は35mm判カラー・モノクロネガ、カラーリバーサル、6×7判モノクロネガを使用した。

(3) G区（No.69地点本調査Ⅰ期）

No.69地点の本調査（G区）は、No.70地点本調査V期（F区）と平行して平成11年11月8日から重機による表土除去を開始した。11月10日から人力掘削を行い、11月29日から土層断面の実測・遺構掘削及び実測を実施し、平行して遺物出土状況の実測・遺物取り上げを行った。12月8日から重機による埋め戻しを実施して12月9日に調査を終了した。

調査記録は手書きで1/5～1/50縮尺の図を作成し、35mm判カラー・モノクロネガ、カラーリバーサル、6×7判モノクロネガを使用して写真撮影を行った。

2 資料整理の方法と経過

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査については現地調査を優先するという方針から、資料整理・報告書作成は多くの現地調査が終了した段階で実施することとなった。そこで、これに先行する基礎的整理作業の一部（遺物洗浄・注記・接合・復元・実測・写真整理・図面整理）を現地作業と並行して実施し、本格的な整理作業と報告書の作成に備えた。

静岡工区静岡市西部地区的資料整理は、平成15年度末時点での現地調査がほぼ終了したことから、平成16年度から部分的に開始した。キヨウダイヤト遺跡の資料整理は平成22年10月から財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所中原整理事務所で行い、平成23年度からは静岡県埋蔵文化財センター中原事務所が業務を引き継ぎ、遺構図版組・トレース、観察表作成、遺物写真撮影、遺物実測図修正・版組・トレースを実施し、これらを編集して報告書を作成した。なお、遺物の写真撮影は6×7判カラーリバーサル・モノクロフィルムを用いて、当センター写真室で撮影を行った。また、整理作業の過程で内牧城跡のトレレンチ調査を含む調査区全体の名称をA～Gのアルファベットに統一し（第5図）、調査区ごとに付けられていた遺構番号を遺跡全体の通し番号に整理した。

第2節 概要

1 地形

キヨウダイヤト遺跡は標高99.1mの城山丘陵南側斜面（B区）およびそれに続く平坦地（F区）から内牧川右岸の丘陵東側尾根裾部の平坦地（G区）にかけて位置する。遺跡の南側では内牧川の支流であるキヨウダイヤト川が流れ、北東側で内牧川に合流する。

丘陵南側斜面では、斜面中腹の標高約70mの地点から南側に向かって10°～30°程度のやや緩やかな傾斜が続き、さらに南側では標高56m前後の平坦地となる。また、丘陵東側の平坦地は標高54m前後の内牧川による沖積地となっている。

2 遺構・遺物の概要

B区では、中世～近世の溝状遺構・土坑および奈良～平安時代の掘立柱建物跡・溝状遺構・土坑・小穴が検出され、陶磁器・須恵器・土師器等が出土している。出土した須恵器の多くは坏類であるが、小穴内からは須恵器の円面硯等も出土している。また、遺物が集中する土坑が複数検出されており、土坑内からは淨瓶・瓦鉢・長頸瓶等が出土している。

F区では、1面で中世の溝状遺構および土坑、2面・3面で奈良～平安時代の土坑・溝状遺構・小穴、4面で古墳時代前期の掘立柱建物・土坑・小穴が検出されている。2面では調査区南側で流路が検出さ

れしており、遺物の多くは調査区北側に散乱した状態で出土している。

G区では調査区中央が大きく搅乱を受けていたものの、周囲より複数の小穴および焼土が検出された。焼土に隣接して土器が集中する地点が2箇所確認され、土師器片および山茶碗等が出土している。

第3節 B区の遺構と遺物

1 B区の土層（第10・11図）

B区は南へ緩やかに傾斜する地形であり、東西方向の土層はほぼ水平な堆積が見られる。基盤層（黄色～黄褐色粘土層）の上位に砂礫の混じるシルト層が連続して堆積しており、北側斜面からの土砂の進入が頻繁に生じていたと見られる。表土層は茶畑の造成に伴う耕作土であり、上面の遺構は茶木の根による搅乱が生じていた。

B-1区（第10図）では、耕作土を除去した面（第3層～第6層上面）で1面を主に検出しており、2面は小礫混じり微砂～シルト層（第14層～第18層）上面で検出している。

B-2区（第11図）では、第3層～第4層上面でB-1区1～2面に相当する面を検出しており、調査区南東側ではこれとほぼ同時期に属するとと思われる面（3面・4面）を検出している。

B-3区（第10図）では、耕作土を除去した面（第5層～第7層上面）で遺構を検出しているが、遺物が出土しておらず時期は不明である。

2 B区検出遺構

B-1区では奈良～平安時代を中心とした遺構面が計2面で検出されている。1面（第12図）では、調査区南西側に流路（SR1101）が流れしており、南東側を中心に奈良～平安時代の土坑・小穴が複数検出されている。また、流路の東側に隣接する位置で近世の土坑（SK1102）を1基検出している。調査区北側においても複数の小穴が検出されているが、いずれも遺物は出土していない。2面（第14図）は調査区の南西側で検出しており、奈良時代の遺物が集中して出土する土坑が3基確認されている。

B-2区では、1・2面（第17図）とした面がB-1区1～2面に相当すると考えられる。調査区南側で2棟の掘立柱建物を検出しており、その北側では東西方向に掘り込まれる遺構（SX1201・1202）およびその周間に並ぶ複数の土坑が確認されている。また、調査区南東側で検出された3面（第21図）・4面（第22図）でも複数の土坑が確認されている。いずれの面も、B-1区で検出された奈良～平安時代の遺構面とほぼ同時期に属すると見られる。

B-3区（第24図）はB-1区・B-2区の西側に隣接しており、径40cm～180cm程度の掘り込みが複数確認されているが、遺物は出土していない。

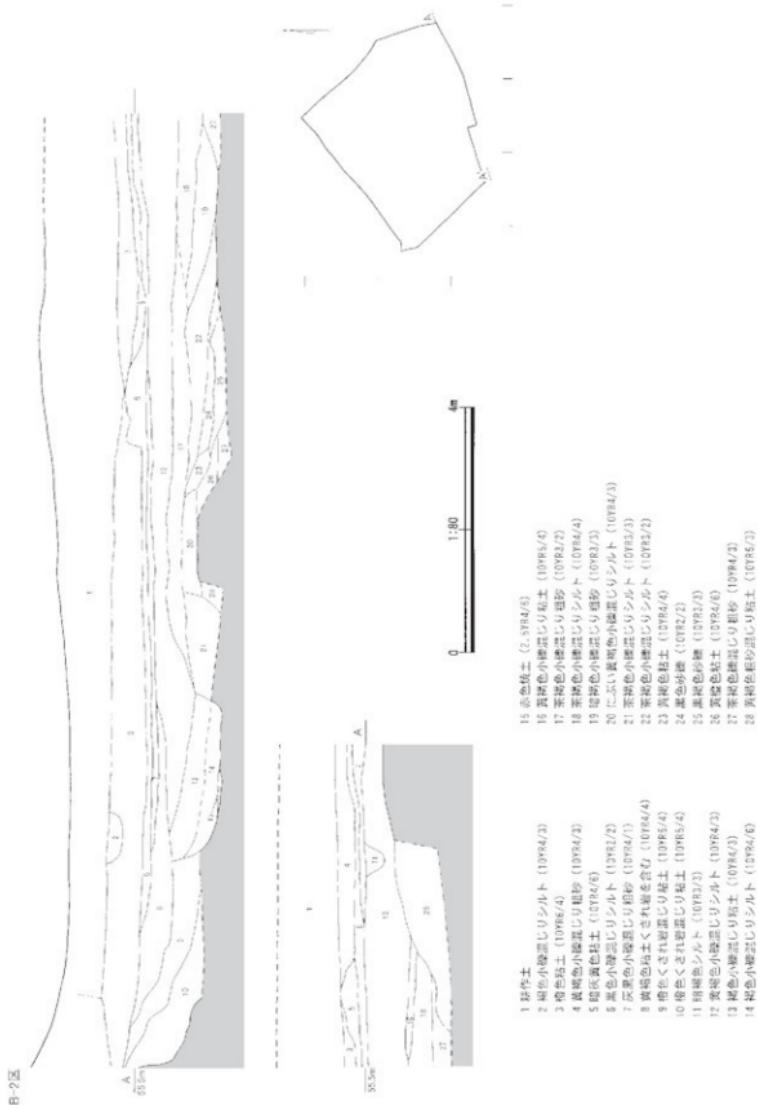
(1) B-1区1面の遺構（第12図～第13図）

土坑（SK）

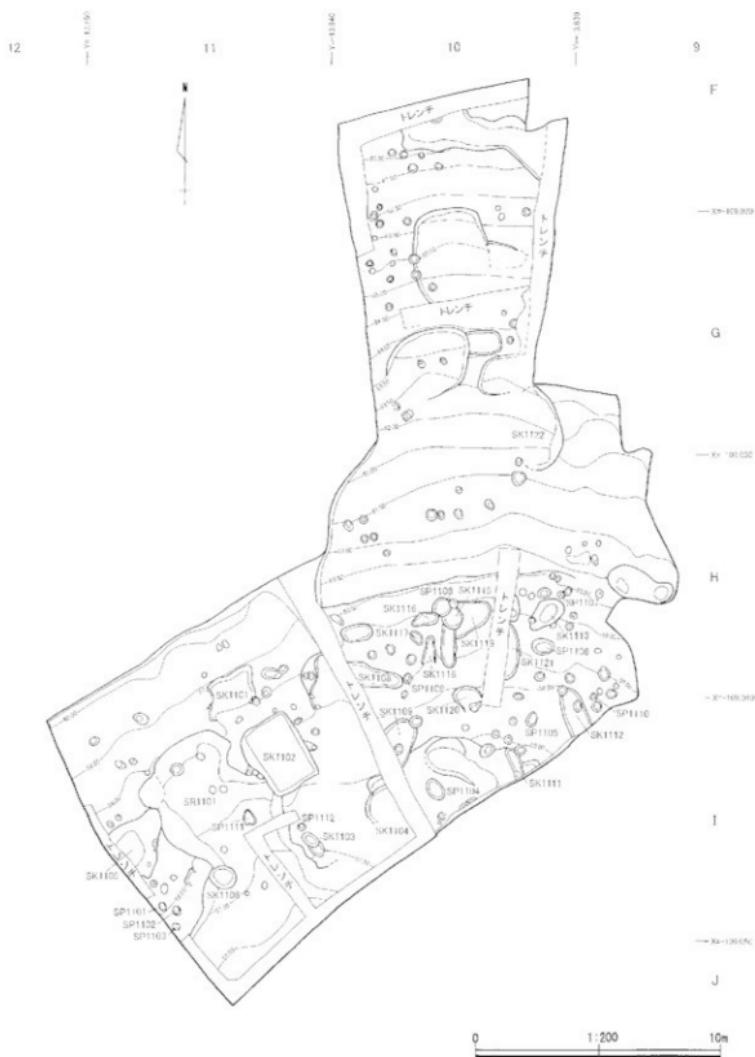
SK1101（第12図） H11グリッド南部からI11グリッド北部にかけて検出している。平面形は不定形であり、南側は流失している。検出長は約200cm、検出幅は約140cm、深さは約14cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1102（第12・13図） I11グリッド北東部で検出している。平面形は北西から南東方向に掘り込まれる隅丸方形である。断面はほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平坦である。検出長は約306cm、検出幅は約244cm、深さは約116cmである。遺構の覆土は褐色～橙褐色粗砂層であり、底部には直径5cm～20cm程度の石が敷き詰められている。遺構内から近世の陶器（1～2）が出土している。

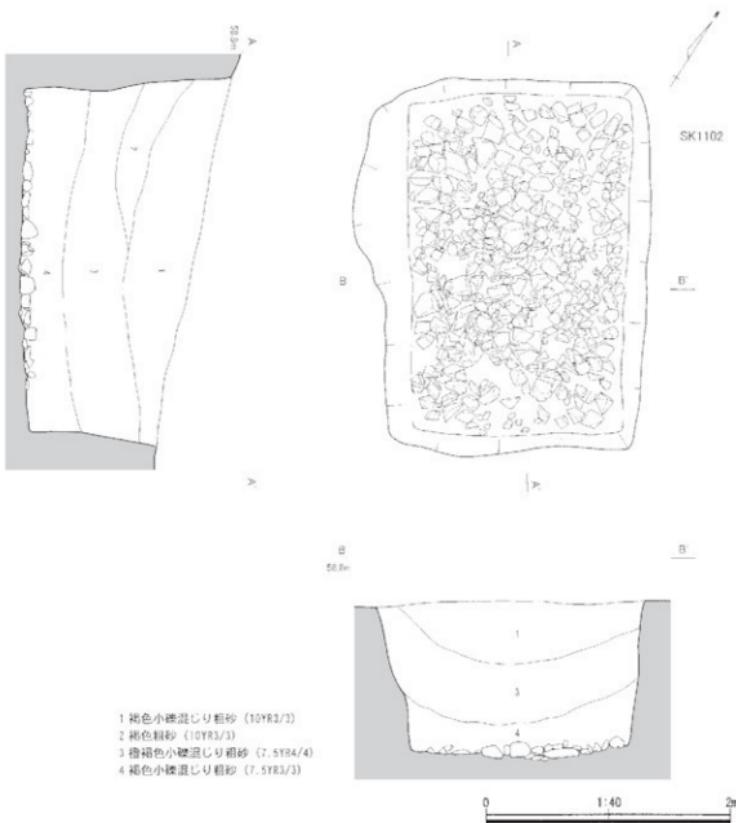




第11図 B-2区土層断面図



第12図 B-1区1面全体図



第13図 SK1102平面図・断面図

SK1103（第12図） II1グリッド東部で検出しており、平面形は梢円形である。南東から北西方向に掘り込まれており、検出長は全体で約120cm、検出幅は約50cmである。深さは南東側では約4cmであるが、北西側で長さ約80cmの梢円形に深く掘り込まれており、北西部の深さは約17cmである。遺物は出土していない。

SK1104（第12図） II0グリッド西部で検出している。平面形は不定形であり、南東部は流失している。検出長は約540cm、検出幅は約220cm、深さは約40cmである。須恵器杯蓋（3）が出土している。

SK1105（第12図） II1グリッド西部で検出している。平面形は不定形であり、南西側は調査区分外のため未検出である。検出長は約230cm、検出幅は約240cm、深さは約17cmである。遺物は出土していない。

SK1106（第12図） II1グリッド南部で検出しており、SRI101の西側に接している。平面形はややいびつ

な円形である。検出長は約110.5cm、検出幅は約85cm、深さは約20.5cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1108（第12図） H10グリッド南西部で検出している。平面ではやや細長い溝状を呈しており、ほぼ東西方向に延びている。西側はトレンチに切られている。検出長は約192cm、検出幅は約102cm、深さは約15cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1109（第12図） I10グリッド北西部で検出しており、平面形は梢円形になると見られる。北東から南北方向に掘り込まれており、南西部はトレンチに切られている。検出長は約138cm、検出幅は約130cm、深さは約17.5cmである。南西部及び北東部に直径約40cm、深さ約10cm～20cm程度の円形のビットが接している。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1111（第12図） I10グリッド北東部で検出している。平面形は細長い溝状を呈しており、北北西から南南東方向に延びている。南東部は調査区外のため未検出である。検出長は約130cm、検出幅は約48cm、深さは約21cmである。遺物は出土していない。

SK1112（第12図） I9グリッド北西部からI10グリッド北東部にかけて検出している。平面形は細長い梢円形であり、北北西から南南東方向に延びている。南東部は調査区外のため未検出である。検出長は約190cm、検出幅は約100cm、深さは約10cmである。北西部および東部に直径約30cm、深さ約20cmの円形のビットが接している。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1113（第12図） H10グリッド南東部で検出している。平面形はややいびつな梢円形であり、北東から南西方向に掘り込まれている。検出長は約168cm、検出幅は約102cm、深さは約40cmである。遺物は出土していない。

SK1115（第12図） H10グリッド南部で検出しており、平面形はほぼ円形である。検出長は約70cm、検出幅は約88cm、深さは約22cmである。北東側でSK1119・SP1108に接しており、北西側で直径約66cm、深さ約42cmの円形の土坑に接して西側ではSK1116が隣接する。南側には長さ約180cm、幅約56cm、深さ約32cmの溝状の遺構が接している。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1116（第12図） H10グリッド南部で検出している。平面形はややいびつな梢円形であり、ほぼ東西方向に掘り込まれている。検出長は約114cm、検出幅は約52cm、深さは約44cmである。遺物は出土していない。

SK1117（第12図） H10グリッド南部で検出している。平面形は梢円形であり、北西から南東方向に掘り込まれている。検出長は約64.5cm、検出幅は約37cm、深さは約14cmである。遺物は出土していない。

SK1118（第12図） H10グリッド南部で検出している。ほぼ南北方向の細長い溝状に延びているが、南側は流失している。検出長は約106cm、検出幅は約52cm、深さは約10cmである。遺物は出土していない。

SK1119（第12図） H10グリッド南部で検出している。平面形は不定形であり、西側でSK1115・SP1108と接している。検出長は約170cm、検出幅は約124cm、深さは約29cmである。遺物は出土していない。

SK1120（第12図） H10グリッド南部からI10グリッド北部にかけて検出している。平面形は不定形であり、南東側は流失している。検出長は約90cm、検出幅は約110cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1121（第12図） H10グリッド南東部で検出している。平面形は梢円形を呈すると思われるが、西側はトレンチに切られている。検出長は約228cm、検出幅は約50cm、深さは約12.5cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1122（第12図） G10グリッド南東部からH10グリッド北東部にかけて検出している。平面形は不定形であり、遺構の西側は流失している。検出長は約350cm、検出幅は約120cm、深さは約35.5cmである。遺構内からキセルの吸口（第34図1）が出土している。

自然流路（SR）

SR1101（第12図） II1グリッド中央で検出しており、北西から南東方向に延びる。南東側は調査区外のため未確認である。流路内でSP1111を含む複数の小穴が検出されており、西側でSK1106が接する。検出長は約900cm、検出幅は約450cm、深さは約25cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

小穴（SP）

SP1101（第12図） II1グリッド南部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約40cm、検出幅は約26cm、深さは約42cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1102（第12図） II1グリッド南部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約40.5cm、検出幅は約33cm、深さは約31.5cmである。須恵器の円面鏡（4）が出土している。

SP1103（第12図） II1グリッド南部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約32cm、検出幅は約28cm、深さは約34cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1104（第12図） II0グリッド中央で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約93cm、検出幅は約68cm、深さは約19cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1105（第12図） II0グリッド北東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約62cm、検出幅は約39.5cm、深さは約21cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1106（第12図） H10グリッド南東部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約91cm、検出幅は約61cm、深さは約26cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1107（第12図） H10グリッド東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約32cm、検出幅は約29cm、深さは約19cmである。南西側にSK1113が隣接する。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1108（第12図） H10グリッド南部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約38cm、検出幅は約34cm、深さは約40cmである。南側でSK1115、SK1119などの土坑が接している。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1109（第12図） H10グリッド南西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約38cm、検出幅は約32.5cm、深さは約5cmである。西側でSK1108が隣接する。須恵器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1110（第12図） H9グリッド南西部からI9グリッド北西部にかけて検出しており、平面形は円形である。検出長は約32cm、検出幅は約31cm、深さは約7cmである。土師器甕の頸部破片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

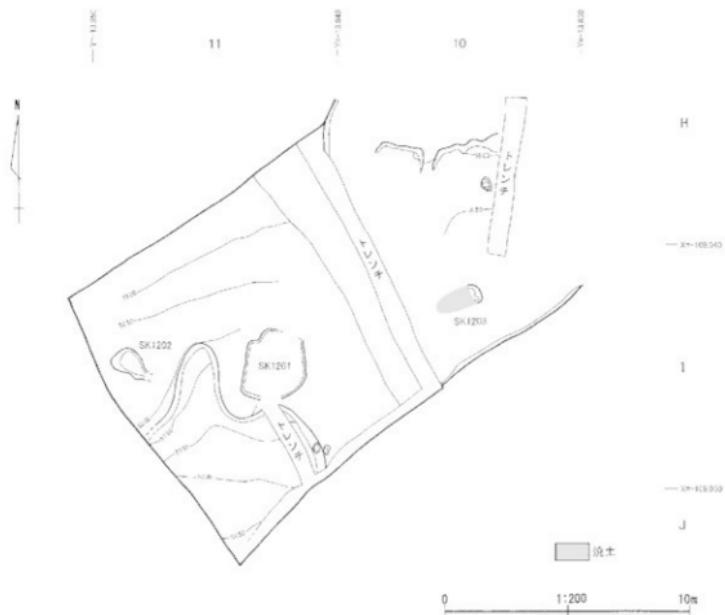
SP1111（第12図） II1グリッド東部のSR1101内で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約63cm、検出幅は約48cm、深さは約11.5cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1112（第12図） II1グリッド東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約34cm、検出幅は約31cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

(2) B-1区2面の遺構（第14図～第16図）

土坑（SK）

SK1201（第14・15図） II1グリッド東部で検出している。南北方向に掘り込まれる隅丸方形に近い形状であり、北側では直径約100cmの範囲が円形に赤化している。遺構の北東部はSK1102に切られている。

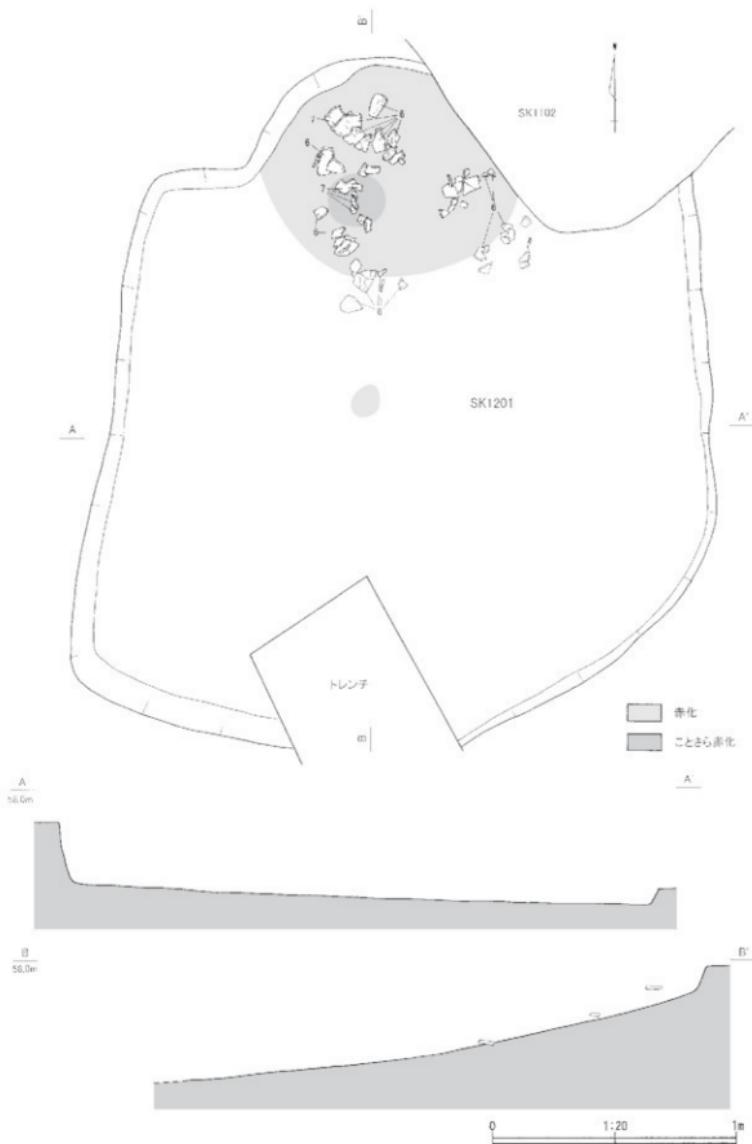


第14図 B-1区2面全体図

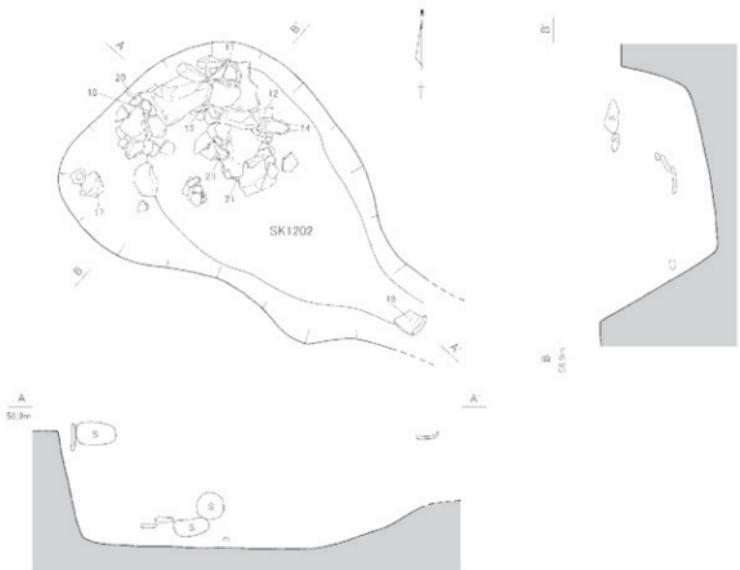
断面は浅い逆台形状に掘り込まれており、底面は南東方向へ緩やかに傾斜する。検出長は約281cm、検出幅は約245.5cm、深さは約20cmである。北側の赤化した範囲を中心に須恵器坏身（5）・土師器甕（6～7）などの遺物が集中して出土している。

SK1202（第14・16図） I11グリッド西部で検出している。平面形は不定形であり、北西から南東に向かって幅が狭くなる。断面は北西部ではほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。南東部は搅乱に切られている。検出長は約145cm、検出幅は約30cm～105cm、深さは約45cmである。北西部から須恵器坏蓋（11～14）・甕（17）・高坏（18）・土師器甕（15・16・20～23）などの遺物が集中して出土しており、南東部から瓦鉢（19）が出土している。

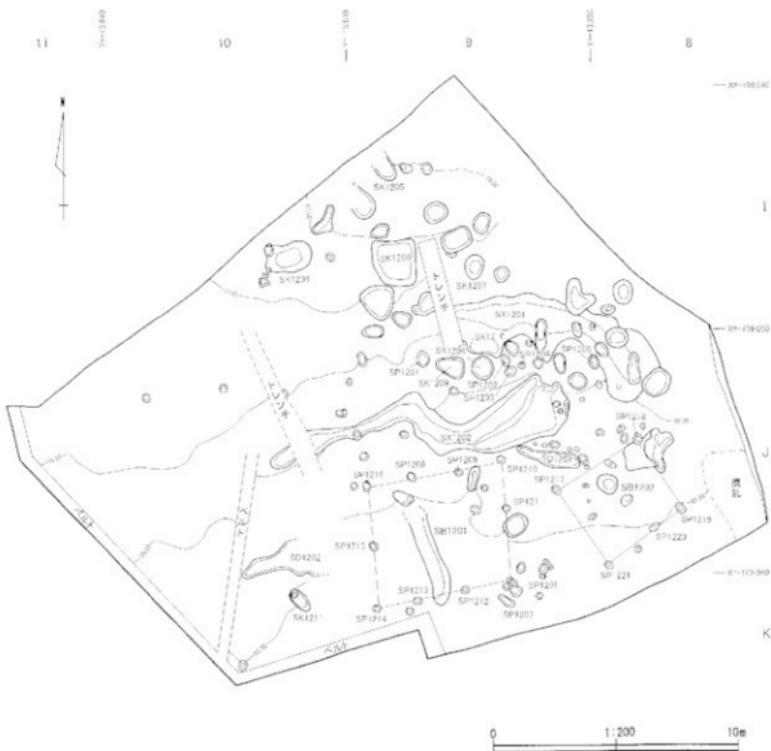
SK1203（第14・16図） I10グリッド北部で検出している。平面形は梢円形であり、焼土の検出される南西部では次第に幅が狭くなる。断面は北東部で皿状に掘り込まれ、南西部の焼土検出面は平坦である。検出長は約196cm、検出幅は約83cm、深さは約15cmである。焼土の広がる南西部を中心に、須恵器坏蓋（8）・坏身（9～10）などの遺物が出土している。



第15図 SK1201平面図・断面図



第16図 SK1202・1203平面図・断面図



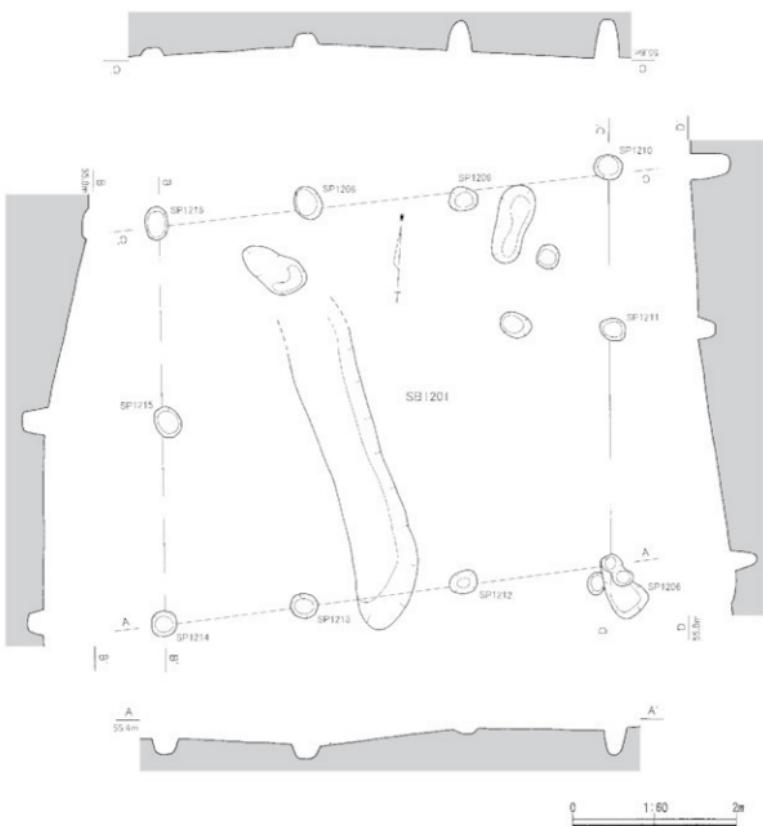
第17図 B-2区1・2面全体図

(3) B-2区1・2面の遺構（第17図～第20図）

掘立柱建物跡（SB）

SB1201（第17・18図） J 9 グリッド南部からK 9 グリッドにかけて検出している。桁行3間（約5.60m）、梁行2間（約4.88m）の側柱建物であり、長軸方向はN-80°-Eである。柱穴の平面形状は円形または梢円形がほとんどであり、直径は30cm～40cm前後である。SP1206・1208・1209から土師器片が出土している。

SB1202（第17・19図） J 8 グリッド南西部からJ 9 グリッド南東部にかけて検出している。1間×1間の側柱建物であり、桁行は約3.84m、梁行は約3.58m、長軸方向はN-55°-Eである。柱穴の平面形状は円形または梢円形であり、直径は60cm前後である。遺物は出土していない。

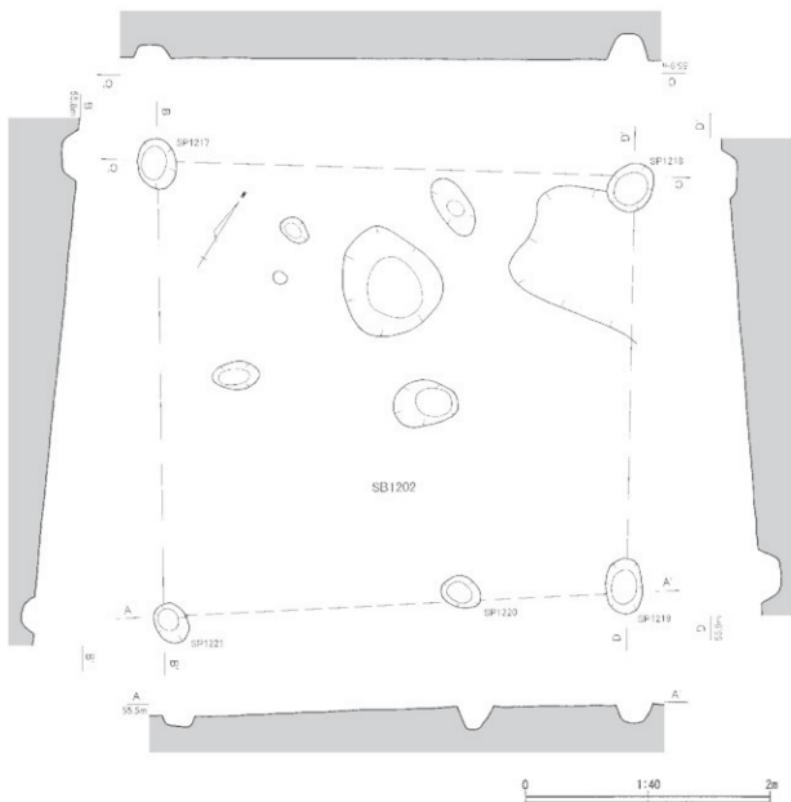


第18図 SB1201平面図・断面図

溝状遺構（SD）

SD1201（第17図） J9グリッド東部で検出しており、西北西から東南東に向かってわずかに幅を広げながら延びる。検出長は約260cm、検出幅は約65cm、深さは約17cmである。北東側では溝に沿って直径10cm～50cm、深さ10cm～20cm程度の複数の小穴が隣接している。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SD1202（第17図） J10グリッド南東部からK10グリッド北東部にかけて検出している。南西から北東に向かって幅が広くなり、北東側は消失している。検出長は約260cm、検出幅は約40cm～152cm、深さは約24cmである。近世の陶磁器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。



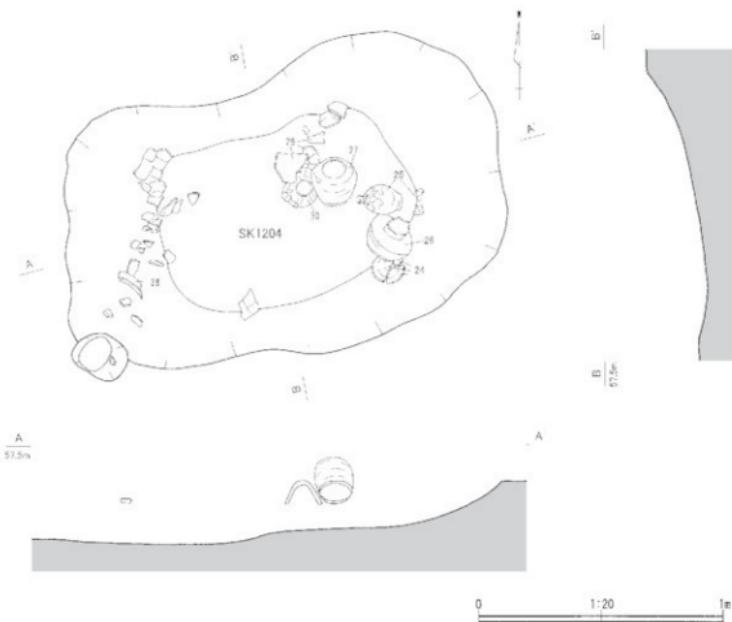
第19図 SB1202平面図・断面図

土坑（SK）

SK1204（第17・20図） 110グリッド南東部で検出している。平面形は不定形であり、北東から南西方向に掘り込まれている。底面は南西に向かって緩やかに傾斜する。検出長は約183cm、検出幅は約119cm、深さは約10cmである。遺構内から須恵器壺身（24）・淨瓶（25）・長頸瓶（26～27）、土師器甕（28～30）が出土している。

SK1205（第17図） 19グリッド北西部で検出している。平面形は南東から北西方向に掘り込まれる楕円形を呈するとと思われるが、北西部は消失している。検出長は約84cm、検出幅は約74cm、深さは約20cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1206（第17図） 19グリッド南西部で検出している。平面形はややいびつな隅丸方形である。検出長は約182cm、検出幅は約178cm、深さは約50cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のた



第20図 SK1204平面図・断面図

め図示できなかった。

SK1207（第17図） I9グリッド南部で検出しており、平面形はややいびつな円形である。検出長は約100cm、検出幅は約76cm、深さは約25cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1208（第17図） J9グリッド北部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約94cm、検出幅は約90cm、深さは約15cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1209（第17図） J9グリッド北部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約116cm、検出幅は約82cm、深さは約24cmである。遺構内から須恵器环蓋（31）が出土している。

SK1210（第17図） J9グリッド北東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約58cm、検出幅は約51cm、深さは約20cmである。須恵器环蓋（32）・土師器甕（33）が出土している。

SK1211（第17図） K10グリッド北東部で検出している。平面形は北西から南東方向に掘り込まれる楕円形であり、検出長は約104cm、検出幅は約55cmである。南東側の深さは約15cmであり、北西側では直径24cm、深さ10cm程度の円形に掘り込まれる。須恵器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

性格不明遺構（SX）

SX1201（第17図） I8～I9グリッド南部からJ8～J9グリッド北部にかけて検出している。J9～I9

グリッドではほぼ東西方向に掘り込まれ、南側は流失する。東側で南東方向に屈曲し、内部から複数の土坑が検出されている。検出長は約880cm、検出幅は約250cm、深さは約25cmである。須恵器壺蓋（34）・环身（35～36）、土師器甕（37～38）が出土している。

SX1202（第17図） J9グリッド中央からJ10グリッド東部にかけて検出しており、西南西から東北東方向へS字状に屈曲しながら延びる。検出長は約1,230cm、検出幅は約240cm、深さは約30cmである。遺物は出土していない。

小穴（SP）

SP1201（第17図） J9グリッド北西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約54cm、検出幅は約53cm、深さは約18cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1202（第17図） J9グリッド北東部で検出しており、南側にSP1203が隣接している。平面形は橢円形を呈しており、検出長は約48cm、検出幅は約32cm、深さは約18cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1203（第17図） J9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約46cm、検出幅は約39cm、深さは約28cmである。須恵器壺蓋（39）が出土している。

SP1204（第17図） J9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約29cm、検出幅は約28cm、深さは約12.5cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1205（第17図） J8グリッド北西部で検出しており、平面形は橢円形である。検出長は約54cm、検出幅は約41cm、深さは約13cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1206（第17・18図） K9グリッド北東部で検出している。平面形は不定形であり、検出長は約82cm、検出幅は約44cm、深さは約30cmである。北西側では直径約24cm、深さ20cm～30cmのピットが3基接している。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1207（第17図） K9グリッド北東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約54cm、検出幅は約42cm、深さは約12cmである。須恵器壺蓋（40）が出土している。

SP1208（第17・18図） J9グリッド西部で検出しており、平面形は橢円形である。検出長は約43cm、検出幅は約33cm、深さは約36cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1209（第17・18図） J9グリッド中央部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約36cm、検出幅は約31cm、深さは約27cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1210（第17・18図） J9グリッド中央部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約36cm、検出幅は約32cm、深さは約48cmである。遺物は出土していない。

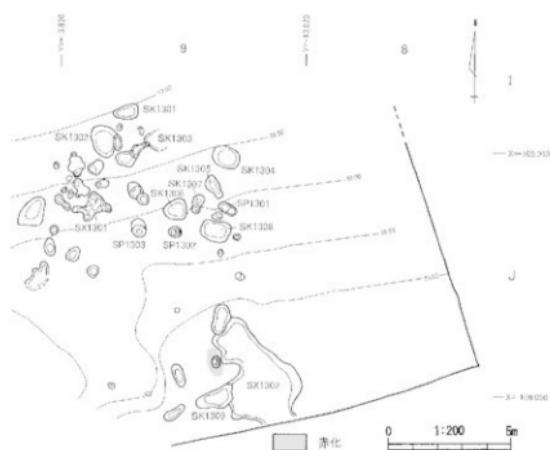
SP1211（第17・18図） J9グリッド南西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約30cm、検出幅は約27cm、深さは約18cmである。遺物は出土していない。

SP1212（第17・18図） K9グリッド北部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約34cm、検出幅は約29cm、深さは約8cmである。遺物は出土していない。

SP1213（第17・18図） K9グリッド北西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約33cm、検出幅は約31cm、深さは約18cmである。遺物は出土していない。

SP1214（第17・18図） K9グリッド北西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約35cm、検出幅は約30cm、深さは約19cmである。遺物は出土していない。

SP1215（第17・18図） J9グリッド南西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約38cm、検出幅は約32cm、深さは約29cmである。遺物は出土していない。



第21図 B-2区3面全体図

SP1216 (第17・18図) J 9

グリッド西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約41cm、検出幅は約28cm、深さは約8cmである。遺物は出土していない。

SP1217 (第17・19図) J 9

グリッド南東部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約63cm、検出幅は約47cm、深さは約21cmである。遺物は出土していない。

SP1218 (第17・19図) J 8

グリッド中央部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約64cm、検出幅は約53cm、深さは約33cmである。遺物は出土していない。

SP1219 (第17・19図) J 8

グリッド南西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約67cm、検出幅は約45cm、深さは約27cmである。遺物は出土していない。

SP1220 (第17・19図) J 8 グリッド南西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約61cm、検出幅は約39cm、深さは約28cmである。遺物は出土していない。

SP1221 (第17・19図) J 8 グリッド南西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約52cm、検出幅は約40cm、深さは約14cmである。遺物は出土していない。

(4) B-2区3面の遺構 (第21図)

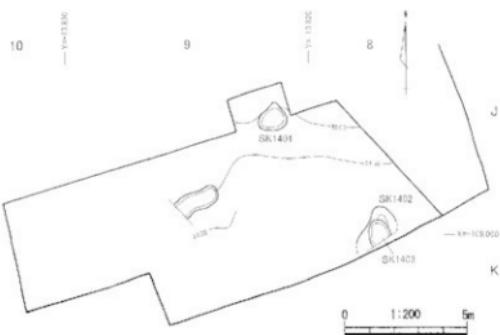
土坑 (SK)

SK1301 (第21図) I 9 グリッド南西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約104cm、検出幅は約59cm、深さは約25cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1302 (第21図) I 9 グリッド南西部からJ 9 グリッド北西部にかけて検出している。平面形は不定形であり、東側に長さ約66cm、幅約30cm、深さ約13cmの梢円形の土坑が接している。検出長は約137cm、検出幅は約110cm、深さは約19cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1303 (第21図) I 9 グリッド南西部で検出している。平面形は不定形であり、東側が流失している。西側には長さ70cm～80cm程度の不定形の土坑が2基重なっている。検出長は約56cm、検出幅は約78cm、深さは約11cmである。須恵器の环身(41)が出土している。

SK1304 (第21図) I 9 グリッド南東部からJ 9 グリッド北東部にかけて検出している。平面形は梢円形であり、西北西から東南東方向に掘り込まれている。検出長は約114cm、検出幅は約86cm、深さは約15cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。



第22図 B-2区4面全体図

形は直径約30cm～50cmの円形のピットがほぼ南北方向に2基連なる不定形である。須恵器環蓋(43)が出土している。

SK1308 (第21図) J9グリッド北東部で検出している。平面形は隅丸方形であり、西北西から東南東方向に掘り込まれる。検出長は約120cm、検出幅は約84cm、深さは約22cmである。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1309 (第21図) J9グリッド南東部からK9グリッド北東部にかけて検出している。平面形は不定形であり、東側にSX1302が隣接する。検出長は約152cm、検出幅は約82cm、深さは約17cmである。遺物は出土していない。

性格不明遺構 (SX)

SX1301 (第21図) J9グリッド北西部で検出している。平面形は不定形であり、北側に不定形の複数の土坑が隣接している。検出長は約162cm、検出幅は約85cm、深さは約53cmである。遺物は出土していない。

SX1302 (第21図) J9グリッド南東部からK9グリッド北東部にかけて検出している。北西から南東方向へ延びており、南側は調査区外のため未検出である。北側で長さ約120cm、幅約70cm、深さ約30cmの土坑が接しており、西側でSK1309に接している。検出長は約450cm、検出幅は約320cm、深さは約27cmである。遺物は出土していない。

小穴 (SP)

SP1301 (第21図) J9グリッド北東部で検出している。平面形は梢円形であり、検出長は約76cm、検出幅は約41cm、深さは約15cmである。北西側での深さは約10cmであり、南東側では直径約34cmの円形に深く掘り込まれる。須恵器片・土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

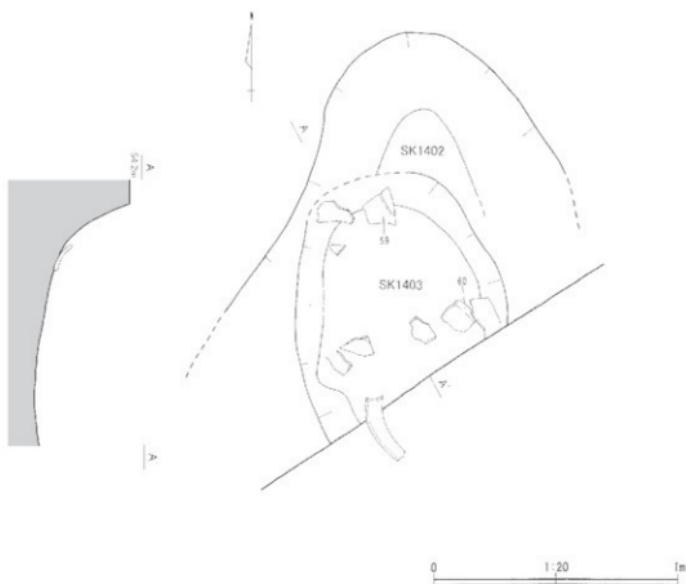
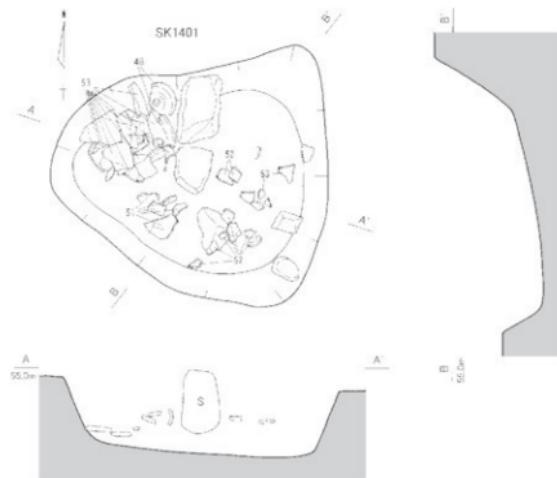
SP1302 (第21図) J9グリッド北部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約55cm、検出幅は約44cm、深さは約34.5cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP1303 (第21図) J9グリッド北西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約75cm、検出

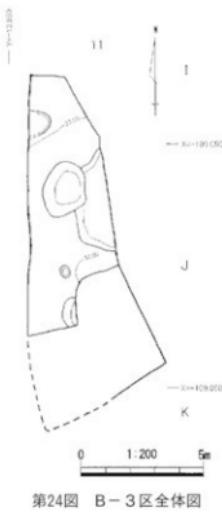
SK1305 (第21図) J9グリッド北東部で検出している。平面形は不定形であり、北西から南東方向に延びる。検出長は約102cm、検出幅は約54cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK1306 (第21図) J9グリッド北部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約98cm、検出幅は約84cm、深さは約22.5cmである。須恵器の环蓋(42)が出土している。

SK1307 (第21図) J9グリッド北部で検出している。平面



第23図 SK1401~1403平面図・断面図



第24図 B-3区全体図

幅は約58cm、深さは約40cmである。須恵器壺蓋（44～46）・土師器甕（47）が出土している。

(5) B-2区4面の遺構（第22図～第23図）

土坑（SK）

SK1401（第22・23図）J9グリッド東部で検出している。平面形は不定形であり、断面は平坦に掘り込まれている。検出長は約114cm、検出幅は約112.5cm、深さは約29cmである。須恵器壺蓋（48～50）・土師器甕（51～53）が出土している。

SK1402（第22・23図）J8グリッド南西部からK8グリッド北西部にかけて検出している。平面形は不定形であり、南側が消失している。検出長は約155cm、検出幅は約132cm、深さは約31.5cmである。遺構の覆土から須恵器壺蓋（54～55）・土師器甕（56～58）が出土している。

SK1403（第22・23図）SK1402の南側で検出している。平面形は梢円形になると思われるが、南東側は調査区外のため未検出である。検出長は約86cm、検出幅は約90cm、深さは約40cmである。土師器甕（59～60）が出土している。

3 B区出土遺物（第25図～第34図）

SK1102出土遺物（第25図1～2）

1・2は瀬戸・美濃窯産の陶器であり、1は香炉、2は水指と見られる。1は底部外面に糸切り痕があり、口縁部内外面および胴部外面に釉が施される。17世紀前半の製品と考えられる。2は底部破片であり、胴部内外面、底部内面及び底部外面の一部に釉が施される。17世紀代の製品と考えられる。

SK1104出土遺物（第25図3）

3は須恵器の壺蓋であり、口縁部を欠損する。天井部外面にはヘラ削りを施し、円盤状のつまみをしている。つまみの中心は凹状になる。

SP1102出土遺物（第25図4）

4は須恵器の円面鏡である。裾広がりの圓台を持ち、頂部を欠損している。8世紀代の製品と思われる。

SK1201出土遺物（第25図5～7）

5は須恵器壺身の底部破片であり、底部には高台が付けられる。焼成不良のため調整は不明である。

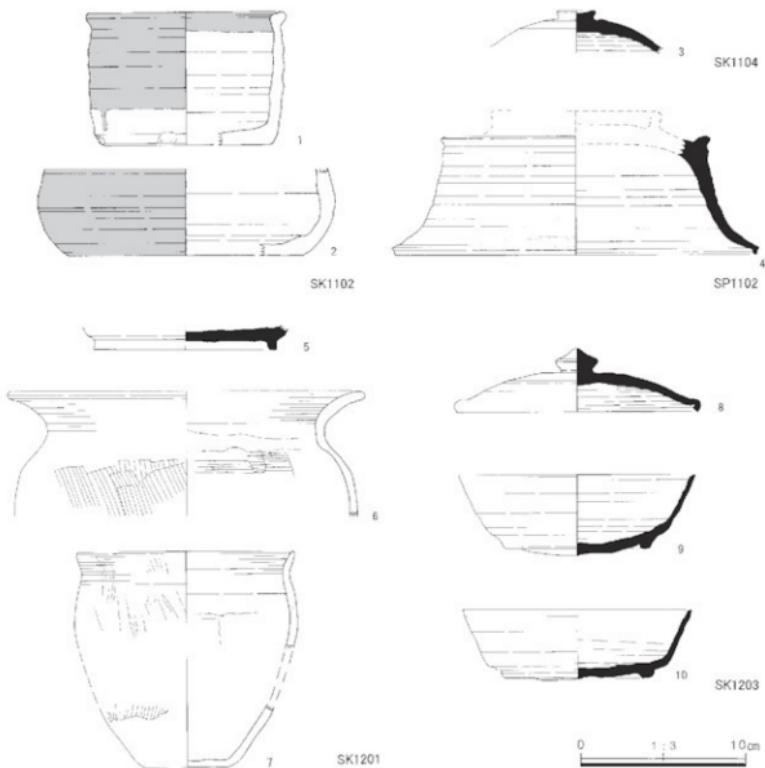
6・7は土師器である。6は長胴甕の口縁部破片であり、直立した頸部から口縁部を横に引き出し、頸部内面に接合痕が残る。口縁部から頸部の内外面及び胴部内面には横ナデ調整を施し、胴部外面には斜方向のハケ調整を施す。

7は小型甕であり、胴部を欠損している。口縁部はくの字に外反しており、口縁部内外面には横ナデ調整、胴部外面には縦方向のハケ調整を施す。底部外面には押圧痕が残る。

SK1203出土遺物（第25図8～10）

8は須恵器の壺蓋である。天井部外面にヘラ削りを施し、宝珠状のつまみを付している。口縁端部は内側に折り返す。

9・10は須恵器の壺身である。9は底部に丸みを持ち、底部中央が高台よりも下に飛び出す。底部内



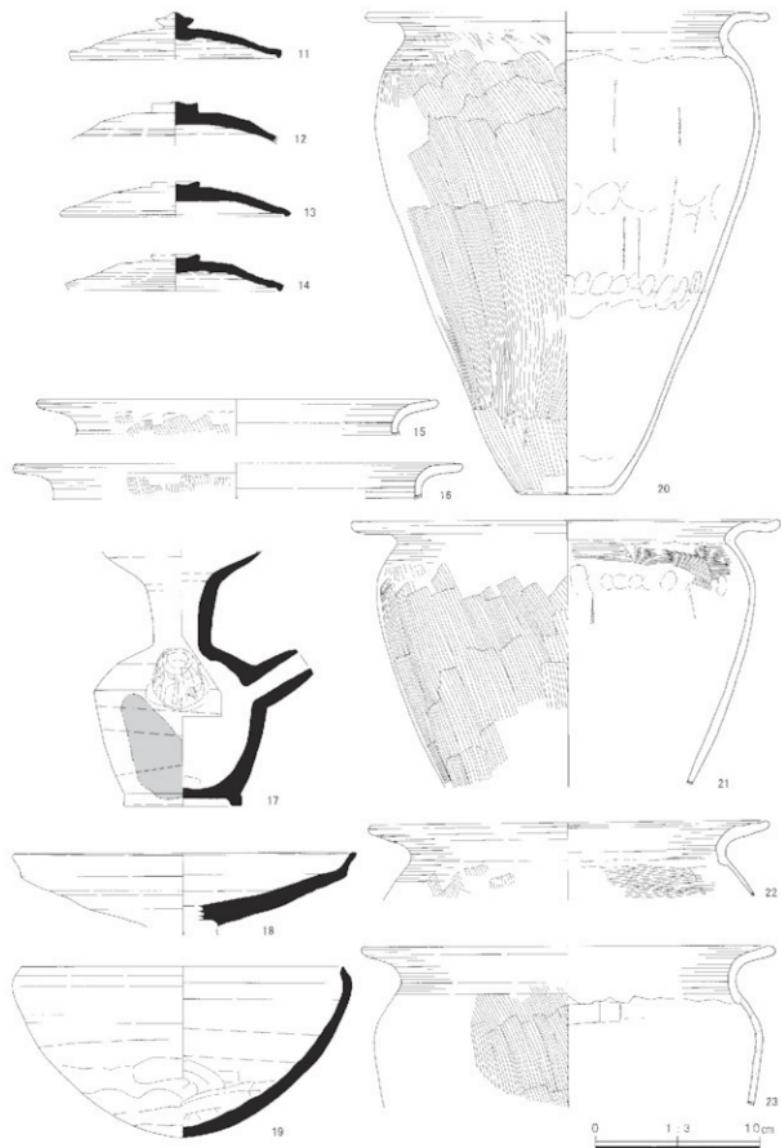
第25図 SK1102・1104、SP1102、SK1201・1203出土土器

面及び胸部外面にはノタ目が残り、胸部は緩やかに屈曲して斜めに立ち上がる。底部外面にはヘラ削りを施し、低い高台を貼り付ける。10は底部に丸みを持ち、胸部がやや屈曲して立ち上がる。胸部外面にはノタ目が残り、底部外面にはヘラ削りを施して低い高台を貼り付ける。いずれも器形から8世紀中頃の製品と思われるが、焼成はやや不良であり、生産地は不明である。

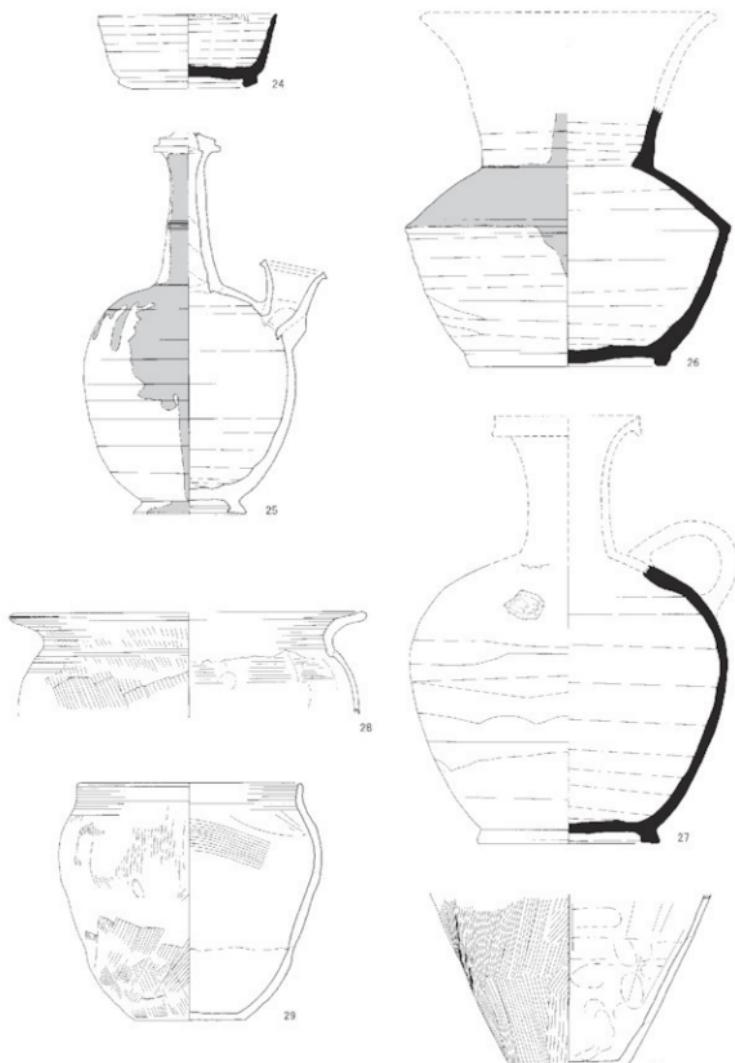
SK1202出土遺物（第26図11～23）

11～14は須恵器の壺蓋である。11は天井部外面に口縁部付近までヘラ削りを施し、宝珠状のつまみを付している。口縁端部の断面は三角形を呈している。12～14はヘラ削りにより平坦な天井部を作り出し、円盤状のつまみを付している。12は口縁部を欠損しており、つまみの中心を凸状に盛り上げている。13・14はつまみの中心が凹状になり、口唇部は断面が三角形を呈している。14は口縁部内外面に重ね焼きの痕跡が残る。

17は須恵器の甕であり、口縁部先端を欠損している。胸部外面にはヘラ削りを施し、肩部と胸部の境



第26図 SK1202出土土器



第27図 SK1204出土土器

目に注口を付ける。注口部外面には縦方向のヘラ削りを施す。底部外面の中心には糸切り痕が残り、高台を貼り付けてナデを施す。頸部から胴部にかけての外面の一部に自然釉が付着していたと思われる痕跡が観察される。助宗窯産の8世紀前半頃の製品である可能性が高いと考えられる。

18は須恵器の高环である。口縁部が外反し、口縁端部が折り曲げられて上方へ立ち上がる。脚部を欠損しているが、頸部との境目に接合痕が残る。

19は須恵器の瓦鉢である。やや丸みを帯びた尖底であり、口縁部は内湾して内側にやや肥厚させ、口縁端部が直立する。胴部下半から底部にかけての外面にヘラ削りを施す。8世紀後半の製品と考えられる。

15・16・20～23は土師器の長胴甕である。15・16は口縁部の破片であり、横方向に引き出した口縁部の内外面に横ナデ調整を施す。頸部外面には縦方向のハケ目の痕跡が残る。20～23は口縁部内外面に横ナデ調整を施し、頸部内面に接合痕が残る。胴部外面には斜～縦方向のハケ調整が施される。20は胴部内面に接合痕が残る。21は底部を欠損しており、口縁部を内側に引き上げて受け口状にする。22・23は口縁部から胴部の破片であり、22は肩部内面に横方向のハケ調整を施す。

SK1204出土遺物（第27図24～30）

24は須恵器の环身である。平坦な底部から胴部が屈曲して立ち上がり、やや外反する。胴部内面にはノタ目が残る。底部外面の中心には糸切り痕を残し、胴部下半から底部にかけての外面にヘラ削りを施して高台を貼り付ける。口縁部内面には墨が付着している。

25は灰釉陶器の淨瓶であり、尖台部の先端を欠損している。胴部は卵形を呈しており、頸部と胴部の境目には接合痕が残る。胴部外面下半にはヘラ削りを施す。肩部には注口が付けられ、注口の上部は外側に開く。頸部は下方に向かってやや広がりを持ち、頸部中位に2条1組の沈線が施される。底部にはハの字状に広がる高台を貼り付ける。頸部から胴部の外面に自然釉が付着している。猿投窯産の8世紀後半の製品と考えられる。

26は須恵器の長頸瓶であり、口縁部を欠損している。胴部中位から内側に折れ曲がり、頸部から立ち上がってやや外反する。胴部下半の外面にヘラ削りを施し、底部には高台を貼り付けてナデ調整を施す。頸部から肩部の外面および底部内面に自然釉が付着している。湖西窯産の8世紀前半の製品と考えられる。

27は須恵器の長頸瓶である。口頸部を欠損しているが、胴部を塞いだ後に孔を穿って口頸部を差し込む三段成形の技法が取られていたと考えられる。胴部の片側に環状手の痕跡が残り、内面にはノタ目が残る。胴部下半の外面にヘラ削りを施し、底部には高台を貼り付ける。猿投窯産の8世紀後半の製品と考えられる。

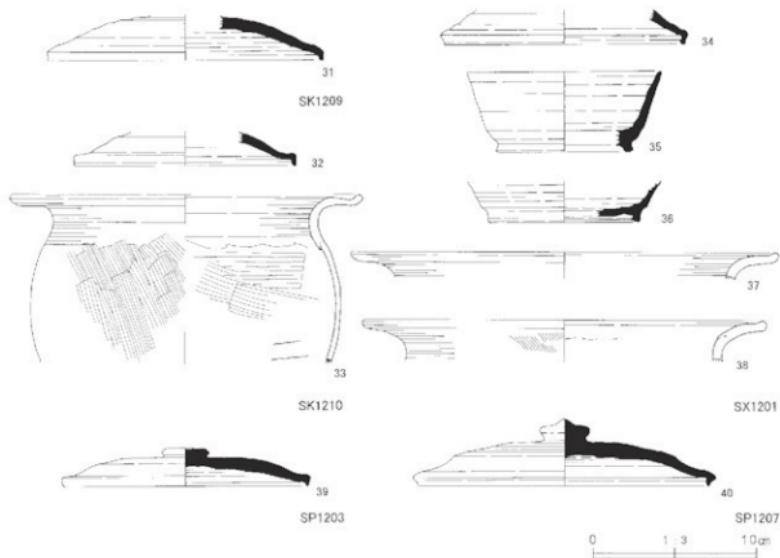
28～30は土師器の甕であり、28・30は長胴甕、29は小型甕である。28は口縁部から胴部の破片であり、頸部内面に接合痕が残る。口頸部内外面に横ナデ調整を施し、頸部外面には2条1組の沈線が施される。胴部外面には斜方向のハケ調整を施す。30は胴部から底部のみ残存しており、外面には縦方向のハケが施される。内面には輪積みの痕跡が残る。29は直立した口縁部の内外面に横ナデ調整を施しており、胴部内面には接合痕が残る。胴部外面には縦～斜方向のハケ調整を施し、胴部上半ではハケ目の上から縦方向のナデを施している。

SK1209出土遺物（第28図31）

31は須恵器の环蓋であり、頂部を欠損している。口縁端部は垂直に折り返し、天井部外面にはヘラ削りを施す。内外面に重ね焼きの痕跡が見られる。

SK1210出土遺物（第28図32～33）

32は須恵器环蓋の口縁部破片である。口縁端部を垂直に折り曲げており、天井部外面にはヘラ削りを



第28図 SK1209・1210、SX1201、SP1203・1207出土土器

施す。外面に重ね焼きの痕跡が見られる。

33は土師器の長胴甌である。口縁部内外面に横ナデ調整を施し、口縁端部を内側に引き上げて受け口状にしている。頸部内面には接合痕が残る。胴部外面は斜方向のハケ調整、内面は横方向のハケ調整を施す。

SX1201出土遺物（第28図34～38）

34は須恵器環蓋の口縁部破片である。口縁端部は内側に折り曲げている。

35・36は貼り付け高台の須恵器坏身であり、36は底部破片である。いずれも平坦な底部から胸部が鋭く屈曲して直線的に立ち上がる形態になると思われる。

37・38は土師器長胴甌の口縁部破片である。口縁部を横方向に強く引き出しており、内外面には横ナデ調整を施す。38は頸部内面に接合痕が残る。

SP1203出土遺物（第28図39）

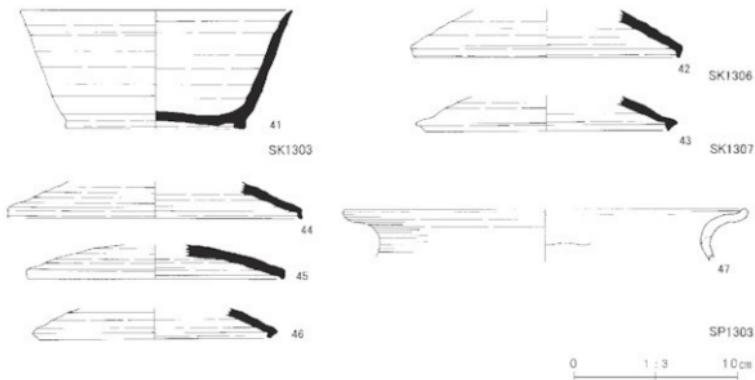
39は須恵器の坏蓋である。円盤状のつまみを付しており、つまみの中心は平坦である。口縁端部を垂直に折り曲げ、断面は三角形を呈している。摩耗のため調整痕は不明瞭である。

SP1207出土遺物（第28図40）

40は須恵器の坏蓋である。宝珠状のつまみを付け、口縁端部は垂直に折り曲げている。天井部外面は口縁部付近までヘラ削りを施す。

SK1303出土遺物（第29図41）

41は須恵器の坏身である。底部から胸部が鋭く屈曲して斜めに立ち上がり、底部付近にはヘラ削りを



第29図 SK1303・1306・1307、SP1303出土土器

施して高台を貼り付ける。底部外面の中心には糸切り痕が残る。

SK1306出土物（第29図42）

42は須恵器環蓋の口縁部破片である。口縁端部を内側に折り曲げ、口唇部は丸みを持つ。外面の口縁部付近には自然釉が付着しており、重ね焼きの痕跡が観察される。

SK1307出土物（第29図43）

43は須恵器環蓋の口縁部破片である。口縁端部は内側に折り曲げ、断面は三角形を呈している。

SP1303出土物（第29図44～47）

44～46は須恵器環蓋の口縁部破片である。44・45は口縁端部を垂直に折り曲げている。46は口縁端部を内側に折り曲げ、口縁端部は断面が三角形を呈している。44は外面に自然釉が付着している。45・46は外外面に重ね焼きの痕跡が見られる。

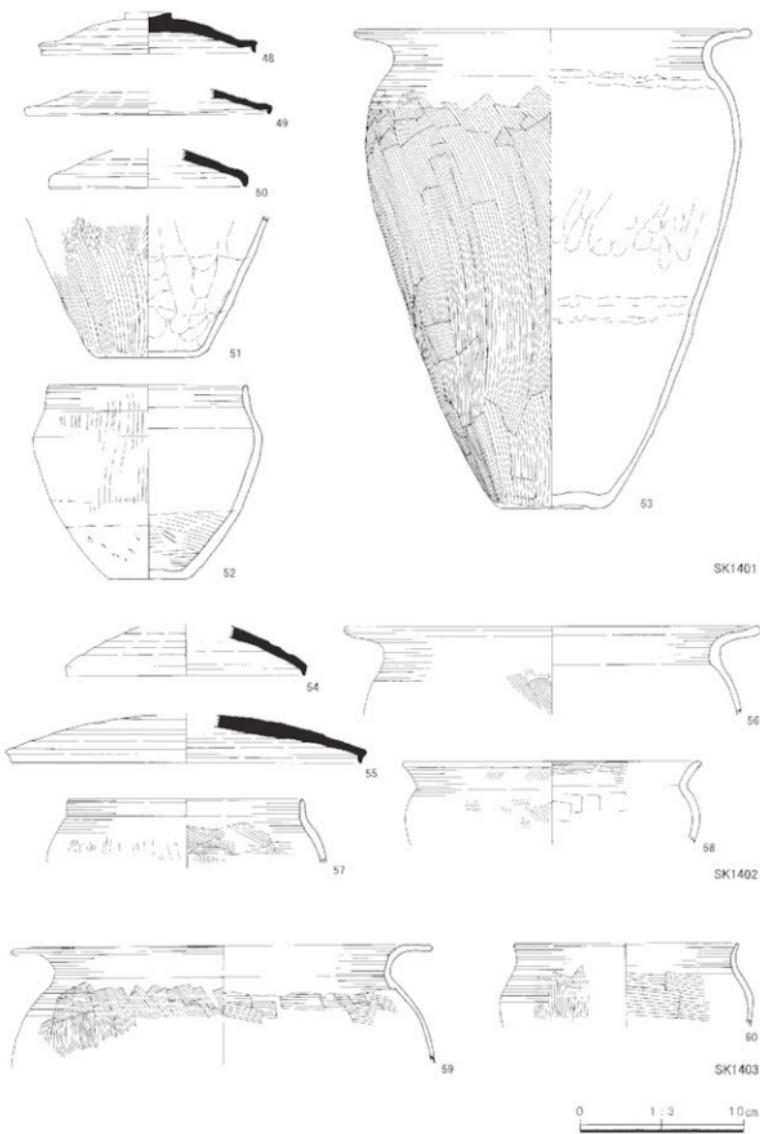
47は土師器長胴甕の口縁部破片である。口縁部を横方向に強く引き出し、内側に引き上げて受け口状にしている。外外面には横ナデ調整を施す。頸部内面には接合痕が残る。

SK1401出土物（第30図48～53）

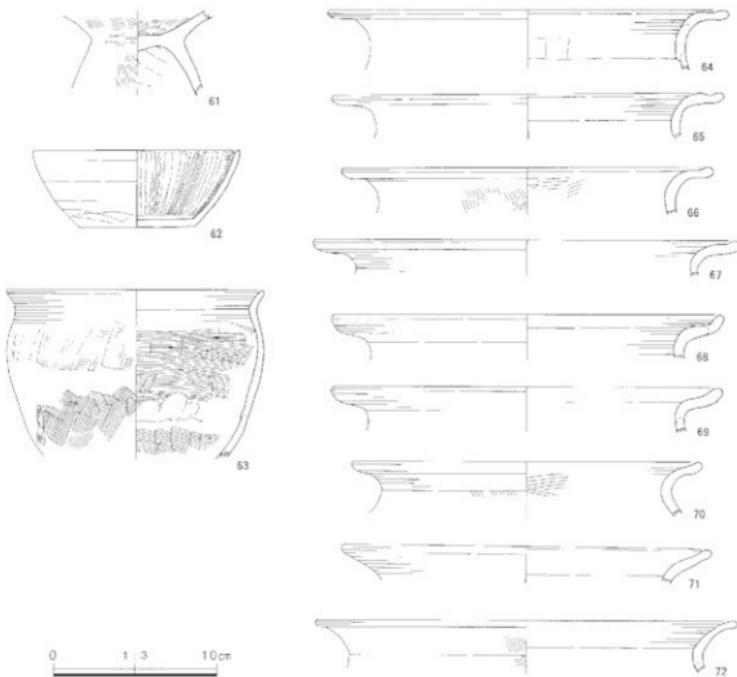
48～50は須恵器の环蓋である。48は円盤状のつまみを持ち、つまみの中心は凹状になる。口縁端部は垂直に折り曲げている。天井部外面にはヘラ削りを施す。49・50は口縁部破片であり、口縁端部を垂直に折り曲げる。

51・53は土師器の長胴甕である。51は底部のみが残存しており、外面に縦～斜方向のハケ調整を施す。内面には輪積みの痕跡が残る。53はほぼ完形品である。口縁部内外面に横ナデ調整を施し、胴部外面には斜～縦方向のハケ調整を施す。頸部および胴部内面に接合痕が残る。底部外面にはハケ調整を施し、内面には炭化物が付着している。

52は土師器の小型甕である。口縁部が直立し、胴部と頸部の境が屈曲する。口縁部内外面および胴部内面に接合痕が残る。口縁部内外面および胴部上半の内面に横ナデ調整を施し、胴部下半の内面に横方向のハケ調整を施す。胴部外面は縦方向のハケ調整後にナデを施す。



第30図 SK1401~1403出土土器



第31図 B区遺構外出出土土器1

SK1402出土遺物（第30図54～58）

54・55は須恵器の坏蓋であり、いずれも頂部を欠損している。54は口縁端部を垂直に折り曲げ、口唇部は丸みを帯びている。外面には横ナデ調整を施す。55は口縁端部を内側に折り曲げ、断面は三角形を呈している。天井部外面は口縁部付近までヘラ削りを施す。

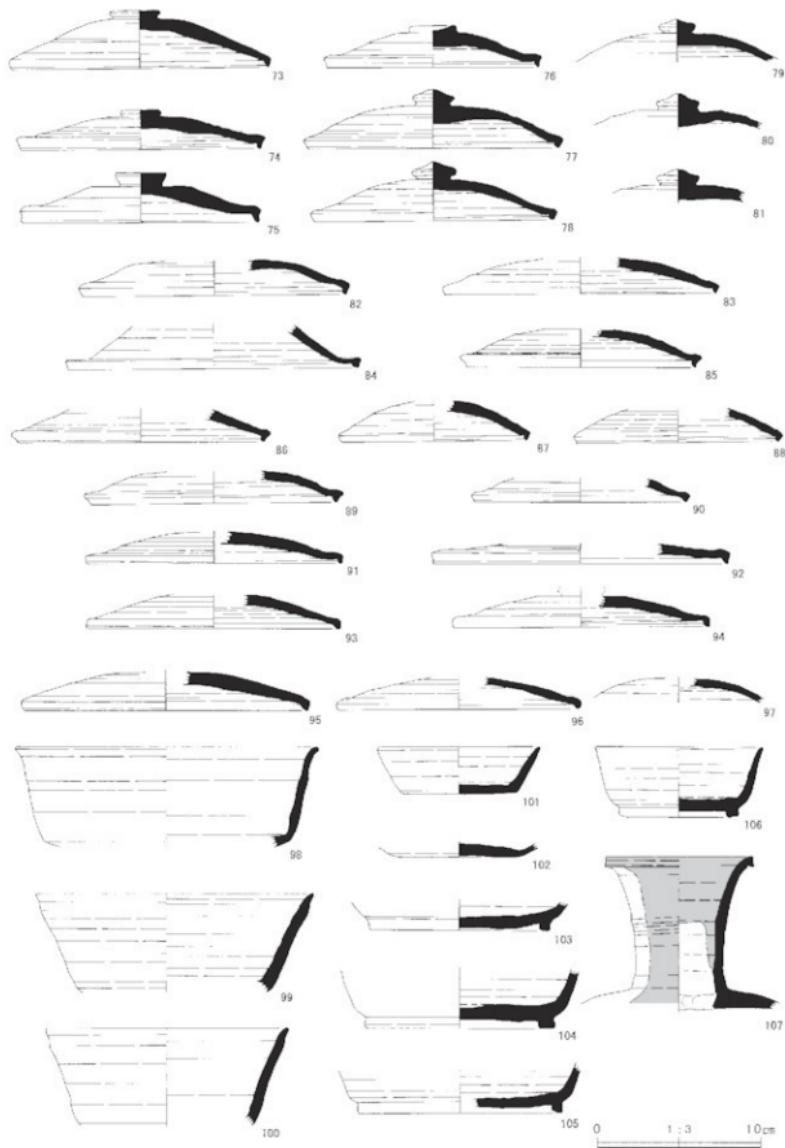
56は土師器の長胴甕である。口縁部から胴部の破片であり、口縁部を横方向に強く引き出す。頸部内面には接合痕が残る。口縁部外面は横ナデ調整、胴部外面には斜方向のハケ調整を施す。

57・58は土師器の小型甕である。57は口縁部を直立させ、外面に横ナデ調整を施す。胴部外面は縦方向のハケ調整後にナデを施し、内面には横方向のハケ調整が施される。58は口縁部がくの字に外反する。口縁部外面には横ナデ調整を施し、内面には横ハケ調整が残る。胴部外面は縦方向のハケ調整後にナデを施している。

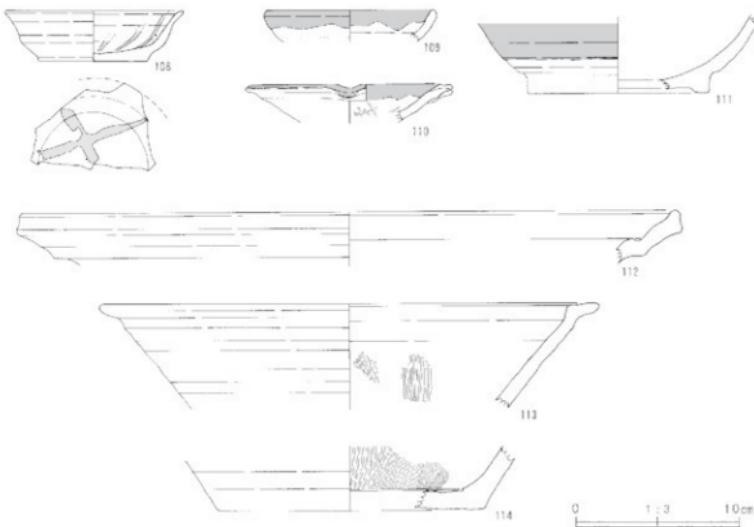
SK1403出土遺物（第30図59・60）

59は土師器の長胴甕である。口縁部を横方向に強く引き出し、外面に横ナデ調整を施す。頸部内面には接合痕が残る。胴部外面には斜方向のハケ調整を施す。

60は土師器の小型甕である。口縁部が緩く外反し、外面に横ナデ調整を施す。胴部外面は縦方向の



第32図 B区遺構外出土土器2



第33図 B区遺構外出出土土器3

ハケ調整後にナデを施し、内面には横方向のハケ調整を施す。

遺構外出土遺物（第31図61～第33図114）

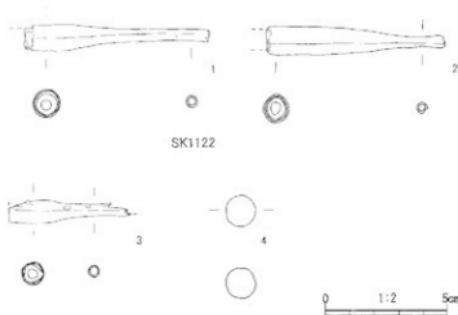
61は古式土師器の台付甕台部である。台部はハの字状の広がりを持ち、胴部内面は横方向のハケ調整、台部外面には縦方向のハケ調整を施している。在地系の台付甕と見られる。

62は土師器の無台坏である。平底で、胴部はやや内湾して立ち上がる。胴部外面には横方向のナデ調整を施し、底部外面にはヘラ削りを施す。胴部内面には横ナデ調整後に放射状の暗文を施している。

63は土師器の小型甕であり、底部を欠損している。口縁部はくの字に外反し、内外面に横ナデ調整を施す。胴部外面には斜方向、内面には横方向のハケ調整を施し、胴部上半の外面にはハケ調整後にナデを施している。胴部内面には接合痕が残る。

64～72は土師器長胴甕の口縁部破片であり、口縁部を強く横に引き出し、内外面に横ナデ調整を施す。64～67は口縁端部が肥厚する。68・69は口縁端部を内側に引き上げて受け口状にする。64は頸部内面に接合痕が残る。

73～97は須恵器の壺蓋である。73～76は円盤状のつまみを持ち、口縁端部を内側に折り曲げる。天井部外面にはヘラ削りを施す。73～75はつまみの中心がほぼ平坦である。76はつまみの中心が凹状になり、口縁部外面に重ね焼きの痕跡が見られる。77～81は宝珠状のつまみを持ち、天井部外面にヘラ削りを施す。77は口縁部外面に自然軸が付着しており、重ね焼きの痕跡が見られる。77・78は口縁端部が断面三角形を呈している。79～81は口縁部を欠損している。82～97は頂部を欠損しており、口縁部を内側に折り曲げている。83・96は外面に、93は内外面に、94は内面に重ね焼きの痕跡が見られる。95は口縁部外面に自然軸が付着している。84は焼きひずみが生じている。



第34図 B区出土金属製品

口縁部内面には墨が付着している。

107は須恵器の長頸瓶である。口縁部が外反し、頸部には2条1組の沈線が施される。肩部との境目の中には接合痕が残り、外面全体と口縁部内面に自然釉が付着している。

108は灰釉陶器の碗である。胸部を外側に湾曲させて稜を作り、口縁部は外側に引き出す。無高台であり、底部外面には糸切り痕が残る。内外面には放射状の火擣痕が認められる。黒窯90号窯式併行の9世紀後半の製品と考えられる。

109～114は陶器である。109・110は古瀬戸の15世紀後半の製品であり、109は緑釉小皿、110は鉢皿である。109は口縁部内外面に釉が施される。110は口縁部内面に釉を施し、内面に格子状の鉢目が付けられる。111は練鉢の底部破片であり、底部に高台が付けられ、胸部外面に釉が施される。瀬戸・美濃窯産の18世紀後半から19世紀前半の製品と考えられる。112～114は擂鉢であり、112・114は瀬戸・美濃窯産、113は志戸呂窯産である。112は口縁部破片であり、19世紀初頭の製品と考えられる。113は口縁部を折り返して外反させて内側に突起を持ち、内面には擂り目が施される。17世紀頃の製品と考えられる。114は底部破片であり、内面全体に擂り目が施される。18～19世紀頃の製品と考えられる。

金属製品（第34図1～4）

1～3はキセルの吸口である。1は肩部から吸口にかけてすぼまる形態を呈している。2は吸口部附近に凹みを持ち、凹部がやや潰れている。3は肩部および吸口を一部欠損しており、全体的に破損が大きい。

4は鉄砲玉である。直径約1.2cm、重量は約9gである。

第4節 F区の遺構と遺物

1 F区の土層（第35・36図）

F区は南側へやや傾斜する比較的平坦な地形である。東西方向ではほぼ水平な堆積が見られるが、第2面以下では調査区南側に河川堆積によると見られる砂質土層が検出されており（南壁土層・中央土層第1層）、その下では暗灰黄色～黒色粘土層（南壁土層第3～4層）が検出されている。また、河川の東側では暗灰黄色粘土層（南壁土層第5層）が深く堆積しており、湿地を呈していたと考えられる。

98～106は須恵器の坏身である。98・99・101・102は無台坏であり、101は平底の底部から胸部が鋭く屈曲して立ち上がり、胸部は直線的に外傾する。101・102は底部外面全体にヘラ削りを施す。98は胸部外面に自然釉が付着している。

103～106は貼り付け高台の有台坏であり、103～105は口縁部を欠損している。104は底部外面の中心に糸切り痕が残る。

106は平坦な底部から胸部にかけて鋭く屈曲して立ち上がり、底部外面全体にヘラ削りを施す。

F区の遺構は主に調査区北側で検出されている。北壁土層のうち、第7層が第1遺構検出面、第13層が第2遺構検出面、第14層が第3遺構検出面、第16層が第4遺構検出面となっている。また、調査区北東側では盛土直下で地山層（岩盤）が確認されている。

2 F区検出遺構

F区の遺構面は1面～4面が確認されている。1面では調査区全体で平安時代～中世の溝状遺構および土坑が検出され、山茶碗・灰釉陶器が出土している。2面から3面は奈良時代末～平安時代初期の溝状遺構・土坑・小穴が調査区北半分に集中して検出されており、南側では東西方向の流路が確認される。4面では調査区北西側で古墳時代前期の掘立柱建物・土坑・小穴等を検出した。また、3面・4面では調査区南側の自然流路付近から焚き火跡と思われる遺構が検出されている。

F区の出土遺物の多くは破片であり、遺構内から出土しているものは少ない。遺構外の遺物は主に調査区の北半分に散乱した状態で出土しており、北側に隣接する斜面地（B区）からの流れ込みである可能性が考えられる。

(1) F区 1面の遺構（第37図）

溝状遺構（SD）

SD2101（第37図） K7グリッド南西部からK8グリッド北西部にかけて検出しており、北西から南方方向へ弓なりに延びる。北側は調査区外のため未検出である。検出長は約600cm、検出幅は約45cmである。灰釉陶器の長頸瓶肩部と見られる破片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SD2102（第37図） L7グリッド南部からL8グリッド北部にかけて検出しており、ほぼ東西方向に延びる。検出長は約10m、検出幅は約50cmである。中央部では、溝の北側に長さ60cm～120cm程度の土坑が3基接している。遺構内から灰釉陶器（115・116）、山茶碗（117）が出土している。

土坑（SK）

SK2101（第37図） K8グリッド南部からK9グリッド北部にかけて検出している。平面形は不定形であり、東側では直径約60cmの円形に掘り込まれる。北側は調査区外のため未検出である。検出長は約195cm、検出幅は約120cmである。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK2102（第37図） L7グリッド南部の調査区南壁付近で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約145cm、検出幅は約80cmである。灰釉陶器（118）が出土している。

(2) F区 2面の遺構（第38図～第40図）

土坑（SK）

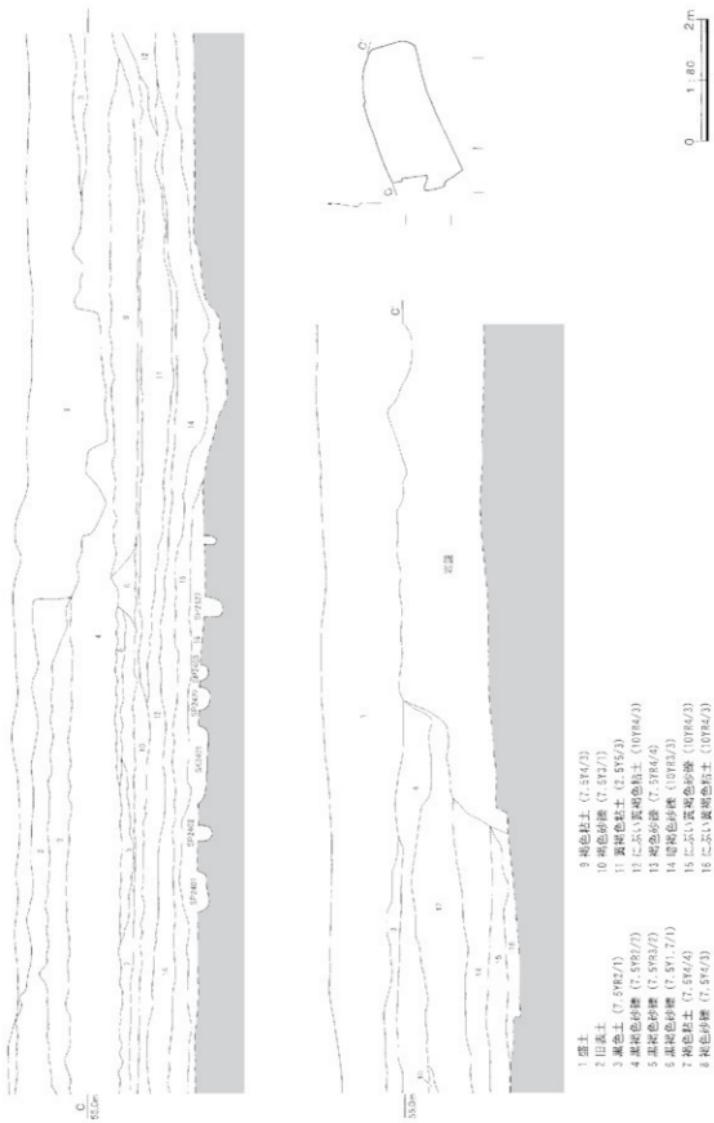
SK2201（第38・39図） L9グリッド南西部で検出しており、SR2201の西側に接する。平面形は不定形であり、西側は調査区外のため未検出である。検出長は約210cm、検出幅は約180cm、深さは約34cmである。遺構の覆土は上位では灰色粘土層、下位では灰色砂礫層である。

自然流路（SR）

SR2201（第38図） 調査区南半のK6～8グリッド南側からL6～9グリッドにかけて検出しており、北西から南東方向へ流れる。K7～K8グリッドでは川幅が北壁付近まで広がっており、調査区全体を東西に分断する。南側は調査区外のため未検出である。流路内からは須恵器壺蓋（169）、壺身（186・188）などの遺物が出土している。



第35図 F区南壁・中央土層断面図



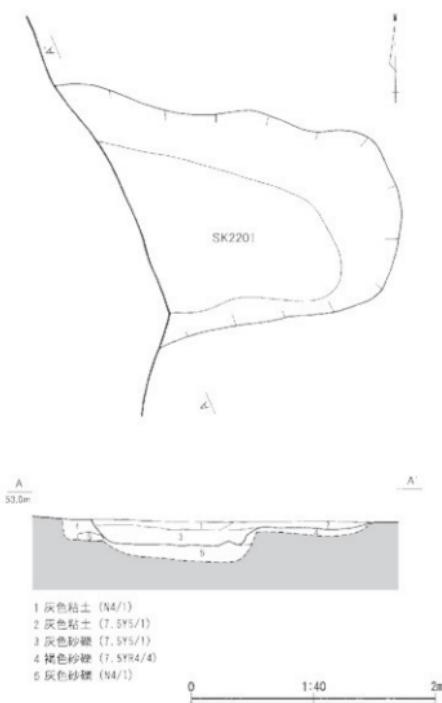
第36図 F区北壁土層断面図



第37図 F区1面全体図



第38図 F区 2面全体図



第39図 SK2201平面図・断面図

土がやや薄く堆積しており、中位から下位では暗灰黄色粘土が堆積している。遺物は出土していない。
SP2205 (第38図) K 8 グリッド南西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約22cm、検出幅は約20cmである。遺構の覆土はにぶい黄褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2206 (第38・40図) L 9 グリッド東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約24.5cm、検出幅は約19cm、深さは約4.5cmである。遺構の覆土は暗褐色砂礫土であり、土師器の坏身(120)が出土している。

(3) F区3面の遺構 (第41図～第45図)

溝状遺構 (SD)

SD2301 (第41・42図) L 9 グリッド北部からK 9 グリッド南部にかけて検出している。北西から南東方向に延びており、北西側は調査区外のため未検出である。検出長は約812cm、検出幅は約126cm、深さは約10cmである。遺構の覆土は黒褐色砂質土であり、黒い砂が縞状に堆積している。土師器片が出土して

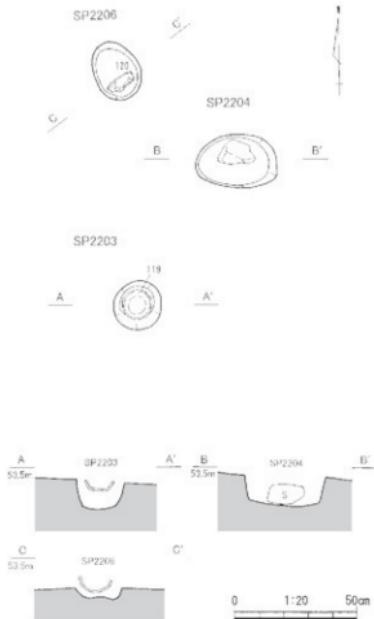
小穴 (SP)

SP2201 (第38図) K 8 グリッド西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約70cm、検出幅は約55cmである。遺構の覆土は粘土を含む黄灰色砂礫土である。遺構内からは須恵器の坏蓋および土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2202 (第38図) K 8 グリッド南西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約65cm、検出幅は約30cmである。遺構の覆土は粘土を含む黄灰色砂礫土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2203 (第38・40図) L 9 グリッド東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約20.5cm、検出幅は約20cm、深さは約12cmである。遺構の覆土は暗灰黄色砂礫土である。遺構覆土の上位で土師器の坏身(119)が出土している。

SP2204 (第38・40図) L 9 グリッド東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約33.5cm、検出幅は約22cm、深さは約12cmである。遺構覆土は、上位で黒褐色



第40図 SP2203・2204・2206平面図・断面図

褐色土である。遺構内から須恵器坏蓋（124）、土師器甕（125・126）などの遺物が出土している。

SX2302（第41図） M 9 グリッド北部で検出している。平面形は梢円形であり、北西から南東方向に掘り込まれている。検出長は約65cm、検出幅は約35cmである。遺構の覆土は炭を多量に含む黒褐色土である。遺物は出土していない。

小穴（SP）

SP2301（第41・45図） K 9 グリッド南東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約21.5cm、検出幅は約19.5cm、深さは約4cmである。遺構の覆土は暗褐色土であり、砂礫を少量含んでいる。検出面より土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2302（第41図） K 9 グリッド東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約33cm、検出幅は約31cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。覆土内から土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2303（第41図） K 8 グリッド西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約34cm、検出幅は約25cmである。遺構の覆土は炭を少量含む暗褐色砂質土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2304（第41図） L 9 グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約24cm、検出幅

いるが、細片のため図示できなかった。

土坑（SK）

SK2301（第41・43図） K 8 グリッド西部で検出している。平面形は不定形であり、北側は調査区外のため未検出である。土坑の南西部では長さ約120cm、幅約80cmの梢円形の掘り込みが確認される。検出長は約208cm、検出幅は約158cm、深さは約34cmである。遺構の覆土は暗褐色砂礫土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

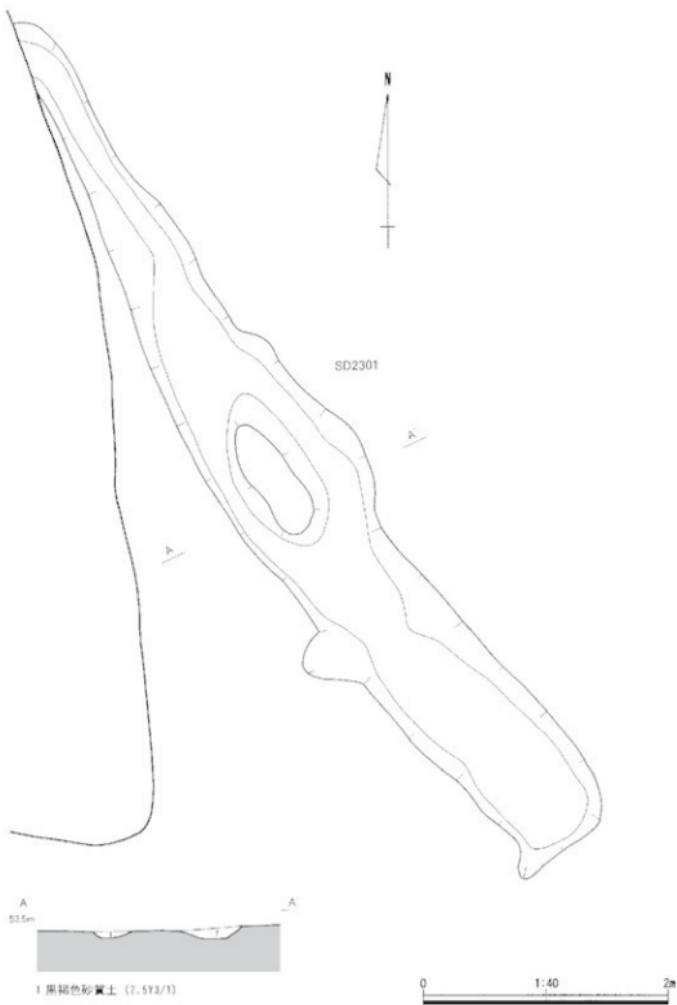
SK2302（第41・44図） K 8 グリッド東部で検出している。平面形は梢円形であり、南西から北東方向に掘り込まれている。検出長は約79cm、検出幅は約53cm、深さは約10cmである。遺構の覆土は炭や砂礫を含む暗褐色土である。遺構内から須恵器の坏身（121～123）が出土している。

性格不明遺構（SX）

SX2301（第41・45図） L 9 グリッド中央部で検出している。平面形は北西から南東方向に掘り込まれた梢円形に近い不定形である。検出長は約112cm、検出幅は約85cm、深さは約9.5cmである。遺構の覆土は炭を多量に含む黒褐色土である。



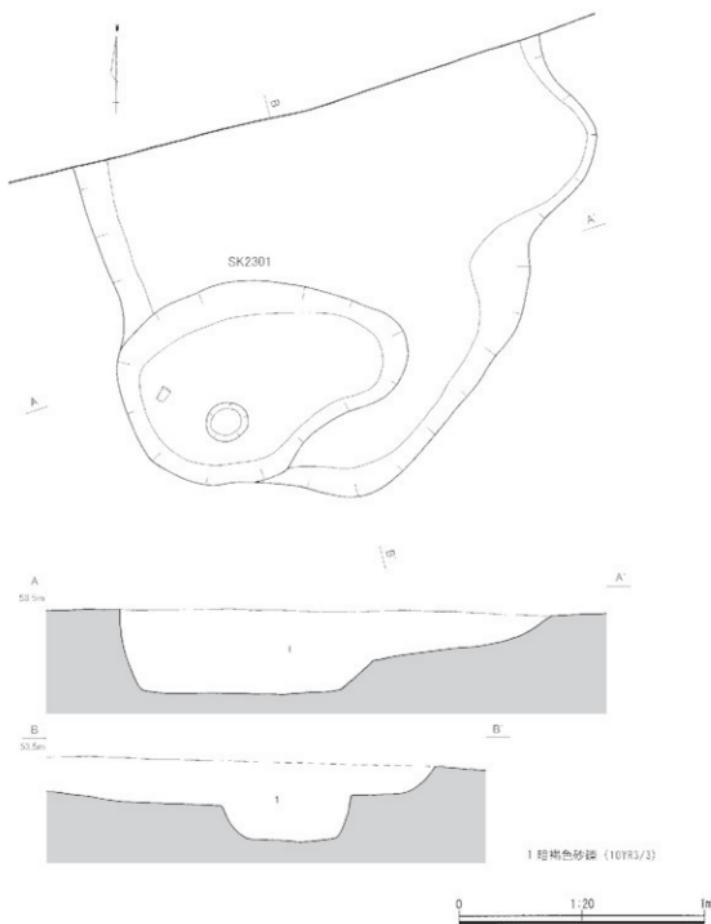
第41図 F区3面全体図



第42図 SD2301平面図・断面図

は約23cmである。遺構の覆土は炭を多く含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2305（第41図） K9 グリッド南東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約56cm、検出幅は約31cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため

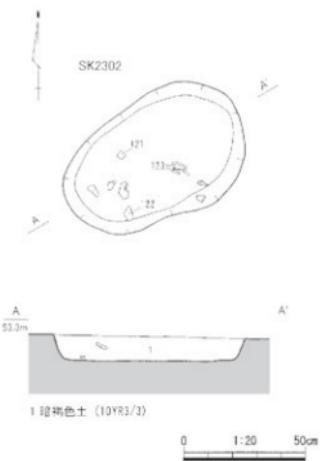


第43図 SK2301平面図・断面図

図示できなかった。

SP2306 (第41図) K 9 グリッド南東部で検出している。平面形は円形である。検出長は約23cm、検出幅は約20cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2307 (第41図) L 8 グリッド北西部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約19cm、検出幅は約14cmである。遺構の覆土は暗褐色砂礫土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示でき



第44図 SK2302平面図・断面図 形等
の内
が隠
師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

土坑 (SK)

SK2401 (第46・47・49図) K9グリッド北部で検出している。平面形は不定形であり、北側は調査区外のため未検出である。検出長は約129cm、検出幅は約35.5cm、深さは約15cmである。遺構の覆土は砂礫を含む暗褐色土であり、炭を多く含んでいる。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK2402 (第46・47・49図) K9グリッド北部で検出している。平面形は西側では東西方向に掘り込まれた隅丸方形であり、南北方向に長軸を持つ梢円形の土坑が東側で接している。検出長は約76.5cm、検出幅は約54cm、深さは約16cmである。遺構の覆土は砂礫を含む暗褐色土であり、炭を多く含む。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK2403(第46・48・50図) L9グリッド北部で検出している。平面形は南西から北東方向の楕円形であり、検出長は約72cm、検出幅は約34cmである。北東側で直径約28cmの円形に掘り込まれており、深さは約42cmである。道構の覆土はにぶい黄褐色粘土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SK2404 (第46・48・50図) L9グリッド北西部で検出している。平面形は不定形であり、南東から北西に向かって幅が広くなる。検出長は約238cm、検出幅は約180cm、深さは約20cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。遺構内から古式土師器の壺(127~130)、壺の底部(131)が出土している。

性格不明遺構 (SX)

SX2401(第46・50図) L9グリッド北西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約98cm、検出幅は約90cm、深さは約20cmである。遺構の覆土は炭や焼土を含む黒褐色土である。遺物は出土して

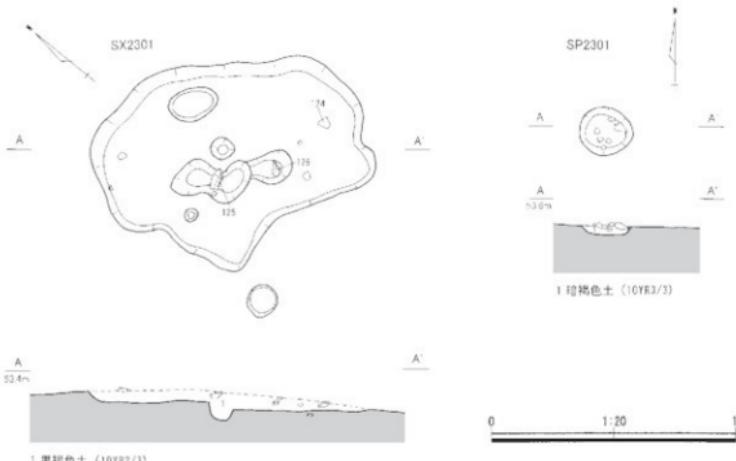
なかつた。

(4) F区4面の遺構（第46図～第50図）

掘立柱建物跡（SB）

SB2401 (第46・47図) K8グリッド南部からK9グリッド北部にかけて検出している。桁行は約7.30m、梁行は約2.50mであり、長軸方向はN-78°-Wである。北西側の柱穴は調査区外のため未検出である。柱穴の平面形状は円形または不定形であり、直径は30cm～60cm程度である。SP2401・2409・2415・2418・2428で土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SB2402 (第46・48図) L9グリッド北西部で検出している。桁行1間(約3.18m)、梁行1間(約1.81m)の側柱建物であり、長軸方向はN-23°-Wである。柱穴の平面形状は円形・梢円形・不定形等であり、直径は30cm~40cm程度である。建物の内部でSK2404を検出しており、南東側ではSX2401が隣接している。SK2403・SP2426・SP2431で土



第45図 SX2301、SP2301平面図・断面図

いない。

小穴（SP）

SP2401（第46・47図） K9グリッド北東部で検出している。平面形は不定形であり、北側は調査区外のため未検出である。検出長は約60cm、検出幅は約50cm、深さは約32cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2402（第46・47図） K9グリッド北東部で検出している。平面形は不定形であり、北側は調査区外のため未検出である。検出長は約40cm、検出幅は約22cm、深さは約20cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2403（第46・47・49図） K9グリッド北西部で検出している。平面形は円形であり、北側は調査区外のため未検出である。検出長は約27cm、検出幅は約19.5cm、深さは約13cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2404（第46・47図） K8グリッド南部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約40cm、検出幅は約30cm、深さは約28cmである。遺構の覆土は炭を少量含む暗褐色砂質土である。遺物は出土していない。

SP2405（第46・47図） K8グリッド南部で検出しており、平面形は円形である。検出長は22cm、検出幅は約20cm、深さは約11cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色砂質土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2406（第46・47図） K8グリッド南部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約22cm、検出幅は約20cm、深さは約19cmである。遺構の覆土は炭を含む暗オリーブ褐色砂質土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。



第46図 F区4面全体図

SP2407（第46・47図） K 8 グリッド南部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約50cm、検出幅は約42cm、深さは約15cmである。遺構の覆土は炭を含む暗オリーブ褐色砂礫土である。遺物は出土していない。

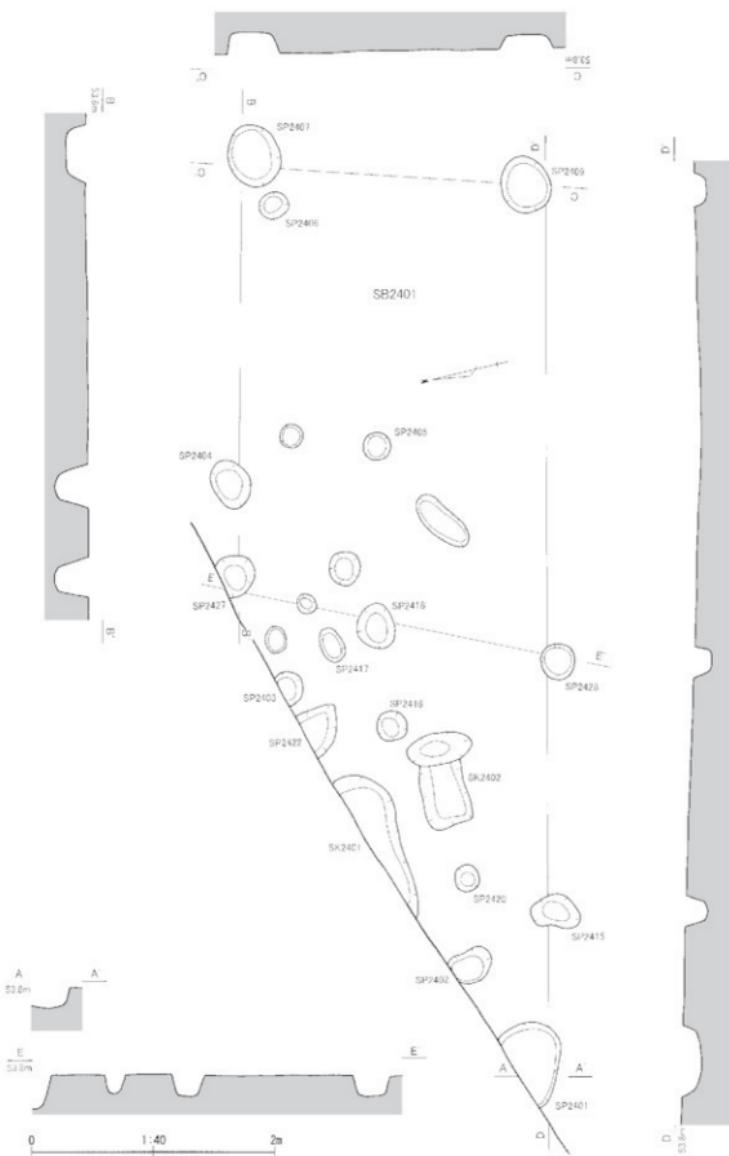
SP2408（第46図） K 8 グリッド中央部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約20cm、検出幅は約16cm、深さは約21cmである。遺構の覆土は褐色粘土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2409（第46・47図） K 8 グリッド南東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約45cm、検出幅は約40cm、深さは約10cmである。遺構の覆土は暗オリーブ褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

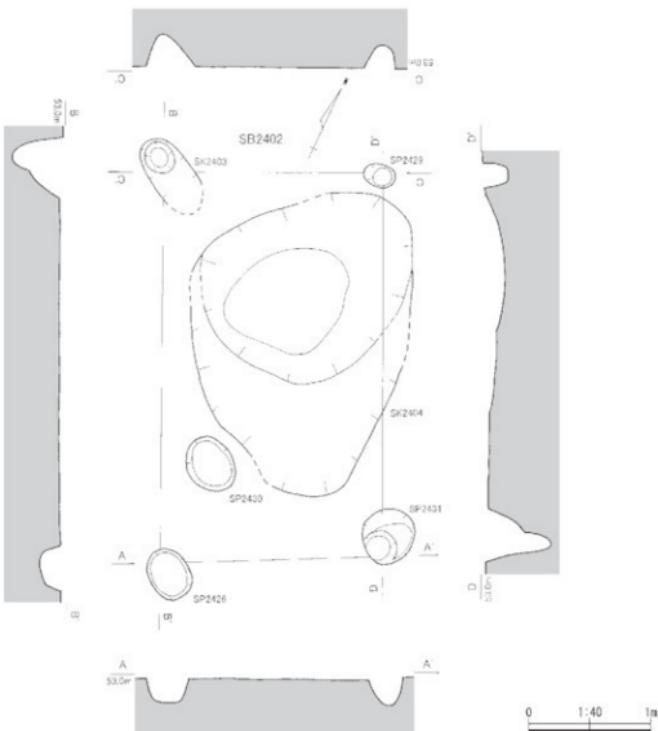
SP2410（第46・50図） L 9 グリッド北西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約32.5cm、検出幅は約26.5cm、深さは約7.5cmである。遺構の覆土は炭や焼土を含む黒褐色土である。遺物は出土していない。

SP2411（第46・50図） L 9 グリッド北西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約22cm、検出幅は約16cm、深さは約7cmである。遺構の覆土は炭や焼土を含む黒褐色土である。遺物は出土していない。

SP2412（第46・50図） L 9 グリッド北西部で検出している。平面形は梢円形である。検出長は約32cm、



第47図 SB2401平面図・断面図



第48図 SB2402平面図・断面図

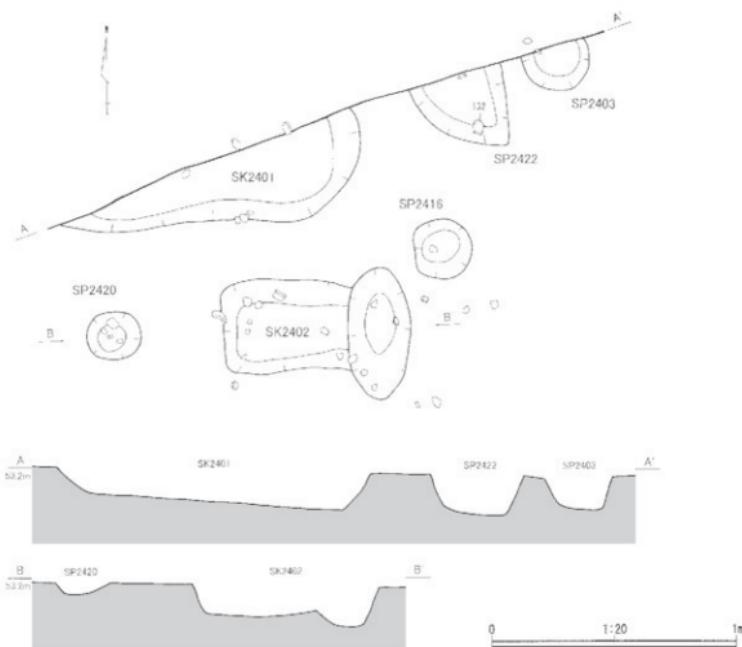
検出幅は約24cm、深さは約15cmである。遺構の覆土は黒褐色土であり、覆土内には炭や焼土が含まれている。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2413（第46・50図） L9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約19cm、検出幅は約8.5cm、深さは約8cmである。遺構の覆土は砂礫を含む暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP2414（第46図） L9グリッド北部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約30cm、検出幅は約29cm、深さは約13cmである。遺構の覆土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP2415（第46・47図） K9グリッド北東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約41cm、検出幅は約25cm、深さは約14cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2416（第46・47・49図） K9グリッド北部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約25cm、検出幅は約23.5cm、深さは約11cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土



第49図 SK2401・2402平面図・断面図

しているが、細片のため図示できなかった。

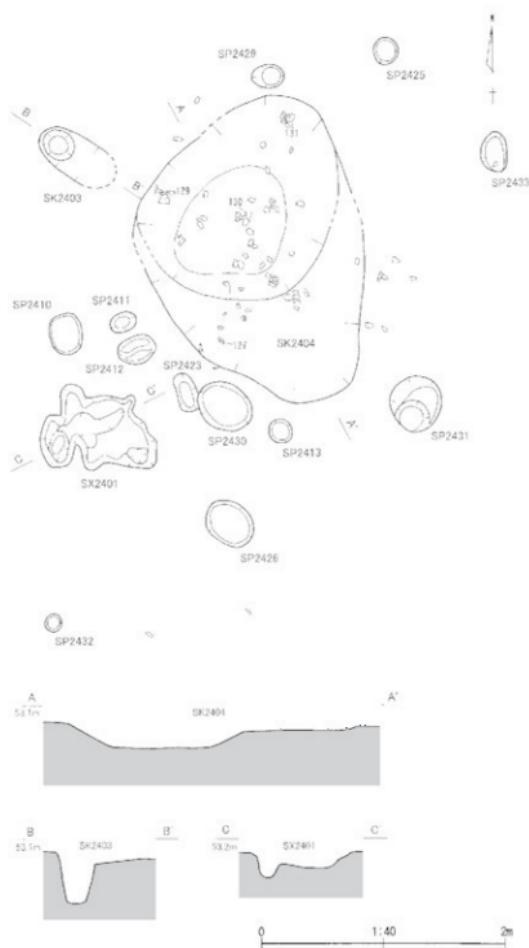
SP2417（第46・47図） K9グリッド北部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約30cm、検出幅は約20cm、深さは約13cmである。遺構の覆土は暗褐色土であり、炭を含んでいる。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2418（第46・47図） K9グリッド北部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約38cm、検出幅は約30cm、深さは約16cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2419（第46図） K9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約22cm、検出幅は約21cm、深さは約14cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2420（第46・47・49図） K9グリッド北部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約22.5cm、検出幅は約19cm、深さは約15cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2421（第46図） K8グリッド南東部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約35cm、検出幅は約22cm、深さは約15cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土であり、焼土がわずかに含まれる。



第50図 SK2403・2404、SX2401平面図・断面図

出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2427 (第46・47図) K8グリッド南部からK9グリッド北部にかけて検出している。平面形は不定形であり、北側は調査区外のため未検出である。検出長は約32cm、検出幅は約30cm、深さは約27cmである。遺構の覆土は炭を少量含む暗褐色砂質土である。遺物は出土していない。

SP2428 (第46・47図) K9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約30cm、検

土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2422 (第46・47・49図)

K9グリッド北部で検出している。平面形は不定形であり、北側は調査区外のため未検出である。検出長は約38cm、検出幅は約37cm、深さは14.5cmである。遺構の覆土は暗褐色土である。遺構内から古式土師器の台付甕底部(132)が出土している。

SP2423 (第46・50図) L9グリッド北西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約32cm、検出幅は約16.5cm、深さは約5.5cmである。南東側にはSP2430が接する。遺構の覆土は炭を多く含む黒褐色土であり、焼土が少し含まれている。遺物は出土していない。

SP2425 (第46・50図) K9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約21cm、検出幅は約20cm、深さは約9cmである。遺構の覆土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP2426 (第46・48・50図)

L9グリッド北西部で検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約42cm、検出幅は約34cm、深さは約18.5cmである。遺構の覆土は炭を含む暗褐色土である。土師器片が

出幅は約28cm、深さは約16cmである。遺構の覆土は砂礫を含む暗褐色土であり、炭が少量含まれる。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2429（第46・48・50図） K9グリッド北東部からL9グリッド北西部にかけて検出しており、平面形は梢円形である。検出長は約26cm、検出幅は約18cm、深さは約18.5cmである。遺構の覆土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP2430（第46・48・50図） L9グリッド北西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約46cm、検出幅は約38cm、深さは約11.5cmである。遺構の覆土は暗褐色粘土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2431（第46・48・50図） L9グリッド北西部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約44cm、検出幅は約42cm、深さは約22cmである。遺構の覆土は暗褐色粘土である。土師器片が出土しているが、細片のため図示できなかった。

SP2432（第46・50図） L9グリッド北東部で検出しており、平面形は円形である。検出長は約15cm、検出幅は約14cm、深さは約20.5cmである。遺構の覆土は暗褐色粘土である。遺物は出土していない。

SP2433（第46・50図） L9グリッド北東部で検出しており、平面形は不定形である。検出長は約32cm、検出幅は約22cm、深さは約9cmである。遺構の覆土は灰色砂礫土である。遺物は出土していない。

3 F区出土遺物（第51図～第55図）

SD2102出土遺物（第51図115～117）

115・116は灰釉陶器である。115は碗であり、口縁部が緩やかに外反し、口縁端部を外側に引き出す。口縁部内面には灰釉が施される。116は輪花碗であり、胴部がほぼ直立し、口縁部がわずかに外反する。いずれも折戸53号窯式併行の10世紀初頭の製品と考えられる。

117は東遠系の山茶碗である。底部外面に糸切り痕を残し、断面が三角形状の高台を貼り付ける。13世紀後半頃の製品と考えられる。

SK2102出土遺物（第51図118）

118は灰釉陶器の碗である。口縁部が緩やかに外反し、内面に灰釉が施される。折戸53号窯式併行の10世紀初頭の製品と考えられる。

SP2203出土遺物（第51図119）

119は土師器の無台坏である。平底で胴部が直線的に立ち上がり、口縁部をやや外反させて内外面に横ナデ調整を施す。胴部内外面には横位のヘラミガキを施し、底部外面はヘラ削り後にナデを施す。口縁部内外面には墨が付着している。

SP2206出土遺物（第51図120）

120は土師器の無台坏である。口縁部が直線的に立ち上がり、内外面に横ナデ調整を施す。底部は平底であり、中心部が凹んでいる。

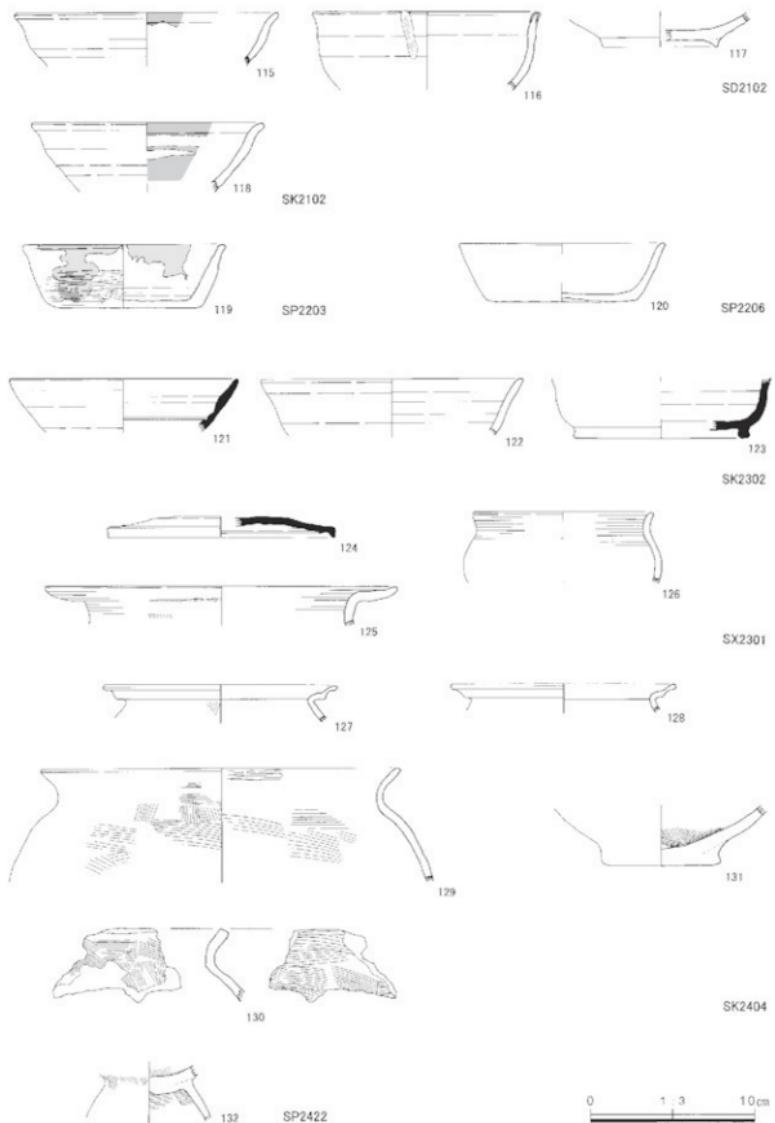
SK2302出土遺物（第51図121～123）

121・123は須恵器の坏身である。121は口縁部がやや外反し、内面にノタ目が残る。123は底部破片であり、平坦な底部から胴部が屈曲してやや外反し、高台を貼り付ける。122は灰釉陶器の碗と見られ、焼成がやや不良である。

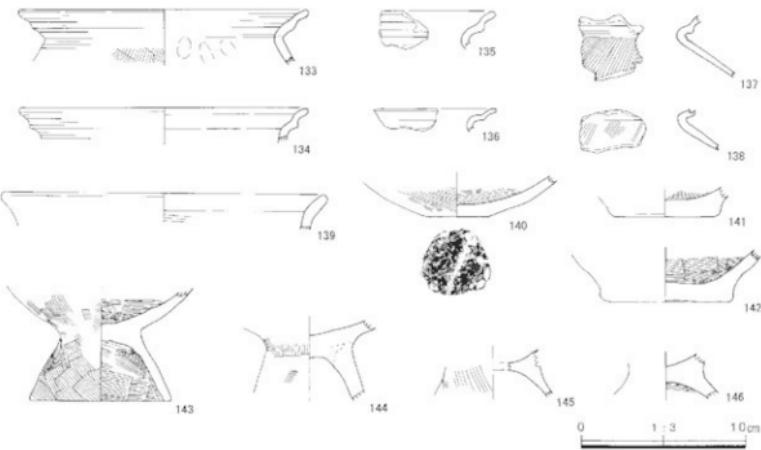
SX2301出土遺物（第51図124～126）

124は須恵器坏蓋の口縁部であり、頂部を欠損している。口縁端部は内側に折り曲げられて直立する。外面全体に自然釉が付着している。

125・126は土師器である。125は長胴甕の口縁部から胴部破片である。口縁部を横方向に強く引き出



第51図 F区遺構内出土土器



第52図 F区遺構外出土土器 1

し、口唇部をやや内彎させる。口縁部内外面には横ナデ調整を施し、胴部外面には斜方向のハケ調整を施す。126は小型甕の口縁部から胴部破片である。口縁部がやや外反し、胴部に膨らみを持つ。口縁部外面に横ナデ調整を施す。

SK2404出土遺物（第51図127～131）

127・128は古式土師器のS字甕口縁部である。いずれも口縁部が外側に大きく開く。摩耗により調整は不明瞭であるが、頸部外面に縦方向のハケ目痕跡が残る。

129・130は古式土師器の甕である。129は口縁部から胴部上半が残存している。外面の口縁部および胴部は横方向のハケ調整であり、肩部には縦方向のハケ調整が施される。内面は横方向のハケ調整である。130は口縁部から肩部が残存しており、外面は口縁部が横方向のハケ調整、頸部から肩部が縦方向のハケ調整であり、内面には横方向のハケ調整を施す。

131は古式土師器の壺底部である。内面には縦方向のハケ調整を施す。

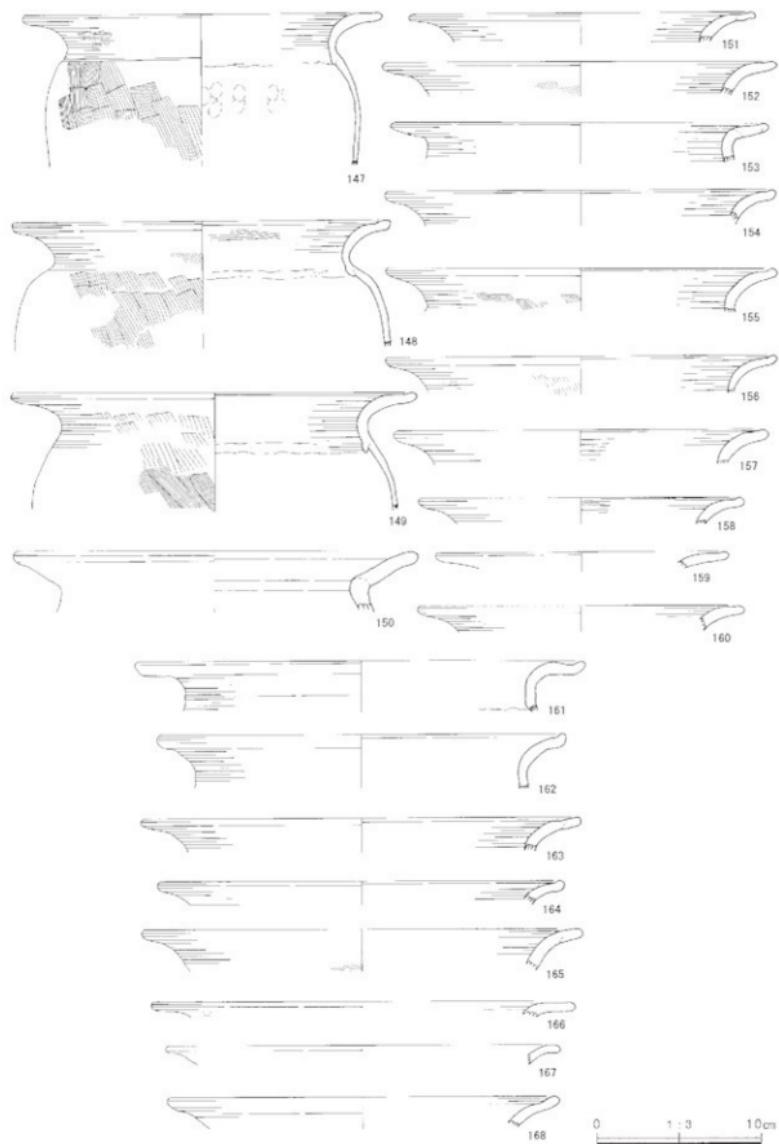
SP2422出土遺物（第51図132）

132は古式土師器の台付甕台部である。外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のハケ調整である。在地系の台付甕と見られる。

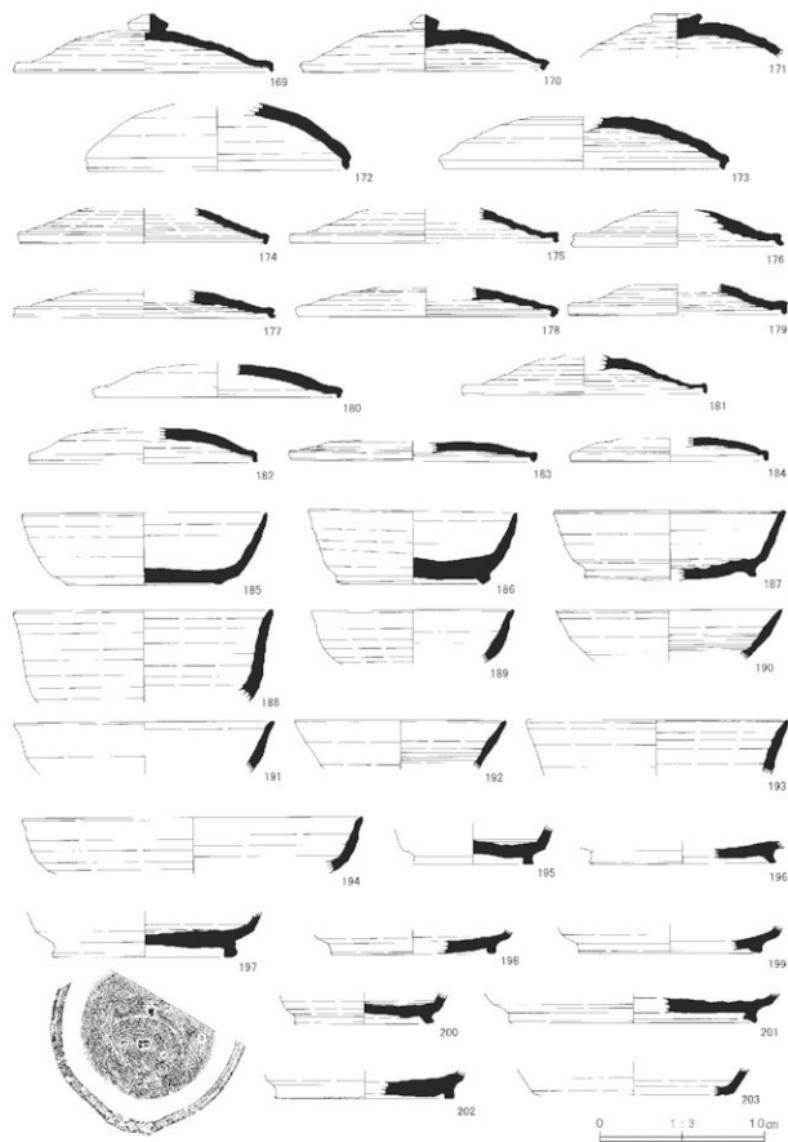
遺構外出土遺物（第52図133～第55図219）

133～138は古式土師器のS字甕である。133は肩部外面に縦方向のハケ調整を施し、口縁部内外面に横ナデを施している。134・135は口縁部内外面に横ナデ調整を施す。136は摩耗が激しく、調整は不明である。137・138は頸部の破片であり、いずれも頸部外面に縦方向のハケ調整を施す。137は頸部外面に沈線が施される。139は甕の口縁部と見られるが、摩耗のため調整は不明である。

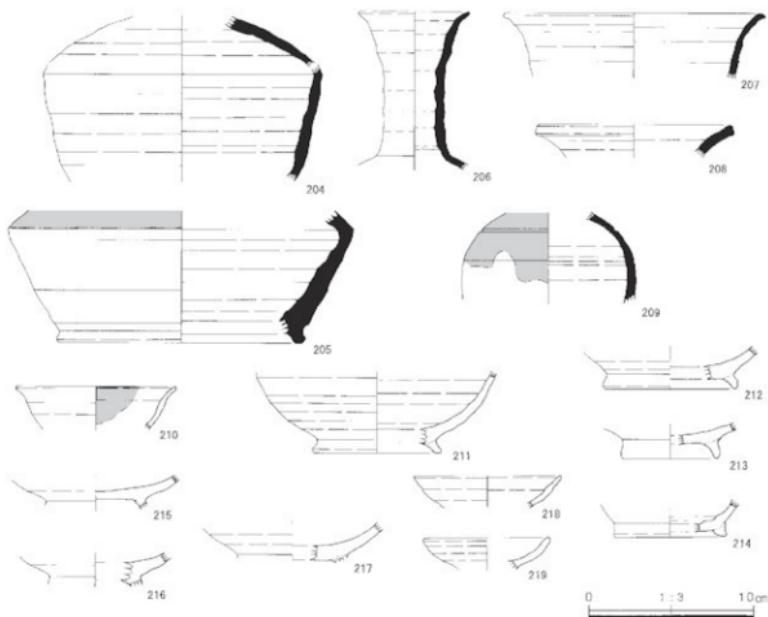
140～142は古式土師器の壺底部である。140は内外面にハケ調整を施し、底部外面に押圧痕が観察される。141・142は内面にハケ調整を施しており、外面は摩耗のため調整不明である。140・141は底部内面に炭化物が付着している。



第53図 F区遺構出土土器2



第54図 F区遺構外出土土器 3



第55図 F区遺構外出土土器4

143~146は古式土師器の台付甕台部である。143は外面に縦方向～斜方向のハケ調整を施し、胸部内面および台部内面には横方向のハケ調整を施す。144・145は外面に縦方向のハケ調整を施す。145は胎土に雲母と白色粒子を含み、S字甕の台部である可能性が考えられる。143・144・146は在地系の台付甕と見られる。

147~168は土師器の長胴甕である。口縁部を横に強く引き出し、内外面にヨコナデ調整を施す。147~149は口縁部～胴部の破片であり、頸部内面に接合痕が残る。胴部外面には斜方向のハケ調整を施す。

169~184は須恵器の坏蓋である。169・170は宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が内側に折り曲げられる。169は頂部付近の外面にヘラ削りを施す。170は外面全体に自然釉が付着する。171は口縁部を欠損しており、円盤状のつまみを持つ。つまみの中心は凹状になる。172~184は頂部を欠損しており、口縁端部を内側に折り曲げる。172・173・181・183は天井部外面にヘラ削りを施す。172は口縁部外面に、176・177・179・182は外面全体に自然釉が付着している。184は内面に墨痕が観察される。

185~203は須恵器の坏身である。185は平坦な底部から胸部が緩やかに屈曲し、低い高台を貼り付ける。器形から8世紀中頃の製品と思われるが、焼成はやや不良であり、生産地は不明である。186は底部から胸部が屈曲して立ち上がり、底部外面にヘラ削りを施して高台を貼り付ける。全体的に歪みが大きく、底部に焼きぶくれが見られる。187は底部がやや丸みを持ち、高台を貼り付ける。底部内面に墨痕が観察され、高台の一部が摩滅し墨が付着していることから硯に転用された可能性が考えられる。188~

194は口縁部の破片である。190・192は内面にノタ目が残る。195～202は貼り付け高台を持つ底部の破片である。195は胴部から底部の外間に自然釉が付着する。197・200は底部外面の中心に糸切り痕が残る。203は底部外面にロクロによる2本の沈線で高台が作られている。

204・205は須恵器の平瓶である。204は肩部から胴部にかけて残存しており、胴部下位にはヘラ削りを施す。205は肩部の一部と胴部から底部にかけて残存しており、胴部の外面全体にヘラ削りを施し、底部には高台を貼り付ける。肩部全体と高台の一部に自然釉が付着している。205は湖西窯産と考えられる。

206は須恵器の壺G類と呼ばれる長頸瓶である。口縁部から肩部の破片であり、頸部内外面にノタ目が残り、頸部と肩部の境には接合痕が確認される。助宗窯産と考えられる。

207・208は須恵器の壺口縁部である。207は内面全体に自然釉が付着する。

209は灰釉陶器の水瓶の肩部破片と見られる。外面には2条の沈線が施され、自然釉が付着する。猿投窯産の8世紀後半の製品と考えられる。

210～214は灰釉陶器であり、210～213は碗、214は長頸瓶である。210は口縁部が緩やかに外反し、内面に灰釉が施される。211・212は底部破片であり、ハの字状に広がる高台が付けられる。212は底部内外面にロクロによる線が残る。213は直立した高台の下端を内傾させている。214は底部破片であり、底部外面に低い高台を貼り付けた後にナデを施している。210～212は折戸53号窯式併行の10世紀初頭の製品、213・214は黒窯90号窯式併行の9世紀後半の製品と考えられる。

215～219は東遠系の山茶碗で、215～217は碗、219は小碗である。215は12世紀前半の製品と考えられ、底部外面に糸切り痕を残し、高台が外側に広がる。216・217は12世紀中頃の製品と考えられ、底部外面に自然釉が付着している。219は12世紀後半の製品と考えられ、底部外面に高台の痕跡の一部が残る。218は時期が不明であり、須恵器の無台坏の可能性も考えられる。

第5節 G区の遺構と遺物

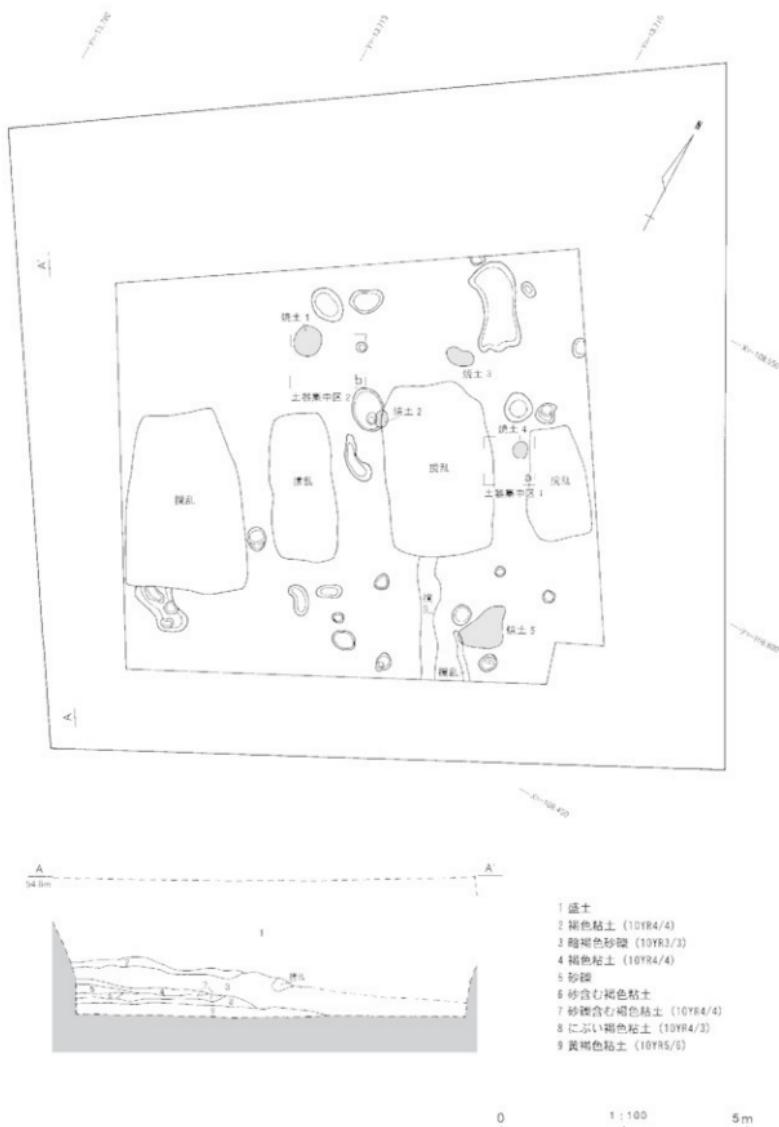
1 G区の土層（第56図）

G区では、現地表面からおよそ2mにわたって内牧川による堆積物と思われる盛土が堆積しており、この盛土の下位に褐色粘土と砂礫層の互層が堆積している。地表面ではほぼ平坦な地形を成しているが、盛土の下層は北西側にやや傾斜して堆積する状況が確認される。

2 G区検出遺構（第56・57図）

調査区はかなりの部分が搅乱を受けている。中央でコンクリートやアスファルトの詰まった搅乱穴が4箇所確認されており、この搅乱の周囲で直径25cm～175cm程度の24基のピットおよび直径35cm～50cm程度の焼土5箇所が検出されている。このうち調査区北側中央の焼土（焼土1）および調査区東側の焼土（焼土4）の周囲で土器片が集中して出土する地点が確認された（土器集中区1・2）。

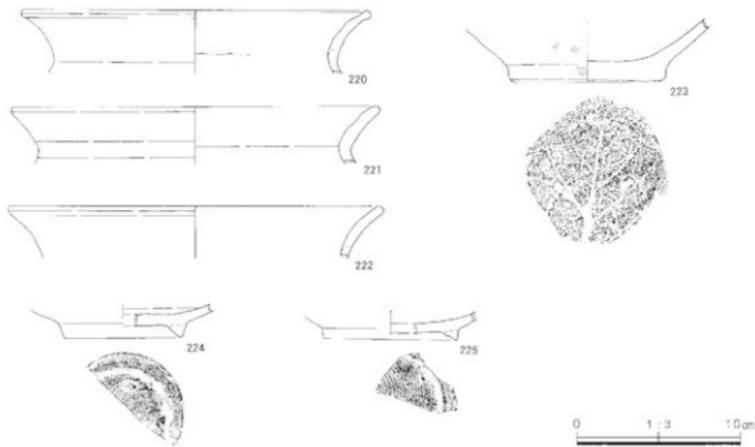
出土遺物には土師器、山茶碗、陶磁器等があるが、そのほとんどが土師器であり、破片が多く図示できるものが多い。土器集中区では時期の異なる遺物が混在して出土しており、遺物の出土状況は原位置を留めていない可能性が高い。



第56図 G区全体図・土層断面図



第57図 土器集中区平面図



第58図 G区出土土器

3 G区出土遺物（第58図220～225）

220～222は土師器甕の口縁部であり、頸部から口縁部が屈曲して外反する。内外面には横ナデ調整を施す。220は頸部内面に接合痕が残る。古墳時代中期～後期に属すると思われる。223は弥生土器の壺の底部と思われる。胴部外面にハケ調整を施し、底部外面には木葉痕が残る。

224・225は東遠系の山茶碗の底部破片である。底部外面には糸切り痕が残り、高台を貼り付ける。224は高台の断面が二等片三角形状を呈しており、12世紀前半の製品と考えられる。225は高台が直角三角形状を呈しており、高台の外側に面を持つ。12世紀末から13世紀前半頃の製品と考えられる。

第4表 据立柱建物一覧

造構番号	区	棟出面	グリッド	長軸方向	桁行(m)	梁行(m)
SB1201	B-2	1・2面	J9・K9	N-80°-E	5.60	4.88
SB1202	B-2	1・2面	J8・J9	N-55°-E	3.84	3.58
SB2401	F	4面	K8・K9	N-78°-W	7.30	2.50
SB2402	F	4面	L9	N-23°-W	3.18	1.81

第5表 溝状造構一覧

造構番号	区	棟出面	グリッド	棟出長(cm) ():現存	棟出幅(cm) ():現存	深さ(cm)
SD1201	B-2	1・2面	J9	260.0	65.0	17.0
SD1202	B-2	1・2面	J10・K10	(260.0)	(40.0~152.0)	(24.0)
SD2101	F	1面	K7・K8	600.0	45.0	
SD2102	F	1面	L7・L8	1005.0	50.0	
SD2301	F	3面	K9・L9	(812.0)	126.0	10.0

第6表 土坑一覧

造構番号	区	棟出面	グリッド	棟出長(cm) ():現存	棟出幅(cm) ():現存	深さ(cm)	備考	造構番号	区	棟出面	グリッド	棟出長(cm) ():現存	棟出幅(cm) ():現存	深さ(cm)	備考
SK1101	B-1	1面	H11・H11	(200.0)	(140.0)	(14.0)		SK1206	B-2	1・2面	I9	182.0	178.0	50.0	
SK1102	B-1	1面	I11	306.0	244.0	(116.0)		SK1207	B-2	1・2面	I9	100.0	76.0	25.0	
SK1103	B-1	1面	I11	120.0	50.0	17.0		SK1208	B-2	1・2面	J9	94.0	90.0	15.0	
SK1104	B-1	1面	I10	(540.0)	(220.0)	40.0		SK1209	B-2	1・2面	J9	116.0	82.0	24.0	
SK1105	B-1	1面	I11	(230.0)	(240.0)	(17.0)		SK1210	B-2	1・2面	J9	58.0	51.0	20.0	
SK1106	B-1	1面	I11	110.5	85.0	20.5		SK1211	B-2	1・2面	K10	104.0	55.0	10.0	
SK1107	—	—	—	—	—	(欠番)		SK1301	B-2	3面	I9	104.0	59.0	25.0	
SK1108	B-1	1面	H10	(192.0)	(102.0)	15.0		SK1302	B-2	3面	I9・J9	137.0	110.0	19.0	
SK1109	B-1	1面	I10	138.0	(130.0)	17.5		SK1303	B-2	3面	I9	(56.0)	(78.0)	(11.0)	
SK1110	—	—	—	—	—	(欠番)		SK1304	B-2	3面	I9・J9	114.0	86.0	15.0	
SK1111	B-1	1面	I10	(130.0)	(48.0)	(21.0)		SK1305	B-2	3面	J9	102.0	54.0		
SK1112	B-1	1面	H19・H10	(190.0)	(100.0)	(10.0)		SK1306	B-2	3面	J9	98.0	84.0	22.5	
SK1113	B-1	1面	H10	168.0	102.0	40.0		SK1307	B-2	3面	J9	74.0	43.0	23.5	
SK1114	—	—	—	—	—	(欠番)		SK1308	B-2	3面	J9	120.0	84.0	22.0	
SK1115	B-1	1面	H10	(70.0)	88.0	22.0		SK1309	B-2	3面	J9・K9	152.0	82.0	17.0	
SK1116	B-1	1面	H10	114.0	52.0	44.0		SK1401	B-2	4面	J9	114.0	112.5	29.0	
SK1117	B-1	1面	H10	64.5	37.0	14.0		SK1402	B-2	4面	J8・K8	(155.0)	(132.0)	(31.5)	
SK1118	B-1	1面	H10	(106.0)	(52.0)	(10.0)		SK1403	B-2	4面	J8・K8	(86.0)	(90.0)	(40.0)	
SK1119	B-1	1面	H10	(170.0)	(124.0)	(29.0)		SK2101	F	1面	K8・K9	195.0	(120.0)		
SK1120	B-1	1面	H10・H10	(90.0)	110.0			SK2102	F	1面	L7	145.0	80.0		
SK1121	B-1	1面	H10	(228.0)	(50.0)	(12.5)		SK2201	F	2面	I9	(210.0)	(180.0)	34.0	
SK1122	B-1	1面	G10・H10	(350.0)	(120.0)	(35.0)		SK2201	F	3面	K8	208.0	158.0	34.0	
SK1201	B-1	2面	I11	281.0	245.5	20.0		SK2302	F	3面	K8	79.0	53.0	10.0	
SK1202	B-1	2面	I11	(145.0)	105.0	45.0		SK2401	F	4面	K9	(129.0)	(35.5)	(15.0)	
SK1203	B-1	2面	I10	(196.0)	(83.0)	15.0		SK2402	F	4面	K9	76.5	54.0	16.0	
SK1204	B-2・1・2面	1面	I10	183.0	119.0	10.0		SK2403	F	4面	I9	72.0	34.0	42.0	SB2402
SK1205	B-2・1・2面	1面	I9	(84.0)	(74.0)	(20.0)		SK2404	F	4面	I9	238.0	180.0	20.0	

第7表 性格不明造構一覧

造構番号	区	棟出面	グリッド	棟出長(cm) ():現存	棟出幅(cm) ():現存	深さ(cm)
SX1201	B-2	1・2面	I8.9・J8.9	(880.0)	(250.0)	25.0
SX1202	B-2	1・2面	J9・J10	1230.0	240.0	30.0
SX1301	B-2	3面	J9	162.0	85.0	53.0
SX1302	B-2	3面	J9・K9	(450.0)	(320.0)	27.0
SX2301	F	3面	I9	112.0	85.0	9.5
SX2302	F	3面	M9	65.0	35.0	
SX2401	F	4面	I9	98.0	90.0	20.0

第8表 小穴一覧

遺構番号	区	検出面	グリッド	検出長(cm) ():現存	検出幅(cm) ():現存	深さ(cm)	備考	遺構番号	区	検出面	グリッド	検出長(cm) ():現存	検出幅(cm) ():現存	深さ(cm)	備考
SP1101	B-1	1面	I11	40.0	26.0	42.0		SP2206	F	2面	L9	24.5	19.0	4.5	
SP1102	B-1	1面	I11	40.5	33.0	31.5		SP2301	F	3面	K9	21.5	19.5	4.0	
SP1103	B-1	1面	I11	32.0	28.0	34.0		SP2302	F	3面	K9	33.0	31.0		
SP1104	B-1	1面	I10	93.0	68.0	19.0		SP2303	F	3面	K8	34.0	25.0		
SP1105	B-1	1面	I10	62.0	39.5	21.0		SP2304	F	3面	L9	24.0	23.0		
SP1106	B-1	1面	H10	91.0	61.0	26.0		SP2305	F	3面	K9	56.0	31.0		
SP1107	B-1	1面	H10	32.0	(29.0)	19.0		SP2306	F	3面	K9	23.0	20.0		
SP1108	B-1	1面	H10	38.0	34.0	40.0		SP2307	F	3面	L8	19.0	14.0		
SP1109	B-1	1面	H10	38.0	32.5	5.0		SP2401	F	4面	K9	60.0	(50.0)	32.0	SB2401
SP1110	B-1	1面	H9・I9	32.0	31.0	7.0		SP2402	F	4面	K9	(40.0)	22.0	20.0	
SP1111	B-1	1面	I11	63.0	48.0	11.5		SP2403	F	4面	K9	27.0	(19.5)	13.0	
SP1112	B-1	1面	I11	34.0	31.0			SP2404	F	4面	K8	40.0	30.0	28.0	SB2401
SP1201	B-2	1・2面	J9	54.0	53.0	18.0		SP2405	F	4面	K8	22.0	20.0	11.0	
SP1202	B-2	1・2面	J9	48.0	32.0	18.0		SP2406	F	4面	K8	22.0	20.0	19.0	
SP1203	B-2	1・2面	J9	46.0	39.0	28.0		SP2407	F	4面	K8	50.0	42.0	15.0	SB2401
SP1204	B-2	1・2面	J9	29.0	28.0	12.5		SP2408	F	4面	K8	20.0	16.0	21.0	
SP1205	B-2	1・2面	J8	54.0	41.0	13.0		SP2409	F	4面	K8	45.0	40.0	10.0	SB2401
SP1206	B-2	1・2面	K9	82.0	44.0	30.0	SB1201	SP2410	F	4面	L9	32.5	26.5	7.5	
SP1207	B-2	1・2面	K9	54.0	42.0	12.0		SP2411	F	4面	L9	22.0	16.0	7.0	
SP1208	B-2	1・2面	J9	43.0	33.0	36.0	SB1201	SP2412	F	4面	L9	32.0	24.0	15.0	
SP1209	B-2	1・2面	J9	36.0	31.0	27.0	SB1201	SP2413	F	4面	L9	19.0	18.5	8.0	
SP1210	B-2	1・2面	J9	36.0	32.0	48.0	SB1201	SP2414	F	4面	L9	30.0	29.0	13.0	
SP1211	B-2	1・2面	J9	30.0	27.0	18.0	SB1201	SP2415	F	4面	K9	41.0	25.0	14.0	SB2401
SP1212	B-2	1・2面	K9	34.0	29.0	8.0	SB1201	SP2416	F	4面	K9	25.0	23.5	11.0	
SP1213	B-2	1・2面	K9	33.0	31.0	18.0	SB1201	SP2417	F	4面	K9	30.0	20.0	13.0	
SP1214	B-2	1・2面	K9	35.0	30.0	19.0	SB1201	SP2418	F	4面	K9	38.0	30.0	16.0	SB2401
SP1215	B-2	1・2面	J9	38.0	32.0	29.0	SB1201	SP2419	F	4面	K9	22.0	21.0	14.0	
SP1216	B-2	1・2面	J9	41.0	28.0	8.0	SB1201	SP2420	F	4面	K9	22.5	19.0	15.0	
SP1217	B-2	1・2面	J9	63.0	47.0	21.0	SB1202	SP2421	F	4面	K8	35.0	22.0	15.0	
SP1218	B-2	1・2面	J8	64.0	53.0	33.0	SB1202	SP2422	F	4面	K9	38.0	(37.0)	14.5	
SP1219	B-2	1・2面	J8	67.0	45.0	27.0	SB1202	SP2423	F	4面	L9	32.0	16.5	5.5	
SP1220	B-2	1・2面	J8	61.0	39.0	28.0	SB1202	SP2424	—	—	—	—	—	(欠番)	
SP1221	B-2	1・2面	J8	52.0	40.0	14.0	SB1202	SP2425	F	4面	K9	21.0	20.0	9.0	
SP1301	B-2	3面	J9	76.0	41.0	15.0		SP2426	F	4面	L9	42.0	34.0	18.5	SB2402
SP1302	B-2	3面	J9	55.0	44.0	34.5		SP2427	F	4面	K8,K9	(32.0)	(30.0)	27.0	SB2401
SP1303	B-2	3面	J9	75.0	58.0	40.0		SP2428	F	4面	K9	30.0	28.0	16.0	SB2401
SP2201	F	2面	K8	70.0	55.0			SP2429	F	4面	K9,L9	26.0	18.0	18.5	SB2402
SP2202	F	2面	K8	65.0	30.0			SP2430	F	4面	L9	46.0	38.0	11.5	
SP2203	F	2面	L9	20.5	20.0	12.0		SP2431	F	4面	L9	44.0	42.0	22.0	SB2402
SP2204	F	2面	L9	33.5	22.0	12.0		SP2432	F	4面	L9	15.0	14.0	20.5	
SP2205	F	2面	K8	22.0	20.0			SP2433	F	4面	L9	32.0	22.0	9.0	

第9表 キヨウダイヤト遺跡出土土器一覧

回数 番号	写真 番号	神岡 番号	区	面	グリッド	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量(cm)	胎土	焼成	色調
第25 20 回 27上	1	B-1	1面	111	SK1102			陶器	香炉	15%	口径 最高 底径 (11.8) 8.1 (10.6)	密 長石の粒子、黒色粒子含む	良	2.5Y8/3浅黄 (釉)10YR3/2黒褐
第25 20 回 27上	2	B-1	1面	111	SK1102			陶器	水指?	10%	口径 最高 底径 (5.3) (14.4)	密 長石の粒子、黒色粒子含む	良	10YR7/3に近い黄橙 (釉)5YR4/2灰褐
第25 20 回 27	3	B-1	1面	110	SK1104			須恵器	环甕	10%	口径 最高 底径 (2.6) 2.4	密 白色粒子含む	良	7.5Y6/1灰
第25 20 回 27	4	B-1	1面	111	SP1102			須恵器	円面甕	10%	口径 最高 底径 (14.8) (7.0) (2.4)	密 黒色・白色粒子含む	良	7.5Y5/1灰
第25 27下	5	B-1	2面	111	SK1201	覆土一括		須恵器	环身	15%	口径 最高 底径 (1.5) (11.2)	密 0.2mmの雲母粒子少量、やや 0.2mmの白色・灰褐色粒子含む	良	10YR7/2に近い黄橙
第25 20 回 27下	6	B-1	2面	111	SK1201			土師器	長胴甕	10%	口径 最高 (21.8) (7.7)	密 黒雲母粒子多量、石英 長石粒子、2mmの砂粒、赤褐色 白色粒子含む	良	7.5YR7/3に近い橙
第25 20 回 27下	7	B-1	2面	111	SK1201			土師器	小型甕	20%	口径 最高 (13.0) (13.35)	密 長石・雲母・黒色・赤褐色 白色粒子、1.5~5mmの砂粒 含む	良	2.5YR5/4に近い赤褐 色
第25 20 回 28上	8	B-1	2面	110	SK1203			須恵器	环甕	45%	口径 最高 底径 (14.7) (3.9) 2.6	密 長石・黒色粒子含む	良	5Y6/1灰
第25 20 回 28上	9	B-1	2面	110	SK1203			須恵器	环身	80%	口径 最高 (14.5) (4.5) 底径 (10.5)	密 長石、雲母粒子微量、 黒褐色粒子含む	やや 不良	5Y8/1灰白
第25 21 回 28上	10	B-1	2面	110	SK1203			須恵器	环身	80%	口径 最高 (14.0) (10.5) 底径 9.4	密 黒雲母・長石の微粒子少 量含む	やや 不良	2.5Y8/1灰白
第26 21 回 28下	11	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	环甕	70%	口径 最高 底径 (12.5) (2.9) 2.3	密 砂粒少量含む	良	5Y7/1灰白
第26 28下	12	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	环甕	20%	口径 最高 (2.7) 底径 2.9	密 黒色・白色粒子、1mmの 砂粒含む	良	5Y6/1灰
第26 21 回 28下	13	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	环甕	60%	口径 最高 (13.5) 底径 2.15 2.9	密 0.5~2mmの黒色粒子含 む	良	(内面)2.5Y8/1灰白 (外側)2.5Y6/1灰白
第26 28下	14	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	环甕	25%	口径 最高 (13.0) 底径 2.2 3.0	密 0.5mmの砂粒、黒色・ 白色微粒子含む	やや 不良	5Y6/2灰オーリーブ
第26 28下	15	B-1	2面	111	SK1202			土師器	長胴甕	1%	口径 最高 (24.0) (2.2)	やや密 黒雲母微粒子少量、 長石・黒色・赤褐色粒子含 む	やや 良	7.5YR7/4に近い橙
第26 28下	16	B-1	2面	111	SK1202			土師器	長胴甕	1%	口径 最高 (27.1) (2.2)	やや密 黒雲母・長石微粒子少 量、黒色粒子含む	やや 良	7.5YR7/4に近い橙
第26 21 回 28下	17	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	甕	90%	口径 最高 底径 (15.6) (10.8) (7.2)	密 長石粒子含む	良	N7.0灰白
第26 21 回 28下	18	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	高甕	20%	口径 最高 (21.2) 底径 (4.1)	やや密 長石粒子、黒色微 粒子少量含む	良	5Y6/1灰
第26 21 回 28下	19	B-1	2面	111	SK1202			須恵器	瓦钵	30%	口径 最高 (19.6) (10.6) 底径 (20.8)	密 長石粒子、0.5~1mmの 黒色粒子含む	良	(内面)5Y7/2灰白 (外側)2.5GY6/1オーリーブ
第26 21 回 28下	20	B-1	2面	111	SK1202			土師器	長胴甕	60%	口径 最高 底径 (24.8) (29.7) (19.2) (6.0)	密 1~2mmの石英、長石、 雲母粒子、黒色・黒褐色粒子 含む	良	7.5YR5/4に近い橙
第26 21 回 28下	21	B-1	2面	111	SK1202			土師器	長胴甕	30%	口径 最高 (16.3) (26.2)	密 黒雲母・長石粒子、黒色 粒子含む	良	5YR7/6型
第26 28F	22	B-1	2面	111	SK1202			土師器	長胴甕	3%	口径 最高 (24.1) (4.7)	密 雲母粒子多量、2mmの長 石、砂粒、黒色・赤褐色粒子 含む	良	7.5YR6/4に近い橙
第26 28F	23	B-1	2面	111	SK1202			土師器	長胴甕	5%	口径 最高 (25.4) (9.8)	密 0.2mmの雲母粒子少量、 0.3mmの白色・灰色の粒子含 む	良	(内面)7.5YR7/6型 (外側)5.5YR6/4に近い橙
第27 22 回 29上	24	B-2	1・2面	110	SK1204			須恵器	环身	90%	口径 最高 (11.0) 底径 4.5 8.5	密 黒色・白色微粒子含む	良	(内面)5Y6/2灰オーリーブ (外側)5.5YR7/6型
第27 22 回 29上	25	B-2	1・2面	110	SK1204			灰釉陶器	淨瓶	98%	口径 最高 (23.4) 最大径 13.0 底径 3.6	密 長石微粒子、3mm以下の 長石含む	良	5B6/1青灰
第27 22 回 29上	26	B-2	1・2面	110	SK1204			須恵器	長颈瓶	90%	口径 最高 (16.0) 最大径 20.0 底径 12.6	やや密 長石粒子、1~3.5 mmの砂粒含む	良	N7.0灰白
第27 22 回 29上	27	B-2	1・2面	110	SK1204			須恵器	長颈瓶	95%	口径 最高 (17.0) 最大径 19.5 底径 6.4	密 雲母粒子多量、1mmの石 英粒、長石・赤褐色粒子、4 mmの砂粒含む	良	7.5YR6/3に近い橙
第27 22 回 29上	28	B-2	1・2面	110	SK1204			土師器	長胴甕	5%	口径 最高 (21.8) (6.4)	密 雲母粒子微量含む	良	N5/1灰

国版番号	写真番号	神岡番号	区	面	グリッド	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量(cm)	胎土	焼成	色調	
第27 國 29上 29	22	B-2	1・2面	110	SK1204			土師器	小型甕	60%	口径 底径 6.8	13.6 14.5 6.8	やや粗 底石・石英・黒色・ 赤褐色粒子、1mm程の砂粒含む	やや 良	5YR5/8橙
第27 國 29上 29	22	B-2	1・2面	110	SK1204			土師器	長胴甕	30%	口径 底径 (2.7)	11.0 6.0	密 黒色・白粒子含む	良	7.5YR7/4に近い橙
第28 國 23	31	B-2	1・2面	J9	SK1209			須恵器	壺蓋	20%	口径 底径 (2.7)	16.8 14.5	密 雲母微粒子多量、白色・ 黒色・白粒子含む	良	5Y7/1灰白
第28 國 29下 32	22	B-2	1・2面	J9	SK1210			須恵器	壺蓋	10%	口径 底径 (2.0)	13.4 12.0	密 雲母微粒子多量、0.1~ 0.2mmの白色・黒色粒子含む	良	5Y6/1灰白
第28 國 29上 33	23	B-2	1・2面	J9	SK1210			土師器	長胴甕	5%	口径 底径 (10.4)	21.4 11.0	密 雲母粒子多量、長石・黑 色・赤褐色粒子含む	良	(内面)10YR7/4に近い黄橙 (外面)7.5YR5/3に近い黄
第28 國 30上 34	30	B-2	1・2面		SX1201			須恵器	壺蓋	5%	口径 底径 最大径 (15.1)	14.6 (2.1)	密 0.1~0.2mmの白色粒子、 黒色微粒子含む	良	5Y5/1灰
第28 國 30上 35	23	B-2	1・2面		SX1201			須恵器	壺身	15%	口径 底径 高台径 (8.4)	11.8 10.0 2.5	密 長石・黒色粒子含む	良	5Y7/1灰白
第28 國 30上 36	30	B-2	1・2面		SX1201			須恵器	壺身	15%	口径 底径 高台径 (9.3)	12.5 10.0 2.5	密 白色・白色粒子含む	良	2.5Y6/1黄灰
第28 國 30上 37	30	B-2	1・2面		SX1201			土師器	長胴甕	1%	口径 底径 (1.6)	26.1 1.6	密 0.2mmの雲母・石英、0.2 mmの白色・黒色粒子多量含む	良	(内面)5YR6/6橙 (外面)7.5YR6/4に近い橙
第28 國 30上 38	30	B-2	1・2面		SX1201			土師器	長胴甕	1%	口径 底径 (2.5)	24.8 1.6	密 0.4mmの雲母粒子、0.2 mmの白色・黒色粒子含む	良	7.5YR7/4に近い橙
第28 國 23 39	23	B-2	1・2面	J9	SP1203			須恵器	壺蓋	35%	口径 底径 最大径 被拂み径 (2.9)	15.0 2.3 2.3 2.9	密 白色・黒色微粒子含む	やや 不良	7.5Y8/1灰白
第28 國 23 40	23	B-2	1・2面	K9	SP1207			須恵器	杯蓋	80%	口径 底径 被拂み径 被拂み径 (3.1)	18.6 4.1 4.1 3.1	密 1~2mmの長石・長石・ 黒色粒子含む	良	10YR5/1褐灰
第29 國 23 41	41	B-2	3面	19	SK1303			須恵器	壺身	20%	口径 底径 高台径 (11.1)	16.8 15.0 3.1	密 長石・黒色粒子含む	良	10YR7/2に近い黄橙
第29 國 30下 42	42	B-2	3面	J9	SK1306			須恵器	壺蓋	25%	口径 底径 最大径 (16.7)	16.2 (2.9) (16.7)	密 0.1mmの白色粒子多量、 黒色微粒子含む	良	(内面)N5/0灰 (外面)5Y6/1灰
第29 國 30下 43	43	B-2	3面	J9	SK1307			須恵器	壺蓋	5%	口径 底径 最大径 (16.0)	14.8 (2.1) (16.0)	密 0.1mmの褐色粒子、白色 微粒子含む	良	2.5Y7/2灰黃
第29 國 31上 44	31	B-2	3面	19	SP1303			須恵器	壺蓋	20%	口径 底径 (2.2)	18.0 16.0	密 黑色・白色粒子含む	良	(内面)N5/0灰 (外面)7.5Y6/1灰
第29 國 31上 45	31	B-2	3面	19	SP1303			須恵器	壺蓋	30%	口径 底径 (2.1)	15.6 (1.9)	密 黑色・白色粒子含む	やや 不良	N7.5灰 11時付近 N3.0暗灰
第29 國 31上 46	31	B-2	3面	J9	SP1303			須恵器	壺蓋	10%	口径 底径 最大径 (15.0)	14.2 (1.9) (15.0)	密 0.1~0.2mmの白色粒子、 灰色微粒子含む	良	(内面)10YR6/1灰 (外面)5Y6/1灰
第29 國 31上 47	31	B-2	3面	J9	SP1303			土師器	長胴甕	1%	口径 底径 (3.1)	24.8 14.1	密 0.2~0.3mmの雲母粒子 多量、白色・黒色微粒子含 む	良	5YR6/6橙
第30 國 31下 48	23	B-2	4面	J9	SK1401			須恵器	壺蓋	80%	口径 底径 被拂み径 (2.2)	14.8 14.1 2.6	密 1~2mmの黒色粒子 含む	やや 不良	2.5Y6/1黄灰
第30 國 31T 49	49	B-2	4面	J9	SK1401	覆土一括		須恵器	壺蓋	15%	口径 底径 (1.5)	14.8 14.1	密 黑色・白色粒子含む	やや 不良	5Y6/1灰
第30 國 31T 50	50	B-2	4面	J9	SK1401	覆土一括		須恵器	壺蓋	20%	口径 底径 最大径 (12.1)	12.0 (2.5) (12.1)	密 白色微粒子多量、黑色 微粒子少量含む	良	(内面)N 5/0灰 (外面)2.5Y5/1
第30 國 31T 51	51	B-2	4面	J9	SK1401			土師器	長胴甕	20%	口径 底径 被拂み径 (8.7)	11.4 (1.9) (8.7)	密 雲母、長石、黒色・白 色微粒子、2mmの砂粒含む	良	(内面)7.5YR7/4に近い橙 (外面)10YR7/4に近い黄橙
第30 國 31T 52	52	B-2	4面	J9	SK1401			土師器	小型甕	50%	口径 底径 被拂み径 (5.0)	12.0 (2.5) (5.0)	やや粗 長石・石英・黒色・ 赤褐色粒子の砂粒含む	良	7.5YR5/4に近い黄
第30 國 31T 53	53	B-2	4面	J9	SK1401			土師器	長胴甕	85%	口径 底径 被拂み径 (18.8)	24.5 (25.6) (6.5)	密 長石・石英・雲母粒子、 1~2mmの石英等微粒子、 黒色・赤褐色粒子の砂粒含む	良	7.5YR6/3に近い黄
第30 國 32上 54	54	B-2	4面		SK1402			須恵器	壺蓋	15%	口径 底径 最大径 (4.8)	14.6 (3.0)	密 雲母微粒子少量、0.2mm の白色・黒色粒子含む	良	(内面)10YR6/3に近い黄橙 (外面)2.5Y6/2灰黃
第30 國 32上 55	55	B-2	4面		SK1402			須恵器	杯蓋	25%	口径 底径 (2.9)	21.3 (2.9)	密 長石・石英・黒色粒子含 む	良	10YR5/1褐灰
第30 國 32上 56	56	B-2	4面		SK1402			土師器	長胴甕	5%	口径 底径 (5.4)	25.5 (5.4)	密 0.1~0.5mmの金雲母少 量、0.2mmの石英、白色微 粒子含む	良	7.5YR5/3に近い黄
第30 國 32上 57	57	B-2	4面		SK1402			土師器	小型甕	5%	口径 底径 (4.0)	14.2 (3.0)	やや粗 小石・雲母・石英・白 色微粒子、2mm以下の砂粒含 む	やや 不良	5YR6/6橙
第30 國 32上 58	58	B-2	4面		SK1402			土師器	小型甕	10%	口径 底径 (5.1)	18.3 (5.1)	密 0.2mmの雲母粒子、0.2 mmの白色・黒色粒子含む	良	7.5YR5/3に近い黄
第30 國 32下 59	59	B-2	4面		SK1403			土師器	長胴甕	10%	口径 底径 (7.5)	25.0 (7.5)	やや粗 雲母粒子多量、長石・ 石英・黒色・赤褐色粒子含 む	良	7.5YR7/2明褐灰

国版 番号	写真 番号	地図 番号	区	面	グリ ッド	遺構	層位	種別	器種	残存 率	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	
第30 回	32F	60	B-2	4面		SK1403		土師器	小型甕	5%	口径 器高 (13.8 (5.1))	やや粗・長石・石英・雲母 粒子、黒色・赤褐色粒子、2 mm以下の砂粒多量	良	5YR6/6灰	
第31 回	24	61	B-2					茶褐色小罐 混じりシルト層	古式土燒 器	台付甕	5%	接合部(径13.7 器高 (5.2))	密 0.2~0.5mmの灰黒色の 砂粒多量、0.3mmの白色粒子 含む2mm大の礫も少量含む	良	10YR7/4に近い黄橙
第31 回	24	62	B		38トレー ンチ			土師器	环身	15%	口径 器高 (12.3 (4.2 (7.0))	密 黑色微粒子含む	良	7.5YR6/4に近い橙	
第31 回	24	63	B		38トレー ンチ			土師器	小型甕	15%	口径 器高 (15.8 (10.2))	青・雲母粒子、長石・石英 粒子多量、赤褐色・黑色粒子 含む	良	5YR6/4に近い橙	
第31 回	33上	64	B-2					茶褐色小罐 混じりシルト層	土師器	長胴甕	2%	口径 器高 (24.6 (3.6))	密 0.2~0.5mmの雲母多量、 0.2mmの白色・褐色粒子含む	良	(内面)10YR7/3に近い黄橙 (外側)10YR4/2灰黄褐
第31 回	33上	65	B		38トレー ンチ			土師器	長胴甕	2%	口径 器高 (24.0 (2.8))	密 0.2~0.5mmの雲母多量、 0.2mmの白色・黑色粒子 含む	良	10YR6/4に近い黄橙	
第31 回	33上	66	B-2					茶褐色小罐 混じり粗砂 層	土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (22.8 (2.9))	密 0.2mmの雲母・石英粒子 多量、0.2mmの白色・褐色 粒子含む	良	10YR7/4に近い黄橙
第31 回	33上	67	B		38トレー ンチ			土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (26.2 (2.1))	密 0.2mmの金雲母多量、0.2 mmの白色・黑色粒子含む	良	7.5YR6/4に近い橙	
第31 回	33上	68	B-2					茶褐色小罐 混じりシルト層	土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (24.0 (2.7))	密 0.2mmの金雲母・石英粒子 多量、0.2mmの褐色・黑色粒子 多量含む	良	(内面)2.5Y7/2灰黄 (外側)10YR7/4に近い黄橙
第31 回	33上	69	B-2					茶褐色小罐 混じりシルト層	土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (24.0 (2.8))	密 0.2mmの雲母・石英粒子 多量、0.2mmの白色・褐色・黑色 粒子含む	良	(内面)10YR7/4に近い黄橙 (外側)10YR6/3に近い黄橙
第31 回	33上	70	B-2	3面				土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (21.4 (3.4))	密 0.2~0.5mmの金雲母多量、 0.2mmの白色・黑色粒子 含む	良	(内面)7.5YR6/4に近い橙 (外側)7.5YR5/3に近い黄	
第31 回	33上	71	B-2	4面				燒土坑一括	土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (22.6 (2.2))	密 0.1~0.3mmの金雲母多 量、0.3mmの石英粒子、0.2 mmの白色・褐色粒子含む	良	(内面)7.5YR6/4に近い橙 (外側)7.5YR4/2灰黄
第31 回	33上	72	B-2		調査区 北半			茶褐色小罐 混じりシルト層	土師器	長胴甕	1%	口径 器高 (25.8 (3.1))	密 0.2mmの雲母・石英粒子、 0.2mmの白色・褐色・黑色 粒子含む	良	7.5YR7/4に近い橙
第32 回	24	73	B-2	2面				茶褐色小罐 混じりシルト層	須恵器	壺蓋	45%	口径 器高 換 (15.6 3.6 3.1))	密 黑色粒子多量、白色 粒子少量含む	良	2.5Y7/1灰白
第32 回	25	74	B-2					茶褐色小罐 混じり粗砂 層	須恵器	壺蓋	60%	口径 器高 換 高 (14.1 2.4 2.4))	密 黑色・白色微粒子含む	良	7.5Y6/1灰
第32 回	25	75	B		22トレー ンチ			須恵器	壺蓋	25%	口径 器高 換 (14.4 3.0 3.1))	密 灰石微粒子少量含む	良	2.5Y6/2灰黃	
第32 回	25	76	B-2	3面				須恵器	壺蓋	70%	口径 器高 換 (13.0 2.55 2.9))	密 砂粒少量含む	良	5Y6/1灰	
第32 回	25	77	B-2	3面				ベース土内	須恵器	壺蓋	50%	口径 器高 換 (16.0 3.65 2.6))	密 1mm大的長石、長石・黑 色粒子含む	良	2.5Y7/1灰白
第32 回	25	78	B					須恵器	壺蓋	20%	口径 器高 換 (14.6 3.6 2.7))	密 0.5mmの長石、黒色・白 色微粒子含む	良	2.5Y6/2灰黃	
第32 回	33下	79	B-2	3面				須恵器	壺蓋	40%	口径 器高 換 (2.7 2.3))	密 0.5~1mmの砂粒、黒色・ 白色微粒子含む	良	5Y7/1灰白	
第32 回	33下	80	B		38トレー ンチ			須恵器	壺蓋	10%	口径 器高 換 (10.2 2.6))	密 黑色・白色粒子含む	良	2.5Y6/2灰黃	
第32 回	33下	81	B		38トレー ンチ			須恵器	壺蓋	10%	口径 器高 (2.0 2.6))	密 黑色・白色粒子含む	良	2.5Y6/1灰灰	
第32 回	33下	82	B					須恵器	壺蓋	20%	口径 器高 (16.2 (2.1 最大径 (16.6))	密 細~0.2mmの白色粒子、 黑色微粒子含む	良	(内面)10Y6/1灰 (外側)5Y6/0灰	
第32 回	33下	83	B					須恵器	壺蓋	20%	口径 器高 (16.7 (2.2 最大径 (16.8))	密 1mmの砂粒、黒色・白色 微粒子含む	良	N6.0灰	
第32 回	33下	84	B-2					茶褐色小罐 混じりシルト層	須恵器	壺蓋	15%	口径 器高 (17.7 (2.6 最大径 (18.0))	密 0.1~0.2mmの白色粒子 多量、黒色微粒子少量含む	良	(内面)2.5Y6/1灰灰 (外側)5Y6/2灰灰リーフ
第32 回	33下	85	B		22トレー ンチ			須恵器	壺蓋	20%	口径 器高 (14.0 (2.3 最大径 (16.6))	密 黑色・白色粒子、1~2 mmの砂粒含む	良	2.5Y7/2灰黃	
第32 回	33下	86	B		22トレー ンチ			須恵器	壺蓋	10%	口径 器高 (15.0 (2.0 最大径 (15.8))	密 0.2mmの白色・黑色粒子 含む	良	(内面)2.5Y4/1 (外側)2.5Y6/2灰黃	
第32 回	33下	87	B		22トレー ンチ			須恵器	壺蓋	40%	口径 器高 (11.2 (2.4 最大径 (12.8))	密 長石の粒子、黑色粒子 含む	良	5Y5/1灰	
第32 回	33下	88	B					須恵器	壺蓋	20%	口径 器高 (12.4 (2.0 最大径 (12.8))	密 0.2mmの石英粒子少量、 0.2mmの白色粒子含む	良	5Y6/1灰	

国版番号	写真番号	地図番号	区	面	グリッド	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量(cm)	胎土	焼成	色調
第32回 33F	89	B			22トレンチ			須恵器	环置	15%	口径(15.0) 器高(1.9) 最大径(15.8)	密 0.1mmの黒色粒子少量、 白色微粒子含む	良	2.5Y7/2灰黃
第32回 33F	90	B-2						須恵器	环置	15%	口径(13.0) 器高(1.4) 最大径(13.4)	密 白色微粒子含む	良	(内面)5Y5/1灰 (外面)5Y6/1灰
第32回 33F	91	B-2				黄褐色小罐 縦じりシルト層		須恵器	环置	15%	口径(15.4) 器高(2.0) 最大径(15.6)	密 白色微粒子多量、0.2mm の黒色粒子含む	良	10Y6/1灰
第32回 33F	92	B			38トレンチ			須恵器	环置	15%	口径(18.0) 器高(1.2)	密 0.2~0.5mmの白色粒子、 黑色微粒子含む	良	5Y7/1灰白
第32回 33F	93	B-2			調査区北半			須恵器	环置	20%	口径(15.5) 器高(1.8)	密 黒色・白色粒子含む	やや不良	5Y7/1灰白
第32回 33F	94	B-2			調査区北半			須恵器	环置	20%	口径(15.6) 器高(1.9) 最大径(15.7)	密 0.1mmの白色粒子多量、 黑色微粒子含む	良	7.5Y8/1灰白
第32回 33F	95	B-2			調査区北半			須恵器	环置	30%	口径(17.4) 器高(2.3)	密 黒色・白色粒子含む	良	N6/0灰
第32回 33F	96	B-2				耕作土除去一括		須恵器	环置	20%	口径(14.8) 器高(1.9) 最大径(15.0)	密 0.1~0.2mmの白色・黒色粒子含む	良	(内面)10Y6/3にいぶし黄 (外面)2.5Y7/3浅黃
第32回 33F	97	B			22トレンチ			須恵器	环置	5%	口径(1.4)	やや密 黒色・白色粒子含む	やや不良	2.5Y8/2灰白
第32回 34上	98	B-2	1・2面 突出面直上			黒灰色砂礫層		須恵器	环身	15%	口径(18.6) 器高(6.1)	密 0.2mmの石英粒子少量、 0.1mmの白色粒子含む	良	(内面)5Y6/2灰オーラブ (外面)5Y5/3灰色
第32回 34上	99	B-2	1・2面 突出面直上			黒灰色砂礫層		須恵器	环身	30%	口径(17.0) 器高(6.0)	密 黒色・白色粒子含む	良	(内面)N6/0灰 (外面)2.5Y6/1黄
第32回 34上	100	B			38トレンチ			須恵器	环身	10%	口径(14.8) 器高(5.9)	密 白色微粒子含む	良	(内面)N6/0灰 (外面)5Y6/1灰
第32回 35	101	B-2	3面					須恵器	环身	40%	口径(9.9) 器高(2.95) 底径(7.0)	密 黒色・白色微粒子含む	良	2.5Y5/1灰灰
第32回 34上	102	B-2				耕作土除去一括		須恵器	环身	15%	口径(9.9) 器高(6.8)	密 黑色・白色砂粒、1mmの 白色砂粒含む	良	2.5Y6/2灰黃
第32回 34上	103	B-2	3面					須恵器	环身	15%	口径(1.8) 高台径(11.0)	密 1mmの大粒長石、長石微粒 子含む	良	10Y7/1灰白
第32回 35	104	B						須恵器	环身	30%	口径(3.7) 高台径(11.5)	密 1.5mmの長石粒子含む	良	(内面)2.5Y6/1赤灰 (外面)10BG5/1青灰
第32回 35	105	B-2	1・2面 突出面直上			黒灰色砂礫層		須恵器	环身	20%	口径(3.2) 高台径(12.5)	密 黒色・白色粒子含む	良	10Y8/2/1にいぶし黄
第32回 35	106	B-2	1・2面 突出面直上			黒灰色砂礫層		須恵器	环身	50%	口径(10.1) 器高(4.3) 底径(7.3)	密 長石の粒子、黒色粒子 含む	良	2.5Y6/2灰黃
第32回 35	107	B-2	3面					須恵器	長頸瓶	25%	口径(9.0) 器高(9.4)	密 長石微粒子含む 種類 の違う粘土の混在がラミナ 状にみられる	良	5Y6/1灰
第33回 34下	108	B-2	1・2面 突出面直上			黒灰色砂礫層		灰釉陶器	碗	40%	口径(10.85) 器高(3.1) 底径(6.7)	密 黒色・白色粒子含む	やや不良	2.5Y8/1灰白
第33回 34下	109	B-2	1・2面 突出面直上			黒灰色砂礫層		陶器	縦輪小皿	10%	口径(10.6) 器高(1.9)	密 白色微粒子含む	良	2.5Y8/4灰黃 (輪)17.5Y6/3オーラブ
第33回 34下	110	B			31トレンチ			陶器	耶皿	15%	口径(12.0) 器高(2.4)	密 黒色・白色粒子含む	良	2.5Y8/3浅黃
第33回 34下	111	B-2						陶器	縦輪	10%	口径(4.8) 器高(3.3)	密 0.2mmの灰色・褐色粒子 含む	良	(内面)7.5Y6/4にいぶし (外面)12.5Y6/3浅黃 (輪)5Y5/3オーラブ
第33回 34下	112	B-2						陶器	耶皿	1%	口径(40.0) 器高(3.2)	密 細~0.1mmの白色粒子、 褐色微粒子含む	良	7.5Y4/3浅
第33回 34下	113	B-2						陶器	耶皿	7%	口径(30.6) 器高(6.4)	密 0.2mmの白色粒子、黒色 微粒子含む	良	5Y8/4/2灰褐
第33回 34下	114	B-2						陶器	耶皿	5%	口径(3.9) 器高(16.4)	密 0.2mmの白色粒子含む	良	5Y8/5/4/2にいぶし赤 10Y8/2/1にいぶし黄
第35回 35上	115	F	1面	L7	SD2102	灰釉陶器	碗	5%	口径(16.1) 器高(3.3)	密 白色粒子含む	良	2.5Y7/1灰白		
第35回 35上	116	F	1面	L7	SD2102	灰釉陶器	輪花碗	10%	口径(13.8) 器高(4.8)	密 白色小碟、白色粒子含 む	良	7.5Y6/4灰		
第35回 35上	117	F	1面	L7	SD2102	山茶碗	碗	10%	口径(2.1) 高台径(7.0)	密 白色粒子含む	良	2.5Y6/1灰灰		
第35回 35上	118	F	1面	L7	SK2102	灰釉陶器	碗	5%	口径(13.9) 器高(4.2)	密 白色粒子含む	良	2.5Y7/4灰黃		
第35回 35上	119	F	2面	L9	SP2203	暗灰黄色砂 礫土層	土師器	环身	98%	口径(12.2) 器高(3.9) 底径(9.5)	密 1mm程の灰白色の砂粒 含む	良	2.5Y5/6明赤褐	

国版番号	写真番号	神岡番号	区	面	グリッド	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量(cm)	胎土	焼成	色調
第51 図 35F 26	120	F	2面	L9	SP2206	暗褐色砂涙土層	土師器	环身	60%	口径 高 底径	12.4 3.6 9.1	密 白色粒子含む	良	7.5YR5/6明周
第51 図 35F 27	121	F	3面	K8	SK2302	暗褐色土層	須恵器	环身	5%	口径 高 底径	(13.7) (3.4) (13.3)	密 白色粒子含む	良	8Y7/1灰白
第51 図 35F 28	122	F	3面	K8	SK2302	暗褐色土層	灰釉陶 器	碗	5%	口径 高 底径	(15.8) (3.4) (13.7)	密 白色粒子含む	やや 不良	2.5Y8/1灰白
第51 図 35F 29	123	F	3面	K8	SK2302	暗褐色土層	須恵器	环身	5%	口径 高 底径	(13.7) (10.8) (13.7)	密 白色粒子含む	良	7.5Y7/1灰白
第51 図 35F 30	124	F	3面	L9	SK2301	黑褐色土層	須恵器	环底	5%	口径 高 底径	(13.7) (1.3) (13.7)	密 白色粒子含む	やや 不良	2.5Y7/1灰白
第51 図 35F 31	125	F	3面	L9	SK2301	黑褐色土層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(21.3) (2.4) (21.3)	密 黒雲母、長石、褐色粒子 含む	良	7.5YR7/6橙
第51 図 35F 32	126	F	3面	L9	SK2301	黑褐色土層	土師器	小型甕	5%	口径 高 底径 最大径	(10.9) (4.2) (12.1)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	7.5YR7/4にぶい橙
第51 図 36上 127	F	4面	L9	SK2404	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(14.1) (2.3) (14.1)	密 石英、小礫、白色・褐 色粒子含む	良	7.5YR8/6浅黄橙	
第51 図 36上 128	F	4面	L9	SK2404	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(13.6) (1.8) (13.6)	密 石英、長石、白色・褐 色粒子含む	良	10YR8/6黄澄	
第51 図 36上 129	F	4面	L9	SK2404	暗褐色土層	古式土師 器	甕	5%	口径 高 底径	(21.9) (7.1) (21.9)	密 褐色粒子含む	やや 不良	7.5YR8/8浅黄	
第51 図 36上 130	F	4面	L9	SK2404	暗褐色土層	古式土師 器	甕	1%	口径 高	(4.5)	密 4mm程の褐色の小穢、白 色粒子含む	良	5YR7/6橙	
第51 図 36上 131	F	4面	L9	SK2404	暗褐色土層	古式土師 器	甕	5%	口径 高 底径	(3.7) (7.2) (3.7)	密 4mm程の黄褐色の小穢、白 色粒子含む	良	5YR7/6橙	
第51 図 36上 132	F	4面	L9	SK2404	暗褐色土層	古式土師 器	白台盤	5%	口径 高 底径	(3.4) (5.3) (3.4)	密 小穢多量、棕色・小豆 色粒子含む	良	7.5YR7/6橙	
第52 図 36F 133	F	4面	K8	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(17.5) (3.4) (17.5)	密 黒雲母、長石、小穢、 黑色・褐色粒子含む	良	5YR5/8明赤周	
第52 図 36F 134	F	4面	L9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(17.4) (2.2) (17.4)	密 黒雲母、長石多量、黑 色粒子含む	良	5YR5/8明赤周	
第52 図 36F 135	F	4面	K9	SP2422	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(2.4) (5.3) (2.4)	密 黒雲母、長石多量、黑 色粒子含む	良	5YR6/8橙	
第52 図 36F 136	F	4面	L9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(1.3)	密 石英、黒雲母、小穢含む	良	10YR8/4浅黄橙	
第52 図 36F 137	F	4面	L9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(4.1)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	10YR8/3浅黄	
第52 図 36F 138	F	4面	L9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	S字甕	1%	口径 高 底径	(2.5)	密 2mm程の白色小穢、白 色・褐色・白色粒子含む	良	7.5YR8/6浅黄橙	
第52 図 36F 139	F	4面	K9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	甕	1%	口径 高 底径	(19.6) (2.1) (19.6)	密 白色・褐色粒子含む	良	7.5YR7/3にぶい橙	
第52 図 36F 140	F	3面	L9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	甕	5%	口径 高 底径	(2.4) (3.8) (2.4)	密 2~9mm程の灰色の小穢 含む	良	(内面)7.5YR2/1黒 (外側)7.5YR6/6橙	
第52 図 36F 141	F	4面	K9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	甕	5%	口径 高 底径	(1.8) (6.0) (1.8)	密 長石、小穢、褐色粒子 含む	良	7.5YR7/6橙	
第52 図 36F 142	F	4面	K8	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	甕	5%	口径 高 底径	(3.3) (7.5) (3.3)	密 長石、小穢含む	良	5YR6/8橙	
第52 図 36F 143	F	4面	K8	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	台付甕	10%	口径 高 底径 推定径	(7.0) (8.6) (5.0)	密 2mm程の白色小穢、白色 粒子含む	良	5YR7/6橙	
第52 図 36F 144	F	4面	K9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	台付甕	5%	口径 高 底径 推定径	(4.9) (5.2) (4.9)	密 長石、小穢多量含む	良	5YR5/8明赤周	
第52 図 36F 145	F	4面	K8	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	台付甕	5%	口径 高 底径	(2.9)	密 白色・褐色粒子含む	良	5YR5/6明赤周	
第52 図 36F 146	F	4面	K9	SK2402	暗褐色土層	古式土師 器	台付甕	5%	口径 高 底径	(2.7)	密 白色・灰白色粒子含む	良	5YR7/6橙	
第53 図 36F 147	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	15%	口径 高 底径	(21.7) (9.4) (21.7)	密 黒雲母多量、砂粒、白 色・褐色粒子含む	良	5YR4/6赤周	
第53 図 36F 148	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	5%	口径 高 底径	(23.0) (7.8) (23.0)	密 白色・金色粒子含む	良	5YR6/4にぶい橙	
第53 図 36F 149	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	5%	口径 高 底径	(24.6) (7.2) (24.6)	密 白色・金色粒子含む	良	5YR6/4にぶい橙	
第53 図 37上 150	F	3面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(22.6) (2.5) (22.6)	密 長石、小穢、褐色・白 色粒子含む	良	2.5YR4/6赤周	
第53 図 37上 151	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(20.6) (1.9) (20.6)	密 石英、黒雲母、砂粒、白 色・褐色粒子含む	良	5YR6/6橙	
第53 図 37上 152	F	3面	K9	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(23.8) (2.1) (23.8)	密 白色粒子含む	良	7.5YR4/4にぶい橙	
第53 図 37上 153	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(22.6) (2.5) (22.6)	密 黒雲母、長石、褐色・白 色粒子含む	良	7.5YR5/4にぶい橙	
第53 図 37上 154	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(23.6) (2.15) (23.6)	密 白色・褐色・細粒粒子 含む	良	7.5YR6/3にぶい橙	
第53 図 37上 155	F	3面	K9	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(23.6) (2.7) (23.6)	密 白色・褐色・細粒粒子 含む	良	7.5YR4/3赤周	
第53 図 37上 156	F	2面	K8	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(23.8) (3.5) (23.8)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	(内面)5YR7/4にぶい橙	
第53 図 37上 157	F	3面	K9	SK2402	褐色砂涙層	土師器	民窯型	1%	口径 高 底径	(22.4) (2.1) (22.4)	密 白色・褐色・細粒粒子 含む	良	5YR6/4にぶい橙	

国版番号	写真番号	種類	区	面	グリッド	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量(cm)	胎土	焼成	色調
第53 國	37上 158	F	4面	K9		黄褐色粘土層		土師器	長胴甕	1%	口径(19.4) 器高(1.6)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	5YR6/4に近い橙
第53 國	37上 159	F	3面	L9		黄褐色土層		土師器	長胴甕	1%	口径(18.0) 器高(1.0)	密 灰白・石英・橙色・黑 色粒子含む	良	5YR6/6橙
第53 國	37上 160	F	3面	K9		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(19.6) 器高(1.6)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	(内面)5YR7/4に近い橙 (外面)5YR6/4に近い橙
第53 國	37上 161	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(27.1) 器高(3.1)	密 黑雲母・砂粒・橙色・ 白色粒子含む	良	7.5YR5/4に近い褐
第53 國	37上 162	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(24.6) 器高(3.4)	密 白色・褐色・灰色粒子 含む	良	(内面)10YR4/4浅黃橙 (外面)5YR7/4に近い橙
第53 國	37上 163	F	2面	K8		褐色砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(26.6) 器高(2.1)	密 白色・褐色・灰色粒子 含む	良	5YR5.6中青褐
第53 國	37上 164	F	2面	K8		褐色砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(24.6) 器高(1.4)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	(内面)7.5YR6/4に近い褐 (外面)7.5YR5.3に近い褐
第53 國	37上 165	F	3面	L8		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(22.6) 器高(2.5)	密 白色・褐色粒子含む	良	7.5YR5/2灰褐
第53 國	37上 166	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(25.5) 器高(1.0)	密 黑雲母・小裡・ 褐色粒子含む	良	10YR7/4に近い黄橙
第53 國	37上 167	F	3面	K9		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(24.2) 器高(1.2)	密 黑雲母・砂粒・橙色・ 白色粒子含む	良	10YR7/4に近い黄橙
第53 國	37上 168	F	3面	L9		黒(暗)褐色 砂礫層		土師器	長胴甕	1%	口径(23.6) 器高(1.9)	密 白色・褐色・金色粒子 含む	良	(内面)7.5YR7/4に近い褐 (外面)5YR5.2灰褐
第54 國	26 169	F	2面	L8	SR2201	褐色粘土層		須恵器	环蓋	50%	口径(9.8) 器高(3.6) 拂み端(2.5)	密 白色粒子含む	良	N6.0灰
第54 國	26 170	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环蓋	50%	口径(14.6) 器高(3.5) 拂み端(1.8)	密 白色粒子含む	良	N6.0灰
第54 國	37下 171	F	1面	K7		黄褐色粘土 層		須恵器	环蓋	40%	口径(2.7) 器高(3.0)	密 白色粒子含む	良	7.5Y6/0灰
第54 國	37下 172	F	1面	K7		黄褐色粘土 層		須恵器	环蓋	40%	口径(15.8) 器高(3.9)	密 白色粒子含む	良	N5.0灰
第54 國	37下 173	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环蓋	25%	口径(17.2) 器高(3.2)	密 白色粒子含む	良	(内面)N6.0灰 (外面)5Y7/2灰白
第54 國	37下 174	F	2面	K9		黒褐色土層		須恵器	环蓋	10%	口径(15.0) 器高(2.3)	密 白色粒子含む	良	2.5Y7/2灰黄
第54 國	37下 175	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环蓋	20%	口径(16.2) 器高(2.1)	密 白色粒子含む	良	7.5Y7/2灰白
第54 國	37下 176	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环蓋	15%	口径(12.8) 器高(2.25)	密 白色粒子含む	良	(内面)N7/0 (外面)5Y7/3浅黄
第54 國	37下 177	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环蓋	15%	口径(15.8) 器高(1.7)	密 白色粒子含む	良	(内面)5Y7/1灰白 (外面)2.5Y7/2灰黄
第54 國	37下 178	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环蓋	20%	口径(15.5) 器高(1.8)	密 白色粒子含む	良	7.5Y7/1灰白
第54 國	37下 179	F	2面	北側ト レンチ		砂礫(砂利) 褐色土層		須恵器	环蓋	10%	口径(13.2) 器高(1.9)	密 白色粒子含む	良	2.5Y6/1灰灰
第54 國	37下 180	F	3面	L8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环蓋	15%	口径(14.8) 器高(2.0)	密 白色粒子含む	良	5Y7/1灰白
第54 國	37下 181	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环蓋	25%	口径(14.8) 器高(2.4)	密 白色粒子含む	良	N7/0灰白
第54 國	37下 182	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环蓋	30%	口径(13.7) 器高(2.2)	密 白色粒子含む	良	(内面)2.5GY5/1オリーブ灰 (外面)5Y6.3オリーブ灰
第54 國	37下 183	F	4面	L9		灰色粘土層		須恵器	环蓋	10%	口径(14.7) 器高(1.2)	密 1mm以下の白色粒子含 む	良	5Y6/1灰
第54 國	37下 184	F	3面	L9		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环蓋	15%	口径(12.0) 器高(1.4)	密 白色粒子含む	良	2.5Y7/1灰白
第54 國	26 185	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环身	40%	口径(14.8) 器高(4.4) 底径(9.4)	密 白色粒子含む	良	5Y7/1灰白
第54 國	26 186	F	2面	L8	SR2201	黄褐色砂礫層		須恵器	环身	75%	口径(12.6) 器高(4.6) 底径(9.6)	密 白色粒子含む	良	7.5Y6/1灰
第54 國	26 187	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环身	20%	口径(14.0) 器高(4.3) 底径(10.2)	密 白色粒子含む	良	7.5Y7/1灰白
第54 國	38上 188	F	2面	M9	SR2201	褐色砂礫層		須恵器	环身	10%	口径(15.8) 器高(5.6)	密 白色粒子含む	良	7.5Y6/1灰
第54 國	38上 189	F	3面	L8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环身	10%	口径(17.2) 器高(3.2)	密 白色粒子含む	良	5Y7/1灰白
第54 國	38上 190	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环身	10%	口径(13.8) 器高(3.1)	密 白色粒子含む	良	2.5Y8/2灰白
第54 國	38上 191	F	3面	L8		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环身	10%	口径(15.9) 器高(3.2)	密 白色粒子含む	良	2.5Y7/1灰白 やや不良
第54 國	38上 192	F	4面	K8	北トレ ンチ内	黄褐色粘土 層		須恵器	环身	5%	口径(12.9) 器高(3.0)	密 白色粒子含む	良	5Y7/1灰白
第54 國	38上 193	F	2面	K8		褐色砂礫層		須恵器	环身	5%	口径(15.9) 器高(3.4)	密 白色粒子含む	良	N6.0灰
第54 國	38上 194	F	3面	L9		黒(暗)褐色 砂礫層		須恵器	环身	10%	口径(20.8) 器高(3.4)	密 白色粒子含む	良	5Y5/1灰

図版番号	写真番号	標高番号	区	面	グリッド	遺構	層位	種別	器種	残存率	法量(cm)	胎土	焼成	色調
第54図	38上	195	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層	須恵器	环身	10%	高台径 (2.4) 高台径 (7.3)	密 白色粒子含む	良 N6/0灰	
第54図	38上	196	F	3面	K9		黄褐色土層	須恵器	环身	5%	高台径 (1.4) 高台径 (11.2)	密 白・黒色粒子含む やや 不均	5Y8/1灰白	
第54図	38上	197	F	2面	K8		褐色砂礫層	須恵器	环身	30%	高台径 (2.8) 高台径 (11.2)	密 白色粒子含む	良 7.5Y5/1灰	
第54図	38上	198	F	3面	L8		黒(暗)褐色 砂礫層	須恵器	环身	5%	高台径 (1.5) 高台径 (9.9)	密 1mm以下の白色粒子含む	良 5Y6/1灰	
第54図	38上	199	F	3面	L9		黄褐色土層	須恵器	环身	5%	高台径 (1.8) 高台径 (10.9)	密 1mm以下の長石含む	良 7.5Y7/1灰白	
第54図	38上	200	F	3面	K9		黄褐色土層	須恵器	环身	10%	高台径 (2.0) 高台径 (8.3)	密 1mm以下の長石、2mm以下の小豆色粒子含む	良 5Y5/1灰	
第54図	38上	201	F	2面	K8		褐色砂礫層	須恵器	环身	15%	高台径 (1.8) 高台径 (15.0)	密 白色粒子含む	良 7.5Y7/1灰白	
第54図	38上	202	F	1面	K8		黄褐色粘土層	須恵器	环身	10%	高台径 (1.7) 高台径 (10.8)	密 白色粒子含む	良 5Y6/1灰	
第54図	38上	203	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層	須恵器	环身	5%	高台径 (1.6) 高台径 (12.0)	密 0.5mm以下の白色粒子含む	良 2.5Y6/2灰黃	
第55図	38下	204	F	2面	K8		褐色砂礫層	須恵器	平瓶	15%	高台径 (19.1) 最大径 (17.0)	密 白色粒子含む (肩部)2.5Y7/3浅黄 (体部)7.5Y7/1灰白	良	
第55図	38下	205	F	2面	K7		褐色砂礫層	須恵器	平瓶	20%	高台径 (8.1) 高台径 (15.2)	密 2~3mm程の白色小繊、白色粒子含む	良 2.5Y7/2灰黃	
第55図	26	206	F	3面	L8		黒(暗)褐色 砂礫層	須恵器	長頸瓶	15%	高台径 (6.5) 高台径 (9.8)	密 白・黒色粒子含む	良 5Y4/1灰	
第55図	38下	207	F	2面	K8		褐色砂礫層	須恵器	壺	5%	高台径 (15.6) 高台径 (3.9)	密 白色粒子含む	良 N6.0灰	
第55図	38下	208	F	3面	K9		黄褐色土層	須恵器	壺	1%	1径 (11.9) 高台径 (2.0)	密 2mm以下の長石含む	良 2.5Y6/1灰白	
第55図	38下	209	F	3面	K8		黒(暗)褐色 砂礫層	灰陶陶器	水瓶	5%	高台径 (5.6) 最大径 (10.7)	密 白・黒色粒子含む	良 5Y4/1灰	
第55図	39上	210	F	1面	L9			灰陶陶器	罐	10%	1径 (9.8) 高台径 (2.7)	密 白色粒子含む	良 2.5Y7/2灰黃	
第55図	39上	211	F	1面	K8			灰陶陶器	罐	15%	高台径 (5.0) 高台径 (7.8)	密 2~3mmの灰白色の小繊、白色粒子含む	良 7.5Y7/1灰白	
第55図	39上	212	F	1面	L8		黄褐色粘土層	灰陶陶器	罐	10%	高台径 (2.6) 高台径 (8.0)	密 4mmの灰白色小繊、白色粒子含む	良 5Y6/1灰	
第55図	39上	213	F	1面	L7			灰陶陶器	罐	10%	高台径 (6.0) 高台径 (2.2)	密 白色粒子含む	良 N7.0灰白	
第55図	39上	214	F	3面	K9		黄褐色土層	灰陶陶器	長頸瓶	1%	高台径 (2.3) 高台径 (6.8)	密 白色粒子含む	良 2.5Y7/1灰白	
第55図	39上	215	F	1面	L7			山茶瓶	罐	5%	高台径 (2.2)	密 白色粒子含む	良 2.5Y6/1灰白	
第55図	39上	216	F	1面	K9	調査区 北壁面	黒褐色砂礫層	山茶瓶	壺	10%	高台径 (2.1)	密 白色粒子含む	良 5Y6/1灰	
第55図	39上	217	F	1面	L7			山茶瓶	罐	5%	高台径 (2.6)	密 1mm以下の白色粒子含む	良 5Y6/1灰	
第55図	39上	218	F	1面	L8		黄褐色粘土層	山茶瓶?	壺	10%	1径 (8.9) 高台径 (1.95)	密 白色粒子含む	良 5Y7/1灰白	
第55図	39上	219	F	1面	K9			山茶瓶	小壺	15%	1径 (7.6) 高台径 (1.9)	密 長石含む	良 5Y5/1灰	
第58図	39下	220	G					土師器	壺	1%	口径 (21.4) 高台径 (3.9)	密 0.2mmの須母粒子、0.5mmの白色粒子多量、褐色・黑色粒子少量含む	良 (内面)10YR6.4/にびい (外面)7.5YR4/2灰褐	
第58図	39下	221	G					土師器	壺	1%	口径 (22.6) 高台径 (3.5)	密 1mmの褐色粒子多量、0.5mmの白色・洪褐色粒子少量含む	良 (内面)10YR6.5/灰褐 (外面)7.5YR4/1灰褐	
第58図	39下	222	G				黄褐色土層	土師器	壺	1%	口径 (23.0) 高台径 (3.2)	密 1mmの須母粒子、0.3mmの褐色粒子、0.2mm~1mmの白色粒子多量含む	良 (内面)7.5YR6.4/にびい (外面)10YR6.3/にびい 黄褐	
第58図	39下	223	G				黄褐色土層	弾生土器?	壺	5%	口径 (3.8) 高台径 (9.6)	密 1mmの須母粒子、0.2mmの褐色粒子、0.2mmの白色・褐色粒子少量含む	良 10YR7.3/にびい 黄褐	
第58図	40上	224	G				黄褐色土層	山茶瓶	罐	20%	高台径 (2.0) 高台径 (7.2)	密 白色・褐色微粒子、褐色微粒子少量含む	良 5Y6/2灰オーラブ	
第58図	40上	225	G				撲瓦	山茶瓶	罐	10%	高台径 (1.8) 高台径 (8.2)	密 白色微粒子、黑色微粒子少量含む	良 5Y6/2灰オーラブ	

第10表 キヨウダイヤト遺跡出土金属製品一覧

図版番号	写真図版番号	挿図番号	器種	区	面	グリッド	遺構	層位	長さ(cm)	最大幅(cm)	最小幅(cm)	重量(g)	
第34図	40下	1	キセル吸口	B-1	1面			SK1122		5.05	1.10	0.45	5
第34図	40下	2	キセル吸口	B						7.30	1.20	0.50	9
第34図	40下	3	キセル吸口	B						7.30	0.90	0.50	3
第34図	40下	4	鉄泡玉	B						—	1.20	1.20	9

第5章 まとめ

第1節 内牧城跡について

『駿河記』・『駿河志料』・『駿国雑志』などの資料によると、内牧城は南北朝期に南朝方に与した狩野介貞長が、安倍城を中心とした城塞群の一角として築いた山城であると言われる。狩野氏の居館地でもあつたとされ、土地では「かなどの城山」と称していたことが記されている。

南北朝期には北朝方の今川範国が駿河国守護となり、駿府に入ったとされており、当時の南朝勢力としては、伊豆狩野氏の一流である狩野氏が安倍川・藁科川流域の山間部を拠点として活動していた。沼館愛三は、安倍川と藁科川に挟まれた丘陵部の最高所でもある標高435.4mに築かれた安倍城を中心に、尾根伝いの久住砦・羽鳥砦・千代砦・内牧城を含む城砦群が狩野氏によって築かれたとしており、内牧城は平時の城であり、危急に際して本城である安倍城に立てこもっていたと解釈している（沼館1933）。

今回調査が実施された城山丘陵南側斜面・南西側尾根・南東側尾根については、茶烟などの開墾による地形改変を受けており、内牧城に伴う曲輪などの人為的な平坦部や堀切などの掘削部分、及び建物等の遺構や遺物は確認されなかった。しかし、南北朝期の城は自然地形をそのまま利用する例が多いと考えられており、南側の急峻な斜面をそのまま防御施設として利用し、未調査である丘陵頂部とそこから派生する北側尾根等の一部に限って城の施設を造った可能性も考えられる。

一方で、南北朝期の狩野氏の本貫地がここにあり、その軍事的な拠点となった内牧城や安倍城を築いたことが確認できる一次史料は現在まで発見されていない。狩野氏の本拠地は内牧の地ではなく、「安倍山」と称される安倍奥ではないかと位置づけている研究も存在する（川村1996）。今回の調査において内牧城に関わる遺構・遺物が確認されなかつたことから、本地域における南北朝期の城のあり方を再検討する必要性も考えられる。

第2節 城山古墳について

沼館愛三の記録した見取り図には、内牧城が築かれたとされる丘陵の南側尾根末端に古墳が存在することが把握されている（沼館1933）。今回の調査では、盗掘や茶烟の造成等により遺存状況は良好ではなかつたものの、6世紀末～7世紀前半頃に築造されたと思われる横穴式石室を主体部とする古墳の存在が確認され、須恵器の环蓋1点が出土した。

安倍川西岸の藁科川以南では、古墳時代後期になると丘陵の突端や谷上、または小支谷の開口する部分に千代古墳群・羽鳥古墳群・牧ヶ谷古墳群などの群集墳が複数造営されている。藁科川以北についても横穴式石室を主体部とする古墳が丘陵端部に点在する状況が確認されているが、本格的な調査はほとんど行われていない。本地域の古墳の多くは丘陵の斜面に横穴式石室を築いており、盛土を多く築いていないと考えられるため、未発見の古墳が多く存在する可能性が考えられる。周辺地域では同時期に群集墳の形成が始まっていることから、本地域でも群集墳の存在が想定され、今後の調査例の増加が期待される。

城山古墳における古墳の遺存状況は必ずしも良好ではなく、盗掘等により遺物の多くや石材の一部が抜き取られていたものの、調査例の少ないこの地域における古墳の一つが確認され、遺存状況の一部が明らかになった点は非常に有意義な成果となった。

第3節 キョウダイヤト遺跡について

(1) 検出遺構について

キョウダイヤト遺跡では、古墳時代前期・奈良時代～平安時代初頭（8世紀代～9世紀初頭）、中世～近世（15世紀～17世紀）の遺構が確認された。

古墳前期の遺構は、F区4面で掘立柱建物2棟およびそれに付随する複数の土坑・小穴が検出された。検出された土坑・小穴には焼土を含むものが多く存在しており、焚き火による何らかの祭祀が行われていた可能性も考えられる。また、掘立柱建物（SB2402）内部からは焼土を含む大型の土坑（SK2404）が検出されており、その用途については検討を要する。出土した土器は破片が多く時期が不明瞭であるが、S字甌の口縁部破片が出土しており、これらは廻間式のS字甌C類～D類に相当すると考えられる。

奈良時代から平安時代初頭にかけての遺構は、B-1区・B-2区およびF区2～3面で掘立柱建物・土坑・小穴等が検出された。B-1区・B-2区では1面から4面までの遺構面を検出したが、出土遺物から遺構面の時期差がほとんど把握できず、短期間のうちに頻繁な土砂崩れが生じたものと考えられる。掘立柱建物はB区南側のやや平坦な斜面で2棟が確認されており、掘立柱建物よりやや北側の斜面では淨瓶、瓦鉢、甌、長頸瓶などの遺物が集中して出土する2基の土坑（SK1202、SK1204）を検出している。B区南側の平坦地（F区）では、調査区南側で路流が検出されており、調査区北側においては遺物が散乱した状態で出土していることから、B区の北側斜面で土砂崩れが起り、南側へ流れ込んできた可能性が考えられる。

中世の遺構は、B区で土坑（SK1102）や溝（SD1202）などが点在して確認されている。また、F区1面で中世と見られる溝や土坑などが検出され、山茶碗や陶器などが出土している。いずれも遺物の出土点数は少なく、内牧城に関連すると思われる遺構や遺物も確認されていない。

(2) 奈良時代出土遺物について

出土遺物の多くは奈良時代に属するものであり、須恵器（环蓋、环身、長頸瓶）、土師器（环、甌）等が出土している。出土した土師器の多くは遠江型の長胴甌であり、これに在地系と見られる小型甌を伴っている。土師器の环は3点出土している。

出土した須恵器环類の多くは8世紀後半の助宗窯産の製品であると考えられる。八木勝行氏による助宗窯産須恵器の編年（八木1990）の1期～3期に相当する須恵器环類が出土しており、その中でも特に3期に相当する製品が多いと見られる。須恵器の有台环はほぼ全てが貼り付け高台のものであり、助宗窯産の8世紀末から9世紀初頭の須恵器に特徴的な削り出し高台を持つ环身は見られない。

有台杯は法量による器種分化を捉えることができ、大型・中型・小型の3種に分類が可能である。御子ヶ谷遺跡等の出土品とほぼ同様の法量の分化が見られるが、本遺跡の出土品は大型の製品が比較的少ない点が特徴的である。無台环の出土点数は少なく、いずれも底部にヘラ削りによる調整を施しており、糸切り痕を残すものは少ない。

特殊な器形の須恵器には、円面鏡、甌、淨瓶、瓦鉢などがあり、これらには湖西窯や猿投窯など、他地域産の製品が含まれる。中でも淨瓶は県内でも出土例が少なく、川合八反田出土のものと同様に、灰釉陶器の淨瓶としては静岡県内で最古の例と推定される（勝又2002）。

(3) 遺跡の性格について

キョウダイヤト遺跡が立地する安倍川中流域では奈良・平安時代の遺跡がほとんど見つかっておらず、今回の調査により奈良時代を中心とした遺構および遺物が確認されたことから、県内有数の貴重な資料の存在が明らかになった。特殊な遺物として、8世紀後半の仏具（淨瓶・瓦鉢）が出土しているほか、円面鏡1点と転用鏡と見られる須恵器1点が出土しており、今回の調査により非常に貴重な成果を上げ

ることができた。これらの仏具が出土している点から、遺跡周辺で何らかの宗教活動が行われていた可能性も考えられるが、一方で多くの仏教関連遺跡で出土する墨書き土器や瓦などの遺物は見つかっておらず、「寺院遺跡」と認定できる確実な証拠は見つかっていない。遺構についても、奈良時代に属すると見られる掘立柱建物跡2棟を検出しているが、いずれも底を伴わない側柱建物であり、これに関連する基壇などの遺構も検出されていないため、これらの掘立柱建物を仏堂とする根拠には乏しい。

また、遺跡より南側の慈悲尾や薙科川北岸では建穂寺や慈悲寺（増善寺）など、古代に創建された寺の存在が伝えられているが、遺跡の位置する内牧川流域では現在までに明確な古代の寺院跡は確認されていない。これらの点から、遺跡の性格については今後さらに検討が必要であると考えられる。

参考文献

- 小和田哲男 1981 「V安倍城跡」「静岡県の中世城館跡」 静岡県教育委員会
- 勝又直人 2002 「静岡県における古代仏教遺物の様相」「研究紀要」第9号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 河合 修 2001 「青灰色のうつわ—榛原郡金谷町横岡字釜谷の灰釉系陶器について—」「研究紀要」第8号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 川江秀孝 2010 「静岡市半兵衛奥古墳とその遺物Ⅲ」「静岡県考古学研究」41・42 静岡県考古学会
- 川村晃弘 1996 「安倍城再考（上）—史料を読みなおして—」「古城」第42号 静岡古城研究会
- 静岡県教育委員会 1989 「静岡県の窯業遺跡 本文編」 静岡県文化財調査報告書第42集
- 静岡県考古学会・シンポジウム実行委員会 1996 「静岡県考古学会シンポジウムX 古代駿河国律令社会考—資料集一」
- 静岡県考古学会 2003 「静岡県の横穴式石室」
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988 「内荒遺跡（遺物編） 昭和62年度静清バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査報告書」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第16集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991 「宮下遺跡（遺物編） 平成2年度静清バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査報告書」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第31集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1995 「川合遺跡 八反田地区II（本文編・図版編） 平成3・4年度県営住宅南沼上田地建替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第63集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998 「静岡県埋蔵文化財調査研究所年報 XIV（平成9年度事業概要）」
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1999 「静岡県埋蔵文化財調査研究所年報 XV（平成10年度事業概要）」
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2000 「静岡県埋蔵文化財調査研究所年報16（平成11年度事業概要）」
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007 「小瀬戸遺跡・栗ヶ沢遺跡」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第176集
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2011 「助宗古窯群・寺島大谷遺跡・寺島大谷古墳」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第243集
- 静岡商工会議所 1967 「静岡・清水地域の地質—地質図説明書—」
- 静岡商工会議所 1976 「静岡・清水地域地質図」
- 濵谷昌彦 2007 「藤枝市助宗古窯跡群の灰釉陶器生産と遠江・駿河の編年」「静岡県考古学研究」39 静岡県考古学会
- 富永樹之 1994～96 「『村落内寺院』の展開（上・中・下）」「神奈川考古」第30～32号 神奈川考古同人会
- 藤枝市土地開発公社・藤枝市教育委員会 1981 「日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書III—奈良・平安時代編— 志太郡衙跡（御子ヶ谷遺跡・秋合遺跡）」
- 沼館愛三 1933 「安倍城の研究」「静岡県郷土研究」第1輯 静岡県郷土研究協会
- 八木勝行 1990 「志太地域における律令期須恵器について」「藤枝市郷土博物館紀要 2」
- 美和郷土誌編集委員会 1985 「美和郷土誌」

写 真 図 版

内牧城跡・城山古墳 図版1



内牧城跡・城山古墳・キョウダイヤト遺跡遠景（南東より）



B区遠景（南より）

図版2 内牧城跡・城山古墳



B区トレンチ設定状況（東より）



A区トレンチ設定状況（南東より）



C区全景（北西より）



C区トレンチ設定状況（北西より）



C区トレンチ設定状況（北東より）

内牧城跡・城山古墳 図版3



D区全景(北西より)



城山古墳石室検出状況(南東より)

図版4 内牧城跡・城山古墳



城山古墳側壁検出状況（南西より）

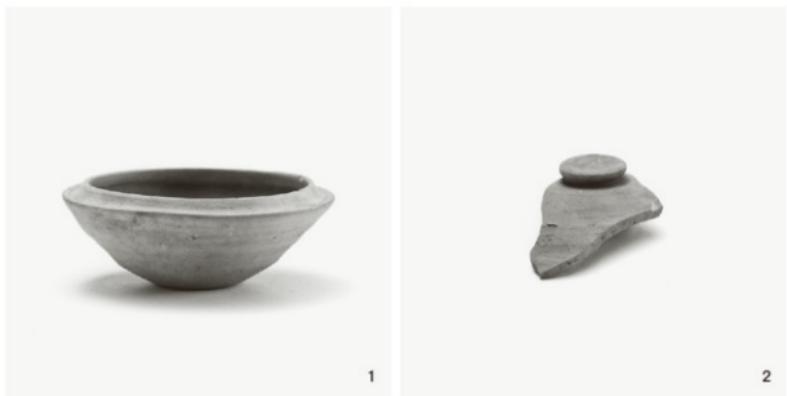


城山古墳石室完掘状況（南東より）

内牧城跡・城山古墳 図版5



城山古墳掘方完掘状況（南東より）



内牧城跡・城山古墳出土土器

図版6 キョウダイヤト遺跡



B-1区1面全景（東より）



SK1102発掘状況（北西より）

キヨウダイヤト遺跡 図版7



B-1区2面全景（南西より）



SK1202検出状況（南東より）



SK1202上面遺物出土状況（南西より）



SK1202下面遺物出土状況（南西より）



SK1202完握状況（南西より）

図版8 キョウダイヤト遺跡



SK1201 遺物出土状況（南より）



SK1201 完掘状況（南より）

キョウダイヤト遺跡 図版9



B-2区遠景（北東より）



B-2区1・2面全景（北東より）



B-2区3面全景（北東より）



B-2区4面全景（南より）



B-2区南壁土層断面（北より）

図版10 キョウダイヤト遺跡



SK1204検出状況（南より）



SK1204遺物出土状況（東より）

キョウダイヤト遺跡 図版11

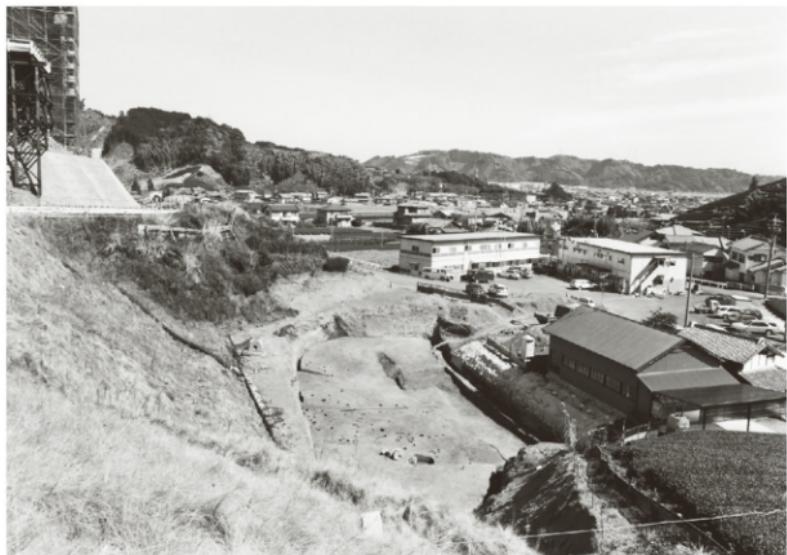


SK1401 検出状況（南より）



B-3 区全景（南より）

図版12 キョウダイヤト遺跡



F区遠景（西より）



F区1面全景（南より）

キョウダイヤト遺跡 図版13



F区2面全景（東より）

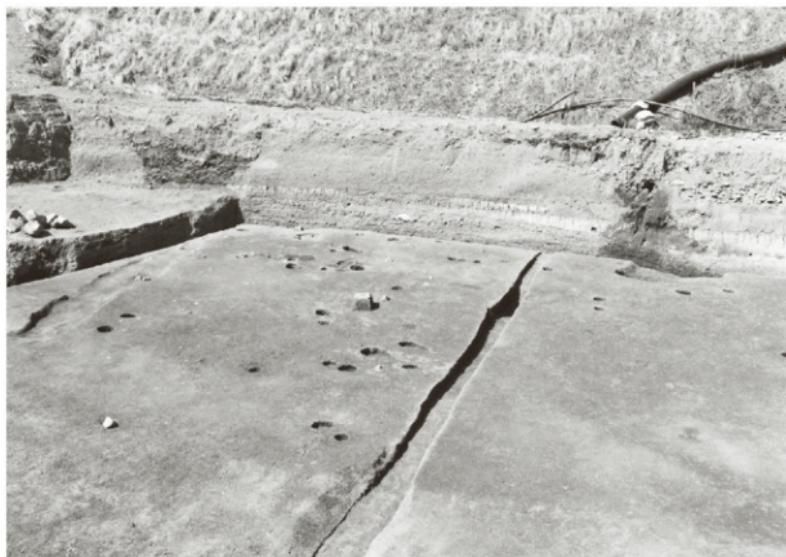


F区3面全景（東より）

図版 14 キョウダイヤト遺跡

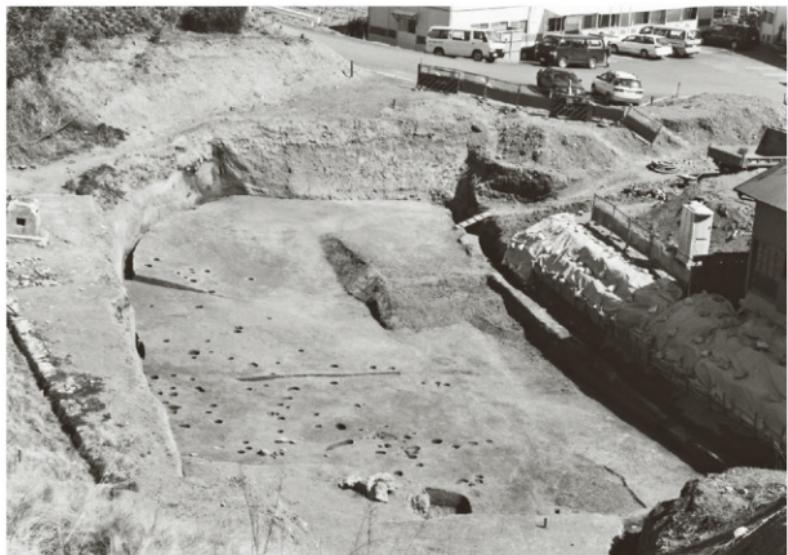


F区3面東側小穴群（南より）



F区3面西側小穴群（南より）

キョウダイヤト遺跡 図版15



F区4面全景（西より）



F区4面中央小穴群（南東より）

図版 16 キョウダイヤト遺跡



F区4面中央小穴群（南より）



SB2402・SK2404 完掘状況（南より）